

斐伊川水系
中海支川域河川整備計画
(付 属 資 料)

平成 1 8 年 5 月

島 根 県

- 目 次 -

ページ

〔 〕 河川整備計画に関する事項

- 1．河川法改正の流れ 付- 1
- 2．改正の趣旨 付- 1
- 3．河川整備の理念 付- 2
- 4．河川整備計画の位置付け 付- 2
- 5．斐伊川水系中海支川域管理区間 付- 3

〔 〕 中海支川域の基礎的事項に関する資料

1．中海支川域の自然環境に関する資料

- (1) 気 象 付- 6
- (2) 地 形 付- 8
- (3) 地 質 付- 9
- (4) 林 相 付-11
- (5) 動植物 付-13

2．中海支川域の社会環境に関する資料

- (1) 人口の推移 付-19
- (2) 産業構造の変遷 付-21
- (3) 地名・河川名の由来 付-24
- (4) 文化財・遺跡 付-26
- (5) 景観と観光 付-37
- (6) 伝統芸能、風習 付-41
- (7) 土地利用等区域図 付-42

3．中海支川域の治水・利水・河川環境に関する資料

- (1) 治水計画の概要 付-44
- (2) 被災写真 付-50
- (3) 治水事業実施状況 付-53
- (4) 河川整備状況 付-55
- (5) 主要地点の流況 付-64
- (6) 水利用 付-67
- (7) 河川環境整備の概要 付-71
- (8) 河川水質 付-73

〔 〕 河川整備計画に関する事項

1．河川法改正の流れ

わが国の河川制度は明治 29 年に旧河川法が制定されて以来、幾度かの改正を経て現在に至っている。特に昭和 39 年に制定された新河川法では水系一貫管理制度の導入など、治水、利水の体系的な制度の整備が図られ、今日の河川行政の規範としての役割を担ってきた。しかしながらその後の社会情勢の変化等により河川の担うべき役割、河川へ求める社会のニーズは大きく変化した。現在では、河川は治水、利水を担うだけでなく、うるおいのある水辺空間や生物の生息・生育環境等として捉えられ、また、地域の個性を活かした川づくりが求められるようになってきた。こうした変化を踏まえて平成 8 年 12 月、河川審議会において「社会経済の変化を踏まえた今後の河川制度のあり方」が提言され、これに基づき旧建設省では新河川法の改正の検討を行い平成 9 年第 140 国会に「河川法を一部改正する法律案」を提出し、同国会において同法案は可決成立し現在の改正河川法が誕生した。

河川法改正の流れの概要を図 - 1.1 に示す。

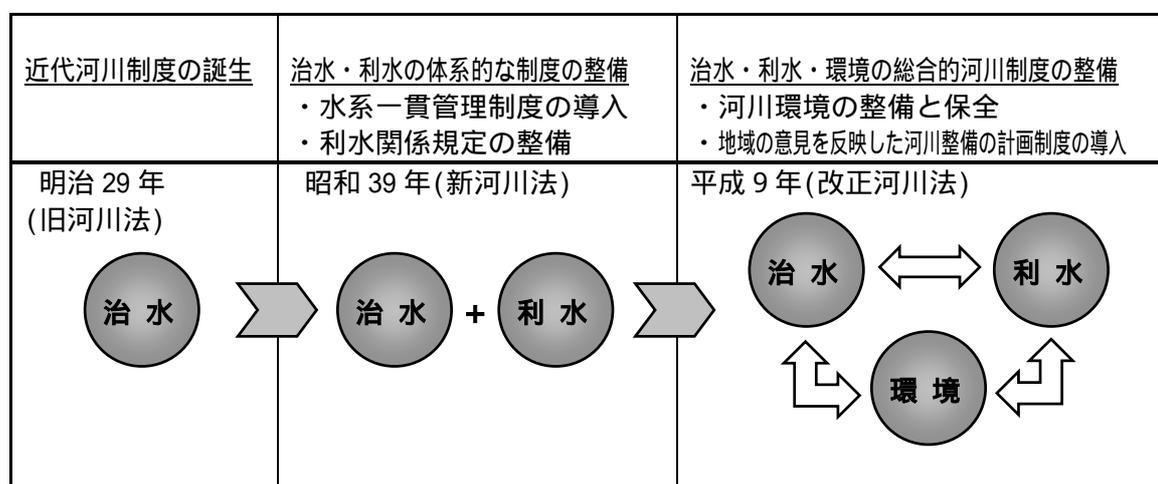


図 - 1.1 河川法改正の流れ

2．改正の趣旨

改正河川法(平成 9 年)において、河川法第 1 条で新河川法(昭和 39 年)にはなかった「河川環境の整備と保全」が掲げられ、河川管理の責務の一つとして新たに位置付けられた。これにより河川法の目的に「河川環境」が明記され、現在の河川事業に求められる環境関連のことが実態に即したものとなることを目指している。また、近年重視されている河川内の生態系の保全、河川の水と緑の環境、河川空間のアメニティといった要素を捉えた川づくりにも対応できるよう目指している。ただし「河川環境の整備と保全」は河川の総合的管理の一内容として追加されたものであり、河川環境だけを特別に重視すべきという趣旨ではない。河川の管理は治水、利水、環境の総合的な河川管理が確保されるように適正に行わなければならない。実際には環境の目的と治水利水目的が相反する場合もあるが、その場合にはそれぞれの目的を対立的に捉えるのではなく、総合的な河川管理が行えるよう個別の河川の河川環境の状況や治水安全度等を踏まえ、地域の意向を反映しつつ適宜判断していかなければならない。

3．河川整備の理念

川づくりは流域の視点に立って人と水との関わりの再構築を図りながら、災害に強く、濁水にも安

【付属資料】

全で平常時を見据えた川づくりを行い、そこに住む人々の地域づくりを支援するものとなる必要がある。また、整備にあたっては自然環境の保全に努め、水と緑の空間を提供する河川環境の創造を図っていく必要もある。そこで「安全で自然豊かなふるさとを目指して」をスローガンに掲げて治水、利水、環境を総合的に捉えた河川整備の推進を目指し、「住みよいまち」、「住みたいまち」の実現に寄与する川づくりに取り組んでいく。また、地域住民との密接な連携を図りながら河川整備に対するニーズを的確に応え、河川の特性和地域の風土・文化等の実情に応じた河川整備を推進することとする。

4．河川整備計画の位置付け

河川整備基本方針(河川法第 16 条)は洪水、高潮等による災害を防止する治水計画、濁水の解消に努め、安定的な水道用水、かんがい用水等を供給する利水計画及び自然豊かな河川の空間利用と保全を目指した環境計画について、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を長期的な計画として定めたものである。

また、河川整備計画(河川法第 16 条の 2)の位置付けとしては、河川整備基本方針に沿った上で今後 20～30 年後を目途とした整備内容を定めたものであり、他の関連計画等との整合を図りながら策定・推進するとともに、具体の「川づくり」の姿を地域に提示しつつ地域の意見を反映しながら策定するものである。

本計画は現時点の課題や河道状況等に基づき策定されたものであり、河道状況や社会環境の変化等に応じ適宜見直しを行うものとする。

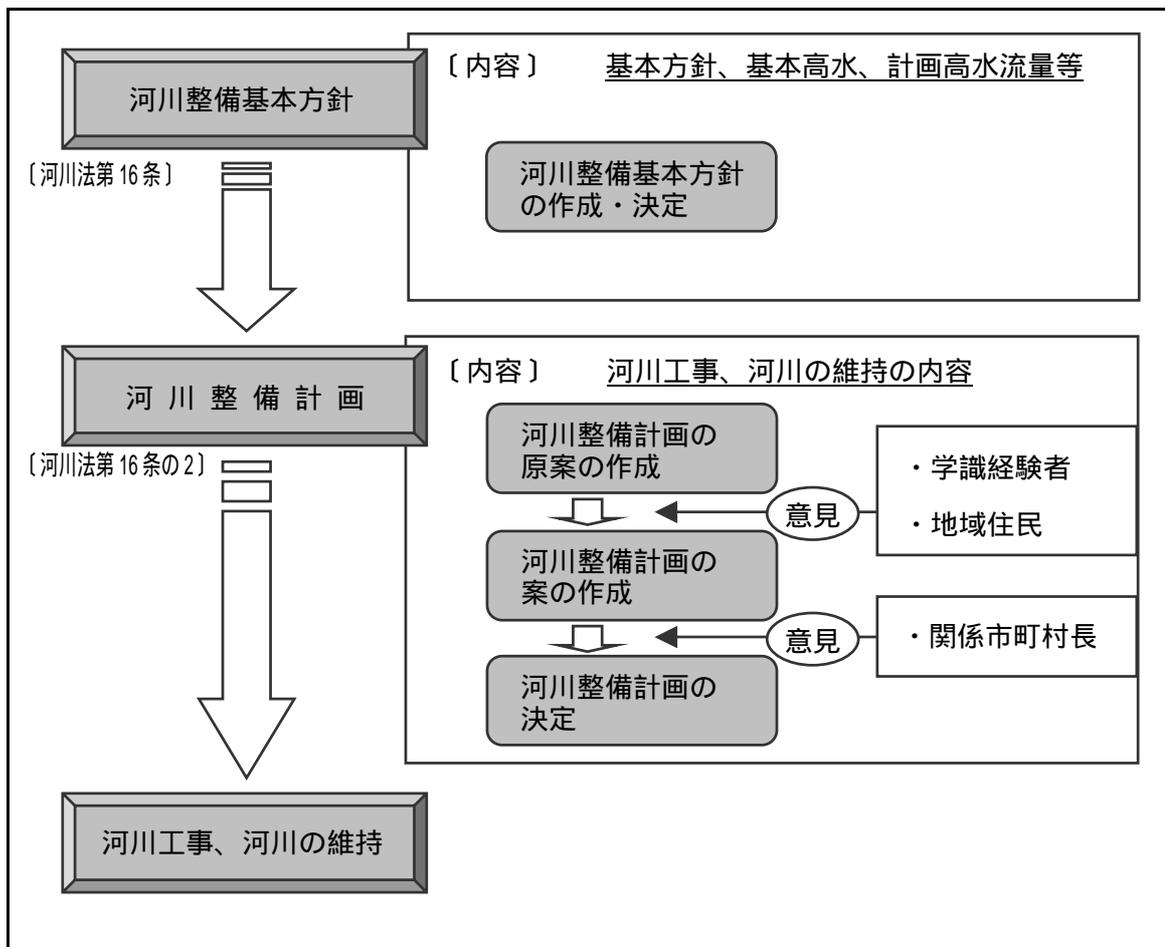


図 - 4.1 河川整備基本方針～整備計画～工事实施までの流れ

5．斐伊川水系中海支川域管理区間

中海支川域の河川管理区間を表 - 5.1 に示す。

表 - 5.1(1) 斐伊川水系中海支川域河川管理区間一覧

河川名	河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	指定年月日	告示番号	上流端 上段(左岸) 下段(右岸)	下流端	備考
御茶屋川	1.60	1.5	S42.5.25	政令第75号	安来市吉佐町字長廻 650 番地先 同上	斐伊川への 合流点	オチャヤ ガワ
木戸川	4.91	6.1	S41.3.28	政令第50号	安来市早田町字橋本 93 番地先 安来市早田町字家尻 165 番地先	斐伊川への 合流点	キドガワ
万歳川	3.00	3.9	S42.5.25	政令第75号	安来市九重町字転労座 589 番地先 安来市九重町字前田 453 番の3 地先	木戸川への 合流点	マンザイ ガワ
伯太川	25.02	24.4	S41.3.28	政令第50号	伯太町大字草野字カケノ前 85 番の2 地先 伯太町大字草野字荒神堀 83 番地先	斐伊川への 合流点	ハクタガ ワ
安田川	6.40	15.3	S41.3.28	政令第50号 政令第64号 変更	伯太町大字安田関字西ノ先 203 番の1 地先 伯太町大字安田関字亀造 101 番地先	伯太川への 合流点	ヤスダガ ワ
蛇喰川	4.50	3.8	S41.3.28 S43.4.8	政令第50号 政令第64号 変更	伯太町大字東母里字オケ峠 1643 番地先 伯太町大字東母里字オケ峠 1436 番地先	安田川への 合流点	ジャバミ ガワ
卯月川	2.58	3.8	S42.5.25	政令第75号	伯太町大字西母里字卯月 699 番の2 地先 伯太町大字西母里字卯月 460 番地先	伯太川への 合流点	ウツキガ ワ
三坂川	1.35	2.7	S42.5.25	政令第75号	伯太町大字井尻字オの神 1359 番地先 伯太町大字井尻字オの神 1135 番地先	伯太川への 合流点	ミサカガ ワ
大平川	2.00	3.1	S43.4.8	政令第64号	伯太町大字井尻字塩焚 318 番地先 伯太町大字井尻字塩焚 301 番地先	伯太川への 合流点	オオヒラ ガワ
福富川	4.30	13.1	S41.3.28 S42.5.25	政令第50号 政令第75号 変更	伯太町大字須山福留字塩坪 195 番地先 伯太町大字須山福留字久根谷尻 271 番地先	伯太川への 合流点	フクトミ ガワ
清水掻川	1.82	3.5	S42.5.25	政令第75号	伯太町大字横屋字藪原 1615 番地先 伯太町大字横屋字大成 658 番の1 地先	伯太川への 合流点	コリカキ ガワ
大谷川	2.45	5.3	S42.5.25	政令第75号	伯太町大字峠之内字大谷 488 番の1 地先 伯太町大字峠之内字大谷 488 番地先	伯太川への 合流点	オオタニ ガワ
小竹川	4.70	11.6	S41.3.28	政令第50号	伯太町大字上小竹字役目屋敷 5 番地先 伯太町大字上小竹字役目屋敷 1018 番地先	伯太川への 合流点	オタケガ ワ
久野谷川	2.48	4.6	S42.5.25	政令第75号	伯太町大字下小竹字門口下 804 番地先 伯太町大字下小竹字サアマ岩 802 番地先	小竹川への 合流点	クノタニ ガワ
吉田川	12.51	34.4	S41.3.28	政令第50号	安来市上吉田町字竹ノ下 1054 番の4 地先 安来市上吉田町字堂ノ前 1044 番の1 地先	斐伊川への 合流点	ヨシダガ ワ
道尻川	1.20	5.0	S42.5.25	政令第75号	安来市利弘町字塚田 290 番地先 安来市利弘町字林谷 288 番の6 地先	吉田川への 合流点	ミチジリ ガワ
庇川	2.60	3.0	S42.5.25 S43.4.8	政令第75号 政令第64号 変更	伯太町大字西母里字西市 1605 番の4 地先 伯太町大字西母里字西市 1593 番の5 地先	吉田川への 合流点	キツガワ
飯梨川	35.92	56.2	S41.3.28	政令第50号	広瀬町大字比田字鈷床 1059 番地先 広瀬町大字比田字鈷床 1141 番の3 地先	斐伊川への 合流点	イイナシ ガワ
新宮川	2.60	2.6	S43.4.8	政令第64号	広瀬町大字富田字萬田尻 229 番地 広瀬町大字富田字山神田 169 番地先	飯梨川への 合流点	シングウ ガワ
後谷川	1.50	1.6	S43.4.8	政令第64号	広瀬町大字富田字猿屋敷 122 番の1 地先 広瀬町大字富田字猿屋敷川向 131 番の1 地先	新宮川への 合流点	ウシロダ ニガワ
塩谷川	2.50	4.4	S42.5.25	政令第75号	広瀬町大字富田字長松谷 2463 番地先 広瀬町大字富田字効山谷下口 2451 番地先	飯梨川への 合流点	シオタニ ガワ

表 - 5.1(2) 斐伊川水系中海支川域河川管理区間一覧

河川名	河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	指定年月日	告示番号	上流端 上段(左岸) 下段(右岸)	下流端	備考
祖父谷川	2.80	4.6	S41.3.28	政令第50号	広瀬町大字祖父谷字岩坪尻1364番地先の岩坪橋	飯梨川への合流点	オジタニガワ
					同上		
山佐川	15.47	38.4	S41.3.28	政令第50号	広瀬町大字奥田原字山口コブ山上ノ切899番地の内1地先	飯梨川への合流点	ヤマサガワ
					広瀬町大字奥田原字山口鍛冶屋床947番の内1地先		
蕪谷川	2.00	2.4	S44.3.20	政令第31号	広瀬町下山佐字カツラ板3156番地先	山佐川への合流点	カブタニガワ
					広瀬町下山佐字ホホツキ谷2951番の4地先		
奥谷川	3.50	8.0	S42.5.25	政令第75号	広瀬町大字下山佐字大谷2130番地先	山佐川への合流点	オクダニガワ
					広瀬町大字下山佐字大谷2161番地先		
高木川	2.00	7.6	S41.3.28	政令第50号	広瀬町大字上山佐字砂子堀1333番地先の砂子堀橋	山佐川への合流点	タカキガワ
					同上		
須谷川	2.60	4.3	S44.3.20	政令第31号	広瀬町下山佐字須谷2617番の1地先	飯梨川への合流点	スタニガワ
					広瀬町下山佐字須谷2612番地先		
宇波川	5.00	21.6	S41.3.28	政令第50号	広瀬町宇波字雲場尻1103番地先の塩瀬橋	飯梨川への合流点	ウナミガワ
			S44.3.20	政令第31号変更			
西の谷川	1.90	4.7	S42.5.25	政令第75号	広瀬町布部字丸山尻川添1376番地先	飯梨川への合流点	ニシノタニガワ
			S44.3.20	政令第31号変更			
樋の廻川	0.52	3.2	S42.5.25	政令第75号	広瀬町布部字柏原2792番地先	飯梨川への合流点	ヒノサコガワ
			S44.3.20	政令第31号変更			
東比田川	7.50	18.9	S41.3.28	政令第50号	広瀬町大字東比田字松本堂の谷尻468番地先	飯梨川への合流点	ヒガシヒダガワ
					広瀬町大字東比田字松本下向谷尻503番地先		
木呂畑川	4.50	15.6	S42.5.25	政令第75号	広瀬町大字西比田字ナメラ谷上2233番地先	飯梨川への合流点	キロハタガワ
					広瀬町大字西比田字茅谷大島谷291番の1地先		
福留川	2.50	8.2	S42.5.25	政令第75号	広瀬町大字西比田字新屋田1267番地先	飯梨川への合流点	フクトメガワ
					広瀬町大字西比田字石田1130番地先		
市原川	1.30	4.0	S44.3.20	政令第31号	広瀬町西比田字長宇根原1090番地先	飯梨川への合流点	イチバラガワ
					広瀬町西比田字篠ヶ原2777番の内第1地先		
黒田川	0.90	1.7	S44.3.20	政令第31号	広瀬町西比田字宮本家ノ前130番地先	飯梨川への合流点	クロダガワ
					広瀬町西比田字川原田375番地先		
田頼川	7.50	5.3	S41.3.28	政令第50号	安来市植田町636番の2地先の神庭落合橋	斐伊川への合流点	タヨリガワ
					同上		
赤川	2.00	0.5	S41.3.28	政令第50号	田頼川からの分派点	田頼川への合流点	アカガワ
					同上		
津田平川	0.80	5.2	S41.3.28	政令第50号	安来市中津町字川西548番の1地先の津田平川3号橋	田頼川への合流点	ツダヒラガワ
					同上		
赤砂川	1.30	0.6	S42.5.25	政令第75号	安来市西松井町字早田161番の2地先	田頼川への合流点	アカサクガワ
					安来市西松井町字狭井山140番の1地先		
久白川	1.20	2.3	S41.3.28	政令第50号	安来市久白町字沢415番の3地先の沢田橋	斐伊川への合流点	クジラガワ
					同上		
日白川	1.20	2.0	S44.3.20	政令第31号	安来市日白町江ノ尻134番の1地先	斐伊川への合流点	ヒジラガワ
					安来市日白町字山崎133番の1地先		
羽入川	2.00	3.0	S42.5.25	政令第75号	東出雲町大字下意東字大根卸2501番地先	斐伊川への合流点	ハニユウガワ
					東出雲町大字下意東字柏木平2469番の1地先		
意東川	4.91	9.7	S41.3.28	政令第50号	京羅木川の合流点	斐伊川への合流点	イトウガワ
					同上		

表 - 5.1(3) 斐伊川水系中海支川域河川管理区間一覧

河川名	河川延長 (km)	流域面積 (km ²)	指定年月日	告示番号	上流端 上段(左岸) 下段(右岸)	下流端	備考
市の原川	2.50	4.1	S41.3.28	政令第50号	東出雲町大字揖屋町字平床 1576 番の続1地先の市の原橋 同上	斐伊川への合流点	イチノハラガワ
意宇川	11.50	33.1	S41.3.28	政令第50号	八雲村大字熊野字才のたわ 1371 番の3地先の県道大東東出雲線管渠 同上	斐伊川への合流点	イウガワ
八幡川	1.10	5.4	S44.3.20	政令第31号	松江市八幡町字的場 273 番地先 松江市八幡町字休免 25 番地先	意宇川への合流点	ヤハタガワ
須田川	2.80	4.9	S41.3.28	政令第50号	東出雲町大字須田字荒石 963 番の2地先の荒石橋 同上	意宇川への合流点	スタガワ
東岩坂川	5.33	9.1	S41.3.28	政令第50号	藤原川の合流点 同上	意宇川への合流点	ヒガシイワサカガワ
川原川	1.20	2.5	S47.4.26	政令第85号	八雲村大字東岩坂字鎌藪 1033 番地先 八雲村大字東岩坂字下川原 1009 番地先	東岩坂川への合流点	カワハラガワ
桑並川	5.75	10.6	S41.3.28 S48.4.12	政令第50号 建設省告示第870号	八雲村大字西岩坂字坂根向 2376 番地先 八雲村大字西岩坂字坂根 2371 番の1地先	意宇川への合流点	クワナミガワ
平原川	2.00	5.9	S42.5.25	政令第75号	八雲村大字平原字下山 253 番内の1地先 八雲村大字平原字総領面 240 番続の1地先	意宇川への合流点	ヒラバラガワ
南川	2.00	3.8	S43.4.8	政令第64号	松江市本庄町字八反坪 1930 番の1地先 松江市本庄町字八反坪 1930 番の2地先	斐伊川への合流点	ミナミガワ
本庄川	2.75	5.3	S41.3.28	政令第50号	松江市上本庄町字乗越 2336 番地先 同上	斐伊川への合流点	ホンジョウガワ
枕木川	1.00	1.6	S44.3.20	政令第31号	松江市邑生町字稲葉作 359 番地先 松江市邑生町字溝狭 276 番地先	斐伊川への合流点	マクラギガワ
長海川	2.00	2.9	S42.5.25	政令第75号	松江市枕木町字柿田 48 番地先 松江市枕木町字堂前 55 番地先	斐伊川への合流点	ナガミガワ

対象区間の地先については、県報告示に記載される地先を記載しています。

【付属資料】

〔 〕 中海支川域の基礎的事項に関する資料

1. 中海支川域の自然環境に関する資料

(1) 気象

島根県東部は寒候期に積雪量が多く、北陸型に近い。

平成8年～平成15年についての年平均気温は、5～27 で寒暖差が大きい。年降水量をみると、松江气象台では1,510mm～2,220mm（10ヶ年平均1,820mm）伯太観測所では1,510mm～2,230mm（10ヶ年平均1,790mm）となっており、月別降水量は梅雨時期の6月および7月と台風時期の9月の降水量が多い。また、4月と10～12月の降水量に比べて、1～3月の降水量は若干多い。これは、降雪があることによると考えられる。

松江气象台および伯太観測所の平成8年～平成15年の気温および降水量を表-1.1～表-1.2に示す。

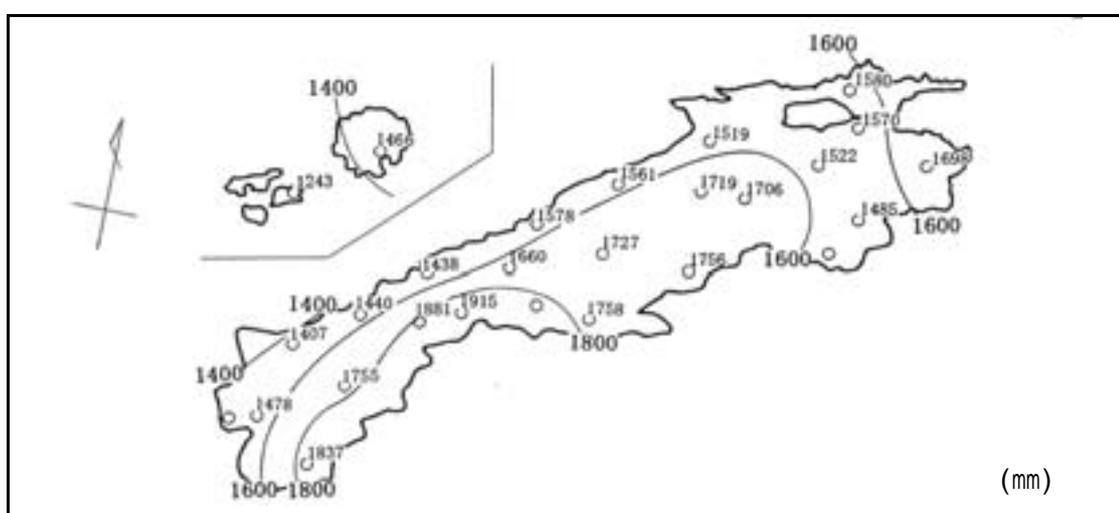


図 - 1.1 平成12年度島根県年間降雨量分布図

出典：「気象年報 松江地方气象台」

表 - 1.1 松江气象台気温 (単位：)

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	10ヶ年平均
1月	4.4	4.3	4.4	4.2	4.7	5.3	5.0	3.7	5.4	3.6	4.5
2月	4.2	4.1	3.3	4.3	6.3	4.5	3.6	5.0	5.4	5.2	4.6
3月	5.9	8.1	7.0	8.7	8.6	8.9	7.5	7.7	9.6	6.8	7.9
4月	14.3	12.8	10.7	12.7	15.2	12.9	12.7	13.2	14.7	13.3	13.3
5月	18.6	16.8	17.5	18.1	19.4	17.9	17.8	18.7	17.6	18.0	18.0
6月	21.1	19.6	21.6	22.3	21.0	21.3	21.6	21.6	22.0	22.1	21.4
7月	27.9	25.4	25.2	25.0	25.8	24.2	27.2	26.6	26.5	22.6	25.6
8月	28.9	27.9	26.5	26.7	27.1	26.8	27.8	27.2	27.1	25.7	27.2
9月	22.8	21.0	21.7	21.5	24.0	24.6	23.3	21.8	22.8	23.3	22.7
10月	17.6	17.2	16.4	16.1	18.9	17.5	17.4	17.5	16.8	16.4	17.2
11月	12.8	10.1	11.6	12.6	12.1	11.7	12.0	11.0	9.2	13.7	11.7
12月	7.7	5.2	6.7	7.5	8.7	6.9	7.3	6.5	6.6	7.4	7.1

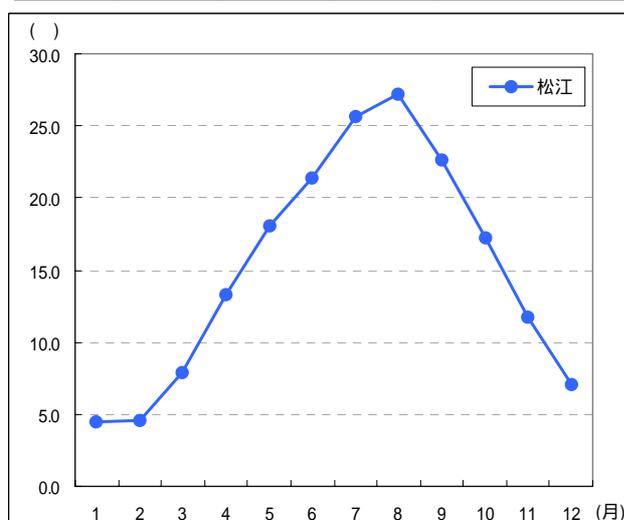
出典：「気象年報 松江地方气象台」

表 - 1.2(1) 松江气象台降水量 (単位: mm)

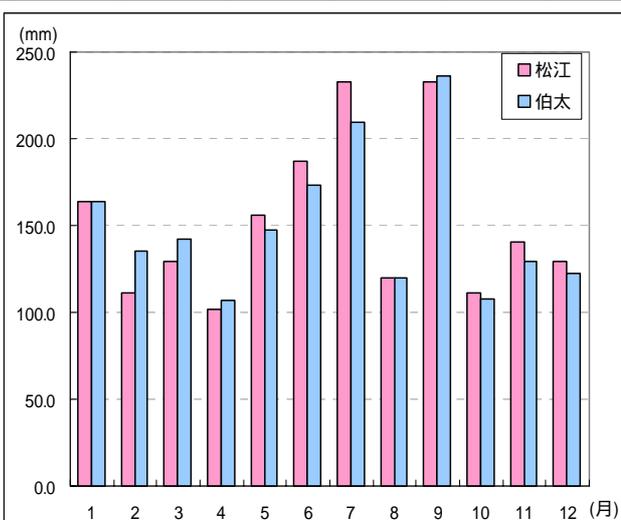
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	10ヶ年平均
1月	187.0	194.0	94.0	126.5	211.5	95.5	160.0	153.0	235.0	179.5	163.6
2月	179.0	133.0	98.0	84.5	111.0	124.5	91.0	121.0	71.0	100.0	111.3
3月	103.0	113.5	172.0	101.0	83.5	146.0	125.5	130.0	160.5	158.0	129.3
4月	73.5	83.0	38.5	121.5	152.5	89.0	106.5	42.0	89.0	223.0	101.9
5月	94.5	184.5	88.0	215.0	216.0	143.0	73.5	183.0	150.5	212.0	156.0
6月	139.5	62.0	363.0	欠測	132.0	372.5	125.0	322.0	72.0	93.5	186.8
7月	8.0	448.0	110.0	596.5	183.5	126.5	74.5	104.5	230.0	443.0	232.5
8月	95.0	127.0	101.0	241.0	136.5	78.0	26.5	132.0	56.5	207.0	120.1
9月	364.0	109.5	116.5	394.0	241.0	152.5	407.0	285.5	89.5	168.0	232.8
10月	100.5	59.5	86.0	61.0	222.5	75.5	111.0	191.5	158.0	49.0	111.5
11月	55.5	96.5	135.0	158.5	73.0	140.5	198.5	188.5	177.0	181.5	140.5
12月	106.0	173.0	107.5	88.0	37.5	143.0	68.5	208.0	150.5	209.0	129.1
合計	1505.5	1783.5	1509.5	2187.5	1800.5	1686.5	1567.5	2061.0	1639.5	2223.5	1815.1

表 - 1.2(2) 伯太観測所降水量 (単位: mm)

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	10ヶ年平均
1月	170.0	202.0	107.0	123.0	218.0	63.0	155.0	148.0	235.0	219.0	164.0
2月	193.0	150.0	140.0	119.0	140.0	149.0	150.0	134.0	86.0	94.0	135.5
3月	98.0	139.0	164.0	103.0	79.0	185.0	130.0	164.0	182.0	176.0	142.0
4月	70.0	91.0	42.0	146.0	187.0	122.0	88.0	51.0	69.0	199.0	106.5
5月	91.0	221.0	103.0	181.0	152.0	119.0	94.0	181.0	162.0	174.0	147.8
6月	75.0	62.0	299.0	235.0	159.0	341.0	146.0	237.0	90.0	88.0	173.2
7月	15.0	395.0	111.0	508.0	217.0	153.0	43.0	180.0	159.0	310.0	209.1
8月	73.0	120.0	126.0	109.0	88.0	78.0	99.0	144.0	56.0	301.0	119.4
9月	433.0	100.0	169.0	385.0	227.0	153.0	385.0	211.0	128.0	173.0	236.4
10月	117.0	43.0	98.0	61.0	254.0	54.0	149.0	187.0	80.0	33.0	107.6
11月	67.0	98.0	110.0	150.0	48.0	173.0	211.0	142.0	130.0	166.0	129.5
12月	109.0	198.0	103.0	111.0	39.0	136.0	48.0	158.0	147.0	174.0	122.3
合計	1511.0	1819.0	1572.0	2231.0	1808.0	1726.0	1698.0	1937.0	1524.0	2107.0	1793.3



10ヶ年平均気温



10ヶ年平均降水量

出典: 「気象年報 松江地方气象台」

(2) 地 形

中海の周辺地域は、南部の中国山系山麓の小起伏山地と北部の島根半島山系にはさまれた低地帯からなっており、飯梨川と伯太川沿いは扇状地性低地及び三角州性低地が形成されている。また、対象区域の南部は^{さんくんざん}三郡山、^{たまみねざん}玉峰山、鷹入山などの標高 700～800m 級の山地からなり、^{ひのがわ}日野川水系の^{いんががわ}印賀川との分水嶺となっている。対象区域の地形を図 - 1.2 に示す。



図 - 1.2 地 勢 図(S=1:200,000)

(3) 地 質

対象区域の地質は大部分が古生代花崗岩類からなるが、この花崗岩類の表層は著しい風化作用を受けマサ状態となっている。

対象区域の地質を図 - 1.3 に示す。

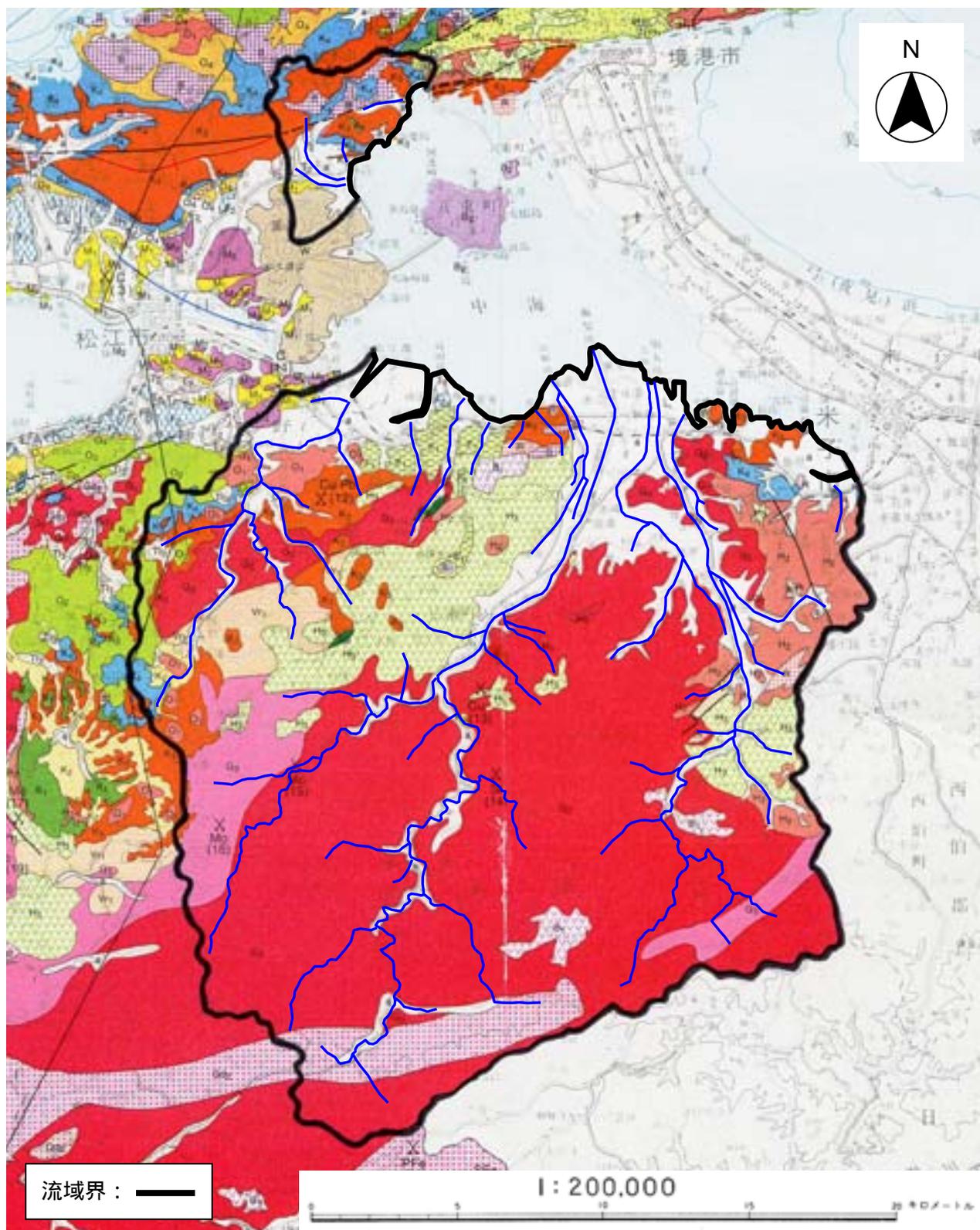
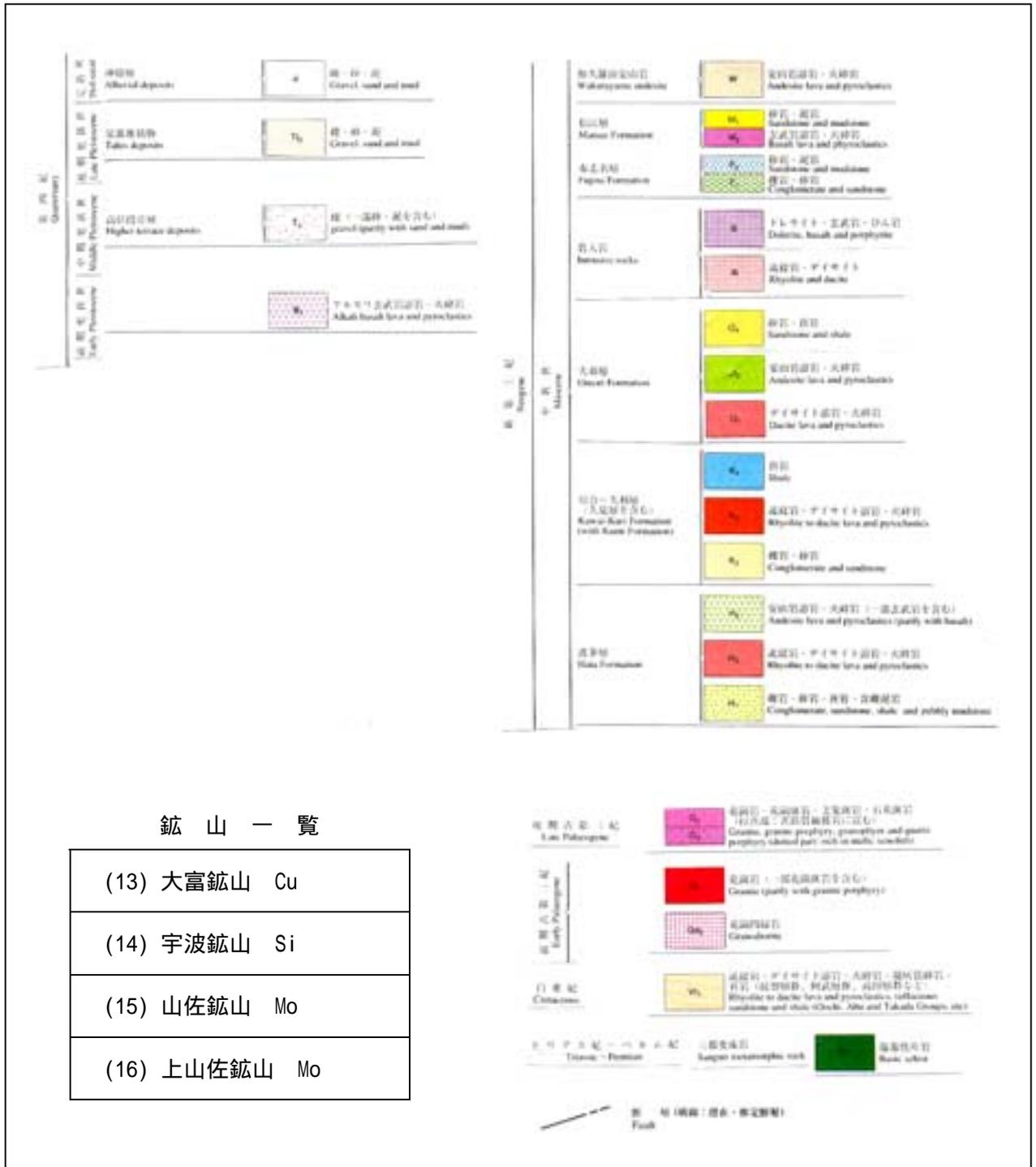


図 - 1.3 地 質 図(S=1:200,000)



出典：「新編 島根県地質図 島根県地質図編集委員会 1997」

図 - 1.3 地質図凡例

(4) 林 相

対象区域の林相は、コナラ群落、シイ・カシ萌芽林やコバノミツバツツジ - アカマツ群集といった代償植生が広く分布し、アカマツ・スギ・ヒノキが植林されている。

対象区域の林相を図 - 1.4 に示す。

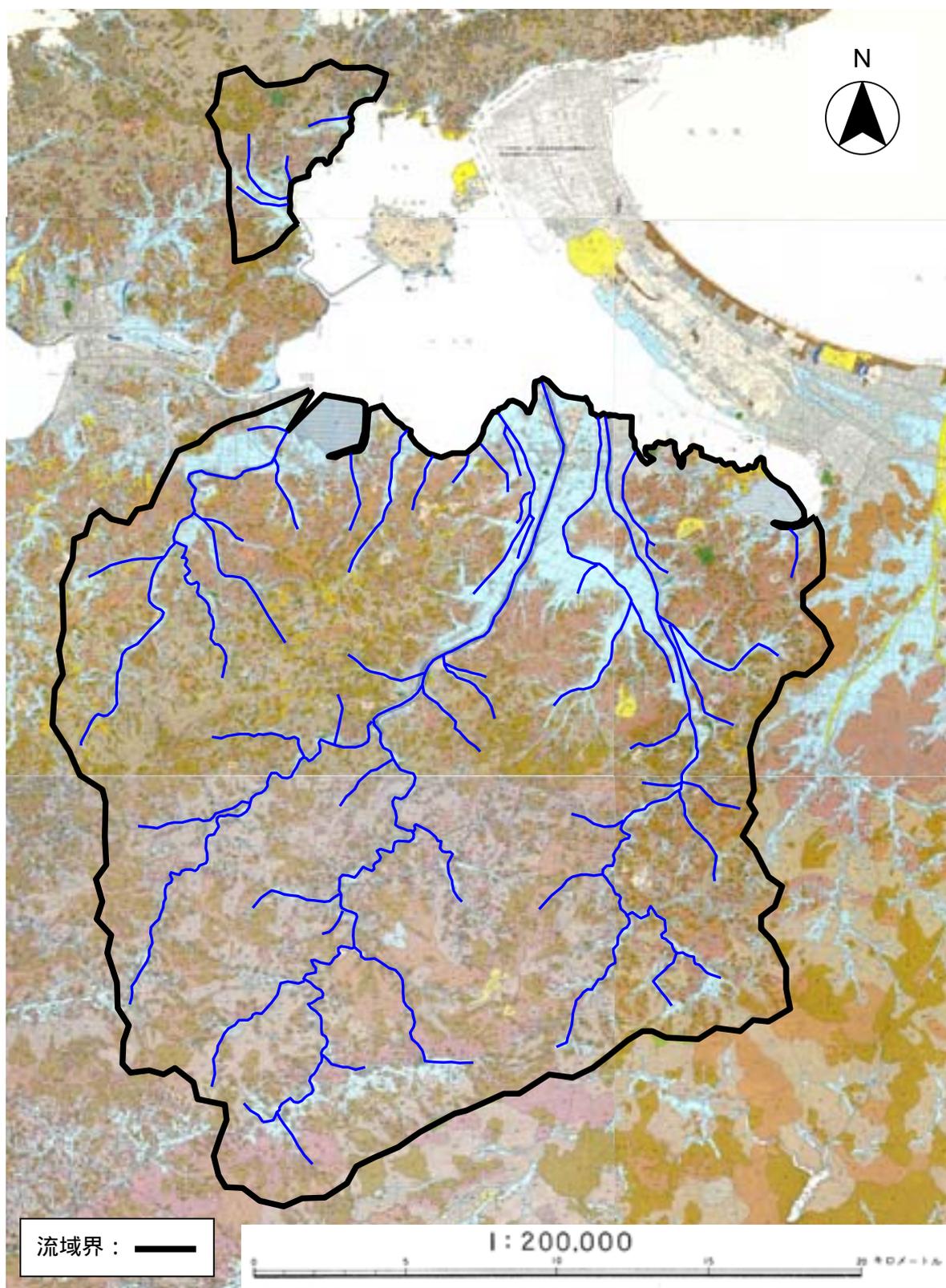


図 - 1.4 現存植生図(S=1:200,000)

V. ブナクラス域代替植生
Substitutional Communities in Fagetea crenatae Region

-  ブリーミズナツ群落
Castanea cretacea-Quercus monspeliensis var. *erosenerrata* community
-  エシキウツボ-ノリウツボ群落
Wickiela decora-Hydorhiza poliolata community
-  アキツツ群落
Pinus densiflora community
-  マサキ群落
Sasa grassland
-  ススキ群落
Miscanthus sinensis
-  フタノキ-アマイナゴ群落 (現形)
Ribes crataegifolium-Aralia elata community
-  アキトゲ-アミダナ群落
Carpinus latifolia-Carpinus sakboobii community

VI. ヤブツバキクラス域自然植生
Natural Vegetation in Camellieae japonicae Region

-  ヒメアホキ-ウツクシゴシ群落
Azucba-Cyclobalanopsis
-  ヤナギ群落
Zelkova serrata community
-  シラカシ群落
Quercus arborescens
-  スズリ群落
Castanopsis cuspidata var. *vieboldii* community
-  ヤブツバキ-スズリ群落
Aralia-Castanopsis sieboldii
-  イノア-アブ群落
Polystichum-Machilium shanberii
-  ヤマキ-トベナ群落
Eucyrtus-Pinnaspertum tubifera
-  オムヤブツバキ-マヒク群落
Cryptomeria-Liorea japonicae
-  ムツシアブ-アブ群落
Araucaria cuspidata-Nachia theobaldii community
-  アキツツ群落
Pinus densiflora community
-  ナセツツ群落
Pinus thunbergii community
-  キマツ-ハシラ群落
Alnus serrulata-like community

VII. ヤブツバキクラス域代替植生
Substitutional Communities in Camellieae japonicae Region

-  コナラ群落
Quercus serrata community
-  アキツツ-コナラ群落
Pinus densiflora-Quercus serrata community
-  シイ-カシ群落
Castanopsis, Quercus copice forest
-  北沢群落
Plant communities in clear-cut area
-  ササ-アブ群落
Bamboo community
-  ススキ群落
Miscanthus sinensis
-  レイ群落
Eriosema japonicum
-  アキツツ群落
Araucaria procera community
-  アキツツ群落
Pinus densiflora community
-  コナラ-アミダナ群落
Quercus serrata-Carpinus latifolia
-  ナセツツ群落
Pinus thunbergii community
-  ナセツツ群落 (現形)
Pauciflora lobata community

III. 河辺・湿原・塩田類・砂丘植生(各クラス域共通)
River-side, Moor, Salt marsh and Dune

-  ヨシガサ群落
Phragmites
-  オヤシ群落
Miscanthum sacchariflori
-  ツルシ群落
Phragmites japonica
-  ヲサマツタケス・セルムシノアシ群落
Lomatium, Phragmites
-  砂丘植生
Sand dune vegetation

IV. 植林・耕作地植生(各クラス域共通)
Plantation and Cultural Land

-  アキツツ植林
Pinus densiflora plantation
-  フクキ植林
Pinus fukuharae plantation
-  スギ-ヒノキ-ササ群落 (現形)
Cryptomeria japonica, Chamaecyparis obtusa, Chamaecyparis plectrantha
-  スギ-ヒノキ植林 (現形)
Cryptomeria japonica, Chamaecyparis obtusa plantation
-  スギ-ヒノキ-ササ群落 (現形)
Cryptomeria japonica, Chamaecyparis obtusa, Chamaecyparis plectrantha plantation
-  広葉樹混交林
Deciduous broad-leaved plantation
-  赤松植林 (現形)
Pinus densata, Pinus densata forest
-  ヒノキ植林 (現形)
Pinus koraiensis, Pinus koraiensis forest
-  雑木植林
Evergreen orchard
-  雑木植林
Deciduous orchard
-  桑園
Mulberry garden
-  茶園
Thea sinensis garden
-  菜園
Nursery garden
-  畑地雑草群落 (現形)
Field weed communities
-  畑地 (現形)
Field
-  畑地雑草群落 (現形)
Field weed communities
-  畑地 (現形)
Field
-  畑地雑草群落 (現形)
Field weed communities
-  畑地 (現形)
Field
-  畑地雑草群落 (現形)
Field weed communities
-  畑地 (現形)
Field

V. その他
Others

-  市街地
Urban district with a low tree
-  市街地-住宅地
Urban and residential district with more trees
-  工場地
Factory and industrial site
-  公園地
Land constructed for residence and factory
-  防風林
Enclosed forest
-  河川
Open water
-  自然林
Natural forest land

出典：

「第2回自然環境保全基礎調査植生調査 1/5万現存植生図(美保関, 境港, 多里) 環境省自然環境局生物多様性センター」
 「第3回自然環境保全基礎調査植生調査 1/5万現存植生図(松江, 米子, 根雨) 環境省自然環境局生物多様性センター」

図 - 1.4 現存植生図 凡例

(5) 動植物

中海支川域は、北には島根半島山系脊梁部を有し貴重な動植物がみられる。枕木山は古刹華蔵寺の寺域ほかまとまったスダジイ・アカガシ林が保全され、ヒメハルゼミの良好な生息域となっている。

南は中海に接し、東西 25km、南北 27km にわたる区域があり、中国山地から北斜面を流下する河川や広大な水田地帯、湖沼中海に接する沿岸域等多様な環境を有している。

中国山地北側の脊梁山地帯にクリ・ミズナラ林ほか良好な森林植生があるためハクマ、サシバ、ハヤブサ、ゴギ、コオイムシ等貴重な動植物が生息、生育している。

1) 指定天然記念物等

中海支川域における国指定の天然記念物は中国山地～中山間地域河川にオオサンショウウオ（両生類）が生息する。鳥類では飯梨川河口付近に稀にナベヅル、マナヅル、マガン、ヒシクイ等、極稀にコウノトリが飛来している。

次に、中海支川域で確認された環境省レッドデータブック及びレッドリスト^(注)に記載される動植物を表 - 1.3 に示す。



国指定天然記念物・マナヅル
(飯梨川河口付近)



国指定特別天然記念物・オオサンショウウオ
(布部ダム上流・川路橋付近)

表 - 1.3 環境省レッドデータブック・レッドリストに記載される各動植物

哺乳類	収集資料による該当種なし
鳥類	ハチクマ(NT)、ハヤブサ(VU)、ブッポウソウ(VU)、クロツラヘラサギ(CR)、ヒシクイ(VU)、ミサゴ(NT)、オジロウシ(EN)、ヘラサギ(EN)、コアジサシ(VU)、ヤイロチョウ(EN)、オオタカ(VU)、マガン(NT)、ツクシガモ(EN)、アカツクシガモ(DD)、トモエガモ(VU)、ハイタカ(NT)、チュウヒ(VU)、サンショウクイ(VU)、ホウロクシギ(VU)、セイタカシギ(EN)、アカアシシギ(VU)、ツバメチドリ(VU)、ヘラサギ(DD)、コウノトリ(CR)、コクガン(VU)、ナベヅル(VU)、マナヅル(VU)、ズグロカモメ(VU)、チュウサギ(NT)、サカツラガン(DD)、シジュウカラガン(CR)、カラシラサギ(DD)
両生類	オオサンショウウオ(NT)
汽水・淡水魚類	ゴギ(LP)、イトヨ(LP)、アカザ(VU)、スナヤツメ(VU)、メダカ(VU)
昆虫類	コガタノゲンゴロウ(CR+EN)、マルコガタノゲンゴロウ(CR+EN)、シルピアシジミ本土亜種(CR+EN)、ウラナミジャノメ本土亜種(VU)、キイロヤマトンボ(VU)、タガメ(VU)、コオイムシ(NT)、ギフチョウ(VU)、ツマグロキチョウ(VU)、オオムラサキ(NT)
陸・淡水産貝類	ヤママメタニシ(VU)
維管束植物	ヘイケイヌワラビ(EN)、イトクズモ(VU)、ミズニラ(VU)、リュウノヒゲモ(VU)、カワツルモ(EN)、ヒメシャガ(NT)、トケンラン(EN)、オオクグ(VU)、コウヤミズキ(NT)
蘚苔類	オオミズゴケ(EN)、ウキゴケ(EN)
絶滅危惧 A類(CR)	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
絶滅危惧 B類(EN)	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。(A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
絶滅危惧類(VU)	絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧(NT)	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

(注) 日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。レッドリストに掲載された種について生息状況等を取りまとめ編さんしたものがレッドデータブック。レッドリストは生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し選定したもので、規制等の法律上の効果を持つものではないが、絶滅のおそれのある野生生物の保護を進めていくための基礎的な資料として広く活用されること(1991)。」



アカアシシギ(飯梨川河口)

提供：川上 章氏

2) 島根県の保護上重要な野生動植物

平成9年3月に刊行された「しまねレッドデータブック」が、その後環境省のカテゴリー区分の見直し及びその後の貴重種情報の知見集積に伴い、平成16年3月に全面改訂された。「改訂しまねレッドデータブック」に記載される中海支川域で確認された各動植物の一覧を表-1.4に示す。

表-1.4(1) 改訂しまねレッドデータブックに記載される各動植物(1/2)

動物	哺乳類	キクガシラコウモリ (NT) モモジロコウモリ (NT) ユビナガコウモリ (NT) ニホンイタチ (NT)
	鳥類	ハチクマ (CR+EN) オオタカ (CR+EN) サシバ (CR+EN) ハヤブサ (CR+EN) ブッポウソウ (CR+EN) クロツラヘラサギ (VU) ヒシクイ (VU) オオハクチョウ (VU) アカツクシガモ (VU) ミサゴ (VU) オジロワシ (VU) クイナ (VU) ヒクイナ (VU) コアジサシ (VU) オオコノハズク (VU) サンショウクイ (VU) アカショウビン (VU) ヤイロチョウ (VU) クロサギ (NT) マガン (NT) コハクチョウ (NT) ツクシガモ (NT) オシドリ (NT) トモエガモ (NT) ツミ (NT) ハイタカ (NT) ハイイロチュウヒ (NT) チュウヒ (NT) チョウゲンボウ (NT) シロチドリ (NT) ハマシギ (NT) ホウロクシギ (NT) セイタカシギ (NT) コミミズク (NT) アオバズク (NT) フクロウ (NT) ヤマセミ (NT) サンコウチョウ (NT) ホシムクドリ (NT) ヘラサギ (DD) コウノトリ (DD) コクガン (DD) コチョウゲンボウ (DD) ナベヅル (DD) マナヅル (DD) ズグロカモメ (DD) ノビタキ (DD) コヨシキリ (DD)
	爬虫類	ジムグリ (NT) ヒバカリ (NT) シロマダラ (NT)
	両生類	オオサンショウウオ (VU) ヒダサンショウウオ (NT) ブチサンショウウオ (NT) タゴガエル (NT) モリアオガエル (NT) カジカガエル (NT)
	汽水・淡水魚類	ゴギ (CR+EN) カワヤツメ (VU) スナヤツメ (VU) イトヨ (VU) カジカ (VU) アカザ (NT) アユカケ (NT) スジシマドジョウ小型種点小型 (DD)
	昆虫類	コオイムシ (CR+EN) マルコガタノゲンゴロウ (CR+EN) コガタノゲンゴロウ (CR+EN) オオハナカミキリ (CR+EN) ウラナミジャノメ本土亜種 (CR+EN) ハネビロエゾトンボ (VU) キイロヤマトンボ (VU) タガメ (VU) ギフチョウ (VU) ジャコウアゲハ (VU) ツマグロキチョウ (VU) ヒロオビミドリシジミ (VU) ウラジロミドリシジミ (VU) シルビアシジミ本土亜種 (VU) ウラギンスジヒョウモン (VU) クモガタヒョウモン (VU) メスグロヒョウモン (VU) モートンイトトンボ (NT) ホソミイトトンボ (NT) アオハダトンボ (NT) オオカワトンボ (NT) ムカシトンボ (NT) ムカシヤンマ (NT) キイロサナエ (NT) コサナエ (NT) タベサナエ (NT) クロサナエ (NT) アオサナエ (NT) サラサヤンマ (NT) アオヤンマ (NT) カトリヤンマ (NT) ルリボシヤンマ (NT) オオルリボシヤンマ (NT) マルタンヤンマ (NT) トラフトンボ (NT) ハッチョウトンボ (NT) タイリクアカネ (NT) ミヤマアカネ (NT) コノシメトンボ (NT) ヒメアカネ (NT) キトンボ (NT) クツワムシ (NT) ヒメハルゼミ (NT) エゾゼミ (NT) コシロオビドクガ (NT) クビグロケンモン (NT) アミメキシタバ (NT) ウラゴマダラシジミ (NT) ウスイロオナガシジミ (NT) オオムラサキ (NT) カヤキリ (DD) セグロイナゴ (DD) ミツノエンマコガネ (DD) ヤマトタマムシ (DD) アオマダラタマムシ (DD) ヒメボタル (DD) ダイセンセダカコブヤハズカミキリ (DD) ミツギリゾウムシ (DD) コシロシタバ (DD) オナガアゲハ (DD) オオウラギンスジヒョウモン (DD) オオチャバネセセリ (DD)

表 - 1.4(2) 改訂しまねレッドデータブックに記載される各動植物 (2/2)

動物	クモ類	収集資料による該当種なし
	甲殻類	ニシカワハヤシワラジムシ (DD)
	陸・淡水産貝類	オオゴマガイ (NT) ヤママメタニシ (NT) モリヤギセル (NT) サイゴクピロウドマイマイ (DD)
	サンゴ類	収集資料による該当種なし
	淡水海綿類	収集資料による該当種なし
植物	維管束植物	ヘイケイヌワラビ (CR+EN) ウ斯巴サイシン (CR+EN) ヨロイグサ (CR+EN) イトクズモ (CR+EN) ミズニラ (VU) ヒロハハナヤスリ (VU) ウチワゴケ (VU) サンヨウブシ (VU) リュウノヒゲモ (VU) カワツルモ (VU) ヒメシャガ (VU) トウササクサ (VU) マシカクイ (VU) アンペライ (VU) ナツエビネ (VU) トケンラン (VU) シシラン (NT) タカサゴキジノオ (NT) シノブ (NT) コウヤミズキ (NT) ホウライカズラ (NT) ヤマトミクリ (NT) オオクグ (NT) ヒトモトススキ (NT) ホナガクマヤナギ (NT)
	蘚苔類	オオミズゴケ (CR+EN) ウキゴケ (CR+EN)
	藻類	収集資料による該当種なし
	地衣類	収集資料による該当種なし
	菌類	収集資料による該当種なし
<p>絶滅危惧 類 (CR+EN) : 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p> <p>絶滅危惧 類 (VU) : 絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p> <p>準絶滅危惧 (NT) : 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p> <p>情報不足 (DD) : 評価するだけの情報が不足している種</p>		



アオサナエ
(飯梨川・広瀬)

提供：祖田 周氏

3) その他

「河川調査報告書：島根県」により漁獲試験、文献資料や聞き取りで生息が確認されている飯梨川、伯太川水系の魚類を表 - 1.5(1)に示す。

また、「平成 10 年度 荒廃砂防 渓流環境整備計画策定業務委託 報告書」で、生息・生育が確認された飯梨川と伯太川の動植物を表 - 1.5(2)に示す。

表 - 1.5(1) 河川調査報告書の調査により生息が確認された魚類

<p>魚 類</p>	<p>・カワヤツメ ・ウナギ ・ヤマメ ・アマゴ ・ワカサギ ・アユ ・ウグイ ・タカハヤ ・カワムツ ・オイカワ ・カマツカ ・タイリクバラタナゴ ・ヤリタナゴ ・コイ ・ギンブナ ・ドジョウ ・シマドジョウ ・アカザ ・マナマス ・サヨリ ・クルマサヨリ ・メダカ ・イトヨ(降海型) ・カマキリ ・カジカ ・スズキ ・ブルーギル ・オオクチバス ・クロダイ ・カムルチー ・コチ ・ボラ ・メナダ ・セスジボラ ・ドンコ ・シマヨシノボリ ・トウヨシノボリ ・カワヨシノボリ</p>
<p>位 置 図 凡 例 : 調査地点</p>	

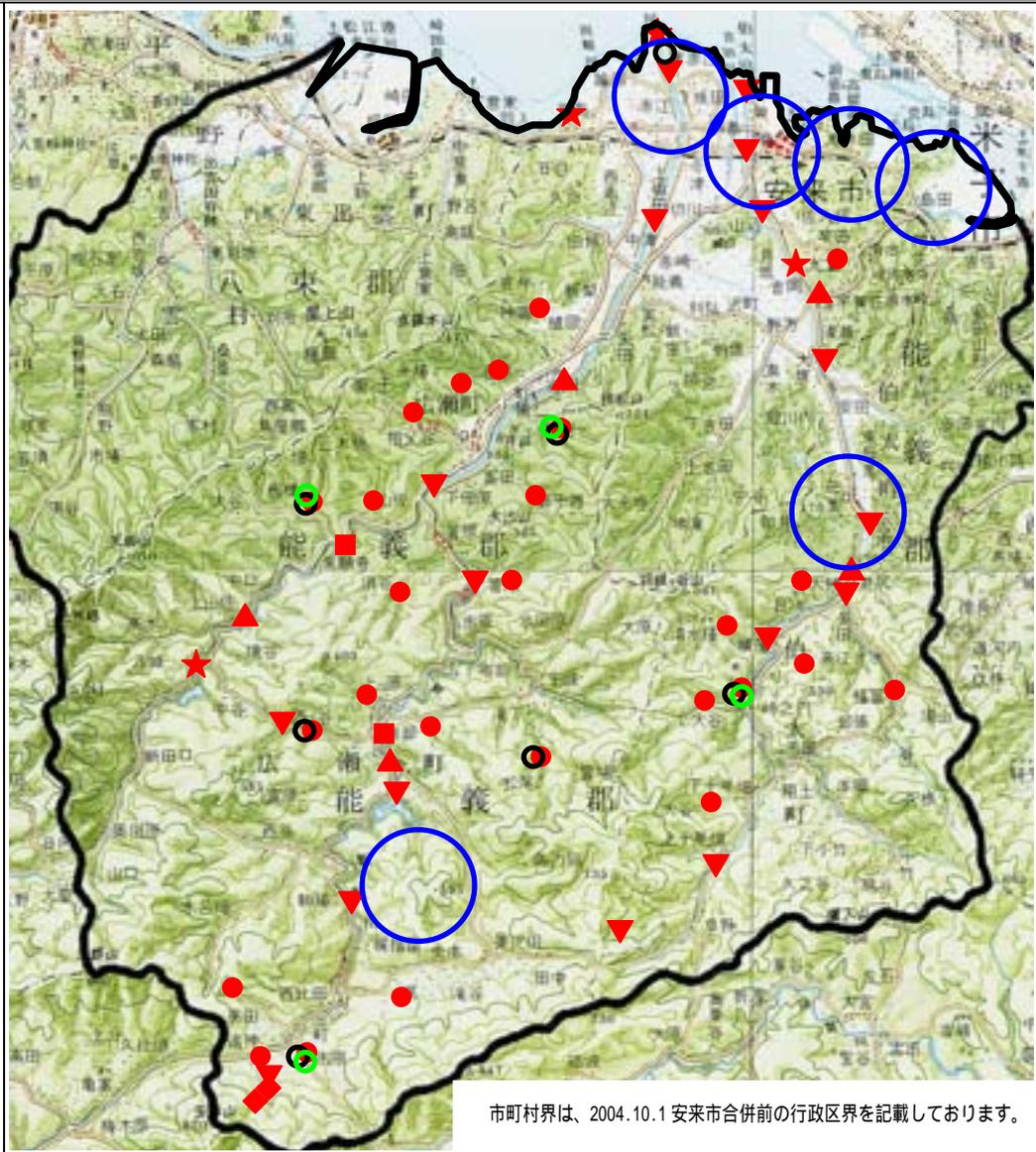
出典：「河川調査報告書：島根県（1991）」

表 - 1.5(2) 溪流環境整備計画報告書で生息生育が確認された動植物

魚類	・スナヤツメ・カワヤツメ・アカエイ・ウナギ・マイワシ・サッパ・コノシロ・カタクチイワシ ・コイ・ギンブナ・ヤリタナゴ・タイリクバラタナゴ・オイカワ・カワムツ・タカハヤ・ウグイ ・モツゴ・ホンモロコ・カマツカ・ドジョウ・シマドジョウ・ナマズ・アカザ・ワカサギ・アユ ・ゴギ・ヤマメ・アマゴ・ニジマス・トウゴロイワシ・メダカ・クルマサヨリ・サヨリ ・イトヨ・クロソイ・コチ・カマキリ・カジカ・ウツセミカジカ・スズキ・シマイサキ・ヒラメ ・ブルーギル・ブラックバス・シロギス・ヒイラギ・クロダイ・ウミタナゴ・ボラ・セスジボラ ・メナダ・ギンボ・ネズミゴチ・ドンコ・スミウキゴリ・ウキゴリ・ビリンゴ・ウロハゼ ・マハゼ・アシシロハゼ・ヒメハゼ・ゴクラクハゼ・シマヨシノボリ・トウヨシノボリ・クサフゲ ・カワヨシノボリ・ヨシノボリ類・ヌマチチブ・チチブ・アカカマス・カムルチー・イシガレイ
両生・爬虫類	・オオサンショウウオ・アマガエル・タゴガエル・ヤマアカガエル・トノサマガエル・ヌマガエル ・ウシガエル・ツチガエル・シュレーゲルアオガエル・トカゲ・カナヘビ・シマヘビ・ジムグリ ・アオダイショウ・ヒバカリ・マムシ
植物	・ミヤコミズ・ミヤコアオイ・アマクサシダ・アキノハハコグサ・オオクグ・ヤマトミクリ ・ホウライカズラ・ヒトモトスキ・オオシシウド・コウヤミズキ・ヘイケイヌワラビ

位置図

- 凡例
- ：魚類
 - ：魚類
 - ：魚類
 - ：魚類
 - ：魚類
 - ：魚類
 - ：両生・爬虫類
 - ：植物
 - ：植物



市町村界は、2004.10.1安来市合併前の行政区界を記載しております。

《凡例の文献》

- 魚類 ... 「水と緑の溪流づくり調査 広瀬土木 1996」
- 魚類 ... 「斐伊川水系の魚介類 建設省中国地方建設局出雲工事事務所 2000」
- 魚類 ... 「飯梨川・山佐川生態系現況調査 広瀬土木 1994」
- 魚類 ... 「平成2・3年度 河川水辺の国勢調査 建設省中国地方建設局出雲工事事務所 1993」
- 魚類 ... 「河川調査報告書 島根県 1991」
- 魚類 ... 「島根県動植物分布図 第2回自然環境保全基礎調査 環境庁 1981」
- 両生・爬虫類 ... 「水と緑の溪流づくり調査 広瀬土木 1996」
- 植物 ... 「斐伊川水系の小動物 建設省中国地方建設局出雲工事事務所 1995」
- 植物 ... 「水と緑の溪流づくり調査 広瀬土木 1996」
- 植物 ... 「しまねレッドデータブック 島根県 1997」

出典：「平成10年度 荒廃砂防 溪流環境整備計画策定業務委託 報告書」を基に最近の刊行文献から一部加筆した。

2. 中海支川域の社会環境に関する資料

(1) 人口の推移

平成2年、平成7年、平成12年の国勢調査によると対象区域市町村の人口および世帯数の推移は表-2.1のとおりとなっている。

島根県全体では人口は緩やかな減少傾向にあり、世帯数は緩やかな増加傾向にある。

人口を見ると、松江市と東出雲町および八雲村では、増加傾向にあるが、安来市、広瀬町および伯太町では減少傾向にある。

世帯数を見ると、横ばい傾向の伯太町を除き、増加傾向を示す。人口の減少に対して世帯数の増加がみられることは、核家族化や単身世帯の増加といった生活様式の変化が背景にあると考えられる。

人口・世帯数の推移を図-2.1に示す。

表-2.1 圏域内市町村の人口・世帯数

年次 項目 県・市町村	平成2年		平成7年		平成12年		人口増加率	
	人口 (人)	世帯 (世帯)	人口 (人)	世帯 (世帯)	人口 (人)	世帯 (世帯)	H2～H7	H7～H12
島根県	781,021	236,110	771,441	246,476	761,503	257,530	-1.2%	-1.3%
松江市	142,956	48,743	147,416	53,686	152,616	58,752	3.1%	3.5%
安来市	32,439	8,487	31,637	8,695	30,520	8,789	-2.5%	-3.5%
東出雲町	11,448	3,144	11,365	3,330	12,275	3,745	-0.7%	8.0%
八雲村	6,248	1,554	6,694	1,782	6,844	1,928	7.1%	2.2%
広瀬町	10,121	2,585	9,613	2,556	9,205	2,589	-5.0%	-4.2%
伯太町	5,932	1,416	5,684	1,433	5,530	1,429	-4.2%	-2.7%

市町村は2004.10.1安来市合併前の行政区分としております。

出典：「国勢調査報告 総務省統計局（総務庁統計局）」

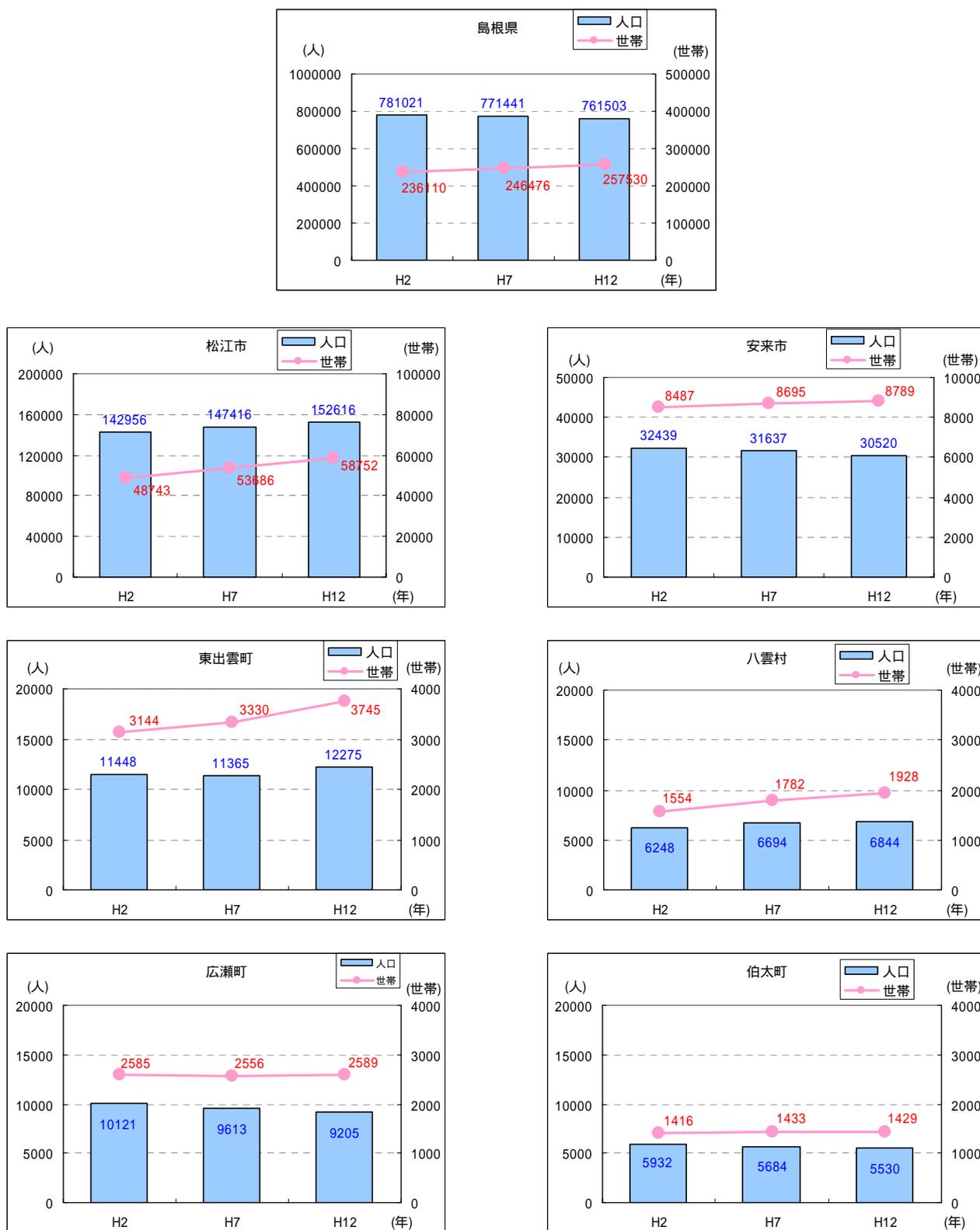


図 - 2.1 人口・世帯数の推移

市町村は2004.10.1安来市合併前の行政区分としております。

(2) 産業構造の変遷

平成 2 年、平成 7 年、平成 12 年の国勢調査によると対象区域市町村の産業別就業者数の推移は表 - 2.2 のとおりとなっている。

就業者総数は人口の変化と同様な傾向を示し、松江市と東出雲町および八雲村では、増加傾向、安来市、広瀬町および伯太町では減少傾向にある。

構成率は全般的に第 1 次産業および第 2 次産業は減少、第 3 次産業は増加傾向にある。

産業別就業者の構成率及び就業者数の推移を図 - 2.2 に示す。

表 - 2.2 産業別就業者数

市町村名	項目	年次 単位	平成 2 年			平成 7 年			平成 12 年					
			総数	第 1 次 産業	第 2 次 産業	第 3 次 産業	総数	第 1 次 産業	第 2 次 産業	第 3 次 産業	総数	第 1 次 産業	第 2 次 産業	第 3 次 産業
島根県	就業者数	人	402557	62891	126264	213033	406463	55667	123299	227066	389849	40896	112631	234762
	(構成率)	(%)	(100)	(15.6)	(31.4)	(52.9)	(100)	(13.7)	(30.3)	(55.9)	(100)	(10.5)	(28.9)	(60.2)
松江市	就業者数	人	69582	4599	14088	50747	74130	4023	14611	55285	76117	3161	14519	57968
	(構成率)	(%)	(100)	(6.6)	(20.2)	(72.9)	(100)	(5.4)	(19.7)	(74.6)	(100)	(4.2)	(19.1)	(76.2)
安来市	就業者数	人	17482	3161	6532	7779	17594	2628	6694	8265	16435	2072	5839	8470
	(構成率)	(%)	(100)	(18.1)	(37.4)	(44.5)	(100)	(14.9)	(38.0)	(47.0)	(100)	(12.6)	(35.5)	(51.5)
東出雲町	就業者数	人	6162	604	2584	2970	6343	556	2641	3140	6502	402	2513	3549
	(構成率)	(%)	(100)	(9.8)	(41.9)	(48.2)	(100)	(8.8)	(41.6)	(49.5)	(100)	(6.2)	(38.6)	(54.6)
八雲村	就業者数	人	3386	550	1023	1802	3748	515	1176	2045	3819	433	1109	2260
	(構成率)	(%)	(100)	(16.2)	(30.2)	(53.2)	(100)	(13.7)	(31.4)	(54.6)	(100)	(11.3)	(29.0)	(59.2)
広瀬町	就業者数	人	5688	1430	1980	2275	5416	1217	1915	2284	4920	857	1571	2465
	(構成率)	(%)	(100)	(25.1)	(34.8)	(40.0)	(100)	(22.5)	(35.4)	(42.2)	(100)	(17.4)	(31.9)	(50.1)
伯太町	就業者数	人	3374	1064	1226	1084	3302	913	1182	1207	3054	559	1148	1300
	(構成率)	(%)	(100)	(31.5)	(36.3)	(32.1)	(100)	(27.6)	(35.8)	(36.6)	(100)	(18.3)	(37.6)	(42.6)

注 1：市町村は 2004.10.1 安来市合併前の行政区分としております。

注 2：総数は分類不能産業を含むため、第 1 次～第 3 次産業の合計とは異なります。

出典：「国勢調査報告 総務省統計局（総務庁統計局）」

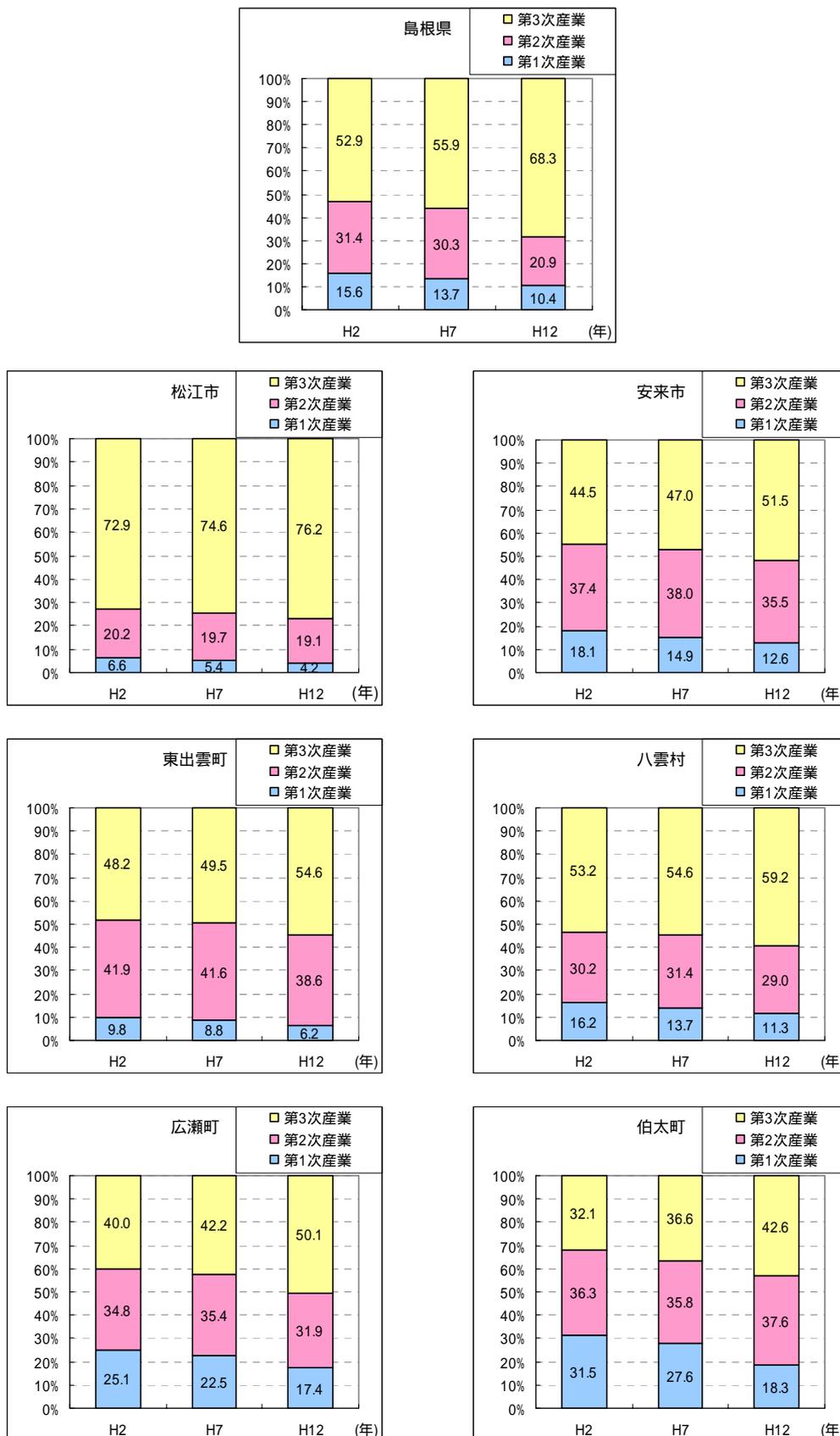


図 - 2.2 (1) 就業者構成率

市町村は2004.10.1安来市合併前の行政区分としております。

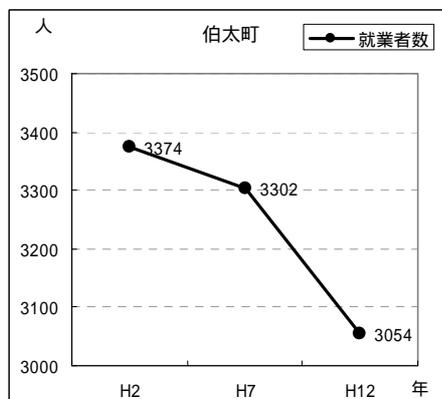
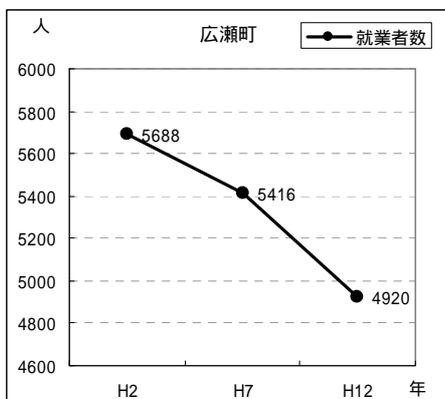
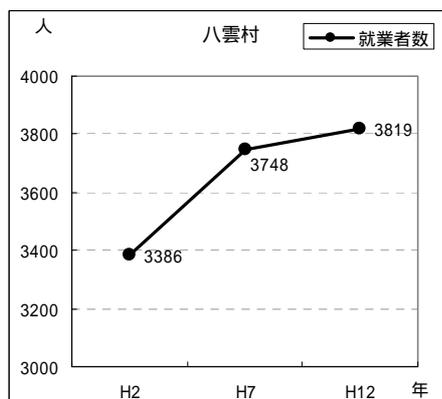
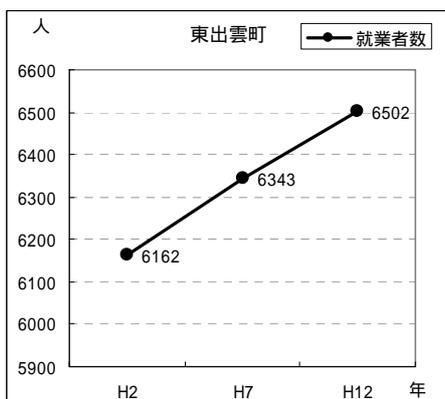
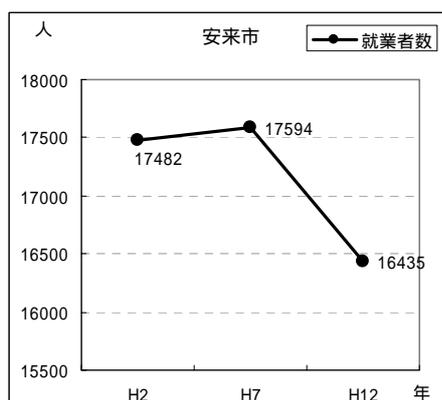
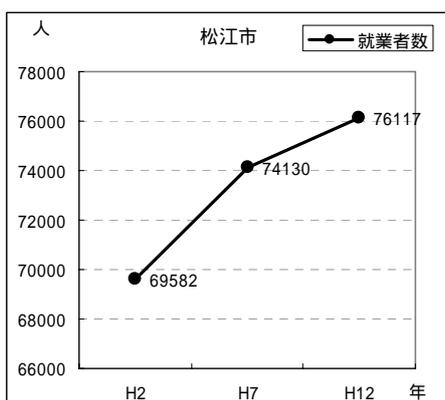
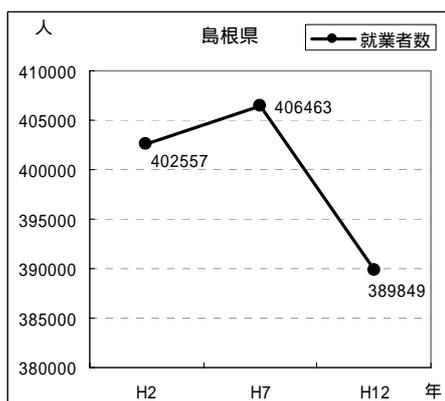


図 - 2.2 (2) 就業者数

市町村は2004.10.1安来市合併前の行政区分としております。

(3) 地名・河川名の由来

対象区域市町村について、「島根県の地名鑑 島根県総務部地方課」にその名の由来が表 - 2.3 のとおり記載されている。

表 - 2.3 地名の由来一覧

市町村名	地名の由来等
松江市	「松江」という名称は、宝暦～明和頃（1760 年前後）に出雲国内各地の事情に通じた松江藩士が著したといわれる「雲陽大数録」によると、「松江ト府名ヲ付ル事、円成寺開山春竜和尚ノ作ナリ、唐土ノ松江鱸魚ト、蔦菜ト有ルカ故名産トス、今城府モ其スンコンニ似タレバ、松江ト称」したものとされる。
安来市	「安来」という名称は、風土記に記されている「神須佐鳴命天之壁立極り座しき時ここに座して詔く、吾御心は安来成と詔り玉えきかれ安来という」によるといわれている。
東出雲町	「東出雲」という名称は、出雲郷村、揖屋町、意東村が合併した際、これらの地域が古代出雲国の中心部であったこと、また、出雲地方の東部に位置していることから決定されたものである。
八雲村	「八雲」の名称は、古事記に、神代の昔須佐之男命がここ須賀の地を宮造りの地として選び、「八雲立つ出雲八重垣妻籠みに八重垣作るその八重垣を」と詠んだ古歌にちなんだものである。
広瀬町	「広瀬」という名称は、富田川の度重なる氾濫により、町並みが東流した富田川の西方の広い瀬に発展していったところから命名されたといわれている。
伯太町	「伯太」という名称は、昭和 27 年の 3 か村合併の際、当町を縦貫する伯太川にちなんで付けられたものである。 「伯太川」の語源は、古文書から、端瀉、箱田、箱瀉、伯太彦、伯た首、端川などがその語源といわれているが、風土記には「伯太川」、風土記抄には「畠川」がみえる。このことから中世までは「はた川」と呼ばれていたものと考えられる。

市町村は 2004.10.1 安来市合併前の行政区分としております。

出典：「島根県の地名鑑 島根県総務部地方課」

対象区域内の河川について、「日本全河川ルーツ大辞典 竹書房」にその名の由来が表 - 2.4 のとおり記載されている。

表 - 2.4(1) 河川名の由来一覧

河川名	河川名の由来
伯太川	別名井尻川。草野を源に北流し井尻を経、安来の西で中海に注ぐ。下流域に平野を形成するが中流より上流は山峡（はけという）を流れる。峡田（はけた）が伯太（はくた）となったか。
安田川	島根県境を源に西に流れ、安田を経て清瀬で伯太川に注ぐ。安は埴安の安と同じで稲作に因む水霊信仰に関する名称。地形から沼を示すやに洲がつく沼地から生れた地名にもとれる。もと安田荘。

表 - 2.4(2) 河川名の由来一覧

河川名	河川名の由来
蛇喰川	東母里の山間から蛇行し伯太平野に出て伯太川と並んで流れ清瀬で本流に入る。山腹を侵蝕しつつ蛇行して流れるところから生れた地名。
福富川	須山川が福富から流れる福富川に入り、井尻で伯太川に注ぐ。福は吹くで鉄山に関する名称。鈔を吹くという。富は、豊かさを示すものである。
小竹川	上小竹、下小竹川に十年畑川が合流し伯太川に注ぐ。別名長江川。大国主命の鎮まる岩船山を流れる。小竹は小岳（おだけ）の意。岳は岩船山（長江山ともいう）をさす。
吉田川	別名山国川（やまくにがわ）、大塚の吉田（旧山国郷）の枯見山を源に中海に注ぐ。吉田周辺は水田地帯。葦（よし）の生える水田に適した湿地帯を開いたことから生れた地名。
飯梨川	比田から尼子の居城月山富田城跡の下を流れ中海に注ぐ。風土記所載の川。飯梨は飯生（いいな）すでにこの流域に稲を多く作ることからの名。飯生（いなり）の地も流域にある。
山佐川	三郡山を源に上山佐を経、諸流を併せて飯梨川に注ぐ。風土記に夜麻佐（やまさ）社があり、古くから開けたところ。山と山との狭いところをさす地名。佐は峡。
田頼川	飯梨川の水を広瀬から引き田頼、下荒島などを灌漑し中海に注がせたもの。田頼は丘陵から水田に臨む地。水田に寄って出来た集落からの名。下流域に両墓制の家が多い。
意宇川	別名熊野川。熊野大社、風土記の丘を経て中海に注ぐ。流域は出雲古代文化発祥地で遺跡も多い。意宇は青とともに他界を示す語。黄泉（よみ）穴や揖屋（いや）の地名もそれを裏づけ、伝承も多い。川口に万葉の歌人門部王の歌碑がある。
東岩坂川	東岩坂を源に日吉で意宇川に注ぐ。川の西が西岩坂。岩坂は伊弉册（いざなぎ）命の黄泉比良坂（よもつひらさか）の伝承に関する地。磐坂社がある。岩坂を常世（とこよ）と現世の境をなす地と見立てそこに神霊を祀る古代の心がうかがえる。和紙造りの人間国宝安部栄四郎の里。
桑並川	松江の南郊、桑並を経て意宇川に注ぐ。桑は尾根の凹んだ所をさす語ともいうがそのような所である。桑は鎌、並はなぶと同意で水霊鎮魂の意。この信仰をもつ鉄山師がいて農具を作った所とも考えられる。
平原川	平原から東流し意宇川に注ぐ。平原は平らな高原からきた地名。意宇が他界を示す語から考えると平（ひら）はひなと同意の常世、他界を表す名称ともとれる。水分（みくまり）の地の向うをそう見立てたのかもしれない。原はそこに開けた地のこと。

出典：「日本全国河川ルーツ大辞典 竹書房」

【付属資料】

(4) 文化財・遺跡

対象区域内の指定文化財は、国指定として出雲国分寺跡附古道や安来一里塚などがある。

対象区域内の文化財・遺跡を表 - 2.5 に示し、主な文化財の位置図を図 - 2.3 に示す。

表 - 2.5(1) 対象区域内にある文化財

市町村	番号	種別	区分	名 称	所在地	指定年月日
安来市	1	建	重文	清水寺本堂 附棟札 4 枚	清水町	明 37.2.18
	2	"	"	雲樹寺四脚門	清井町	"
	3	"	県	古門堂茶室及び巖松軒茶室 附露路	清水町	昭 37.6.12
	4	"	"	清水寺三重塔 附工作図板 1 面	"	昭 41.5.31
	5	"	"	並河家住宅	安来町	平 9.3.28
	6	"	市	雲樹寺山門	清井町	昭 42.1.1
	7	"	"	金藤家住宅	赤江町	平 7.5.8
	8	絵	重文	絹本著色三光国師像	清井町	明 37.2.18
	9	"	市	玉鋼縁起	安来町	平 2.2.8
	10	彫	重文	木造十一面観音立像	清水町	明 35.7.31
	11	"	"	木造阿弥陀如来両脇土坐像	"	"
	12	"	"	木造阿弥陀如来坐像	"	昭 47.5.30
	13	"	県	木造十一面観音立像	"	昭 41.5.31
	14	"	"	石造線刻大日如来坐像	"	昭 42.5.30
	15	"	"	「月」米原雲海作 台付	安来町	昭 44.2.18
	16	"	"	木造四天王立像	清水町	昭 48.3.30
	17	"	市	木造聖観音立像	西中津町	昭 42.1.1
	18	"	"	教呉寺埴仏	野方町	昭 42.1.1
	19	工	重文	銅鐘	清井町	明 37.2.18
	20	"	県	鏡像 地藏菩薩	利弘町	昭 34.9.1
	21	"	"	銅鐘	清水町	昭 47.7.28
	22	"	"	鰐口	"	昭 54.8.24
	23	"	"	金銅十一面観音像懸仏	"	"
	24	"	"	鰐口	"	昭 58.6.7
	25	"	市	坂本五輪塔及び地藏尊石造	"	昭 42.1.1
	26	"	"	御三味板碑	"	"
	27	"	"	懸仏	"	"
	28	"	"	仲仙寺板碑	西赤江町	"
	29	"	"	吉岡宝篋印塔	吉岡町	"
	30	"	"	釈迦嶽雲右衛門・稻妻咲右衛門兄弟塔	大塚町	平 8.8.1
	31	書	重文	紙本墨書光厳院宸翰御消息(1通) 紙本墨書後村上天皇宸翰御消息(3通)	清井町	昭 18.6.9
	32	"	"	紙本墨書孤峰覚明墨蹟	"	昭 18.6.9
	33	"	市	備前刀匠等熊野詣願文	安来町	昭 42.1.1
	34	考	県	銅製経筒	清井町	昭 38.7.2
	35	"	市	八幡山古墳石棺及び剣	安来町	昭 42.1.1
	36	"	"	意多伎神社出土先土器遺物	飯生町	"
	37	"	"	宮神坊出土弥生式土器	上吉田町	"
	38	"	"	教呉寺瓦	柿谷町	"
	39	"	"	教呉寺心礎	野方町	"
	40	"	"	植田横穴出土石棺	飯梨町 飯梨小学校	"
	41	有民	重有民	たたら製鉄用具	安来町	昭 34.5.6
	42	"	市	そりこ舟	"	昭 54.3.29
	43	無民	市	月の輪神事の祭事	安来町	昭 42.1.1
	44	"	"	赤江八幡宮御田植神事	赤江町	"

表 - 2.5(2) 対象区域内にある文化財

市町村	番号	種別	区分	名 称	所在地	指定年月日
安来市	45	史	国	安来一里塚	安来町	昭 11.12.16
	46	"	"	岩舟古墳	飯梨町	昭 23.12.18
	47	"	"	仲仙寺古墳群	西赤江町	昭 46.8.12
	48	"	"	荒島古墳群	荒島町	平 11.7.13
	49	"	県	毘売塚古墳	黒井田町	昭 44.5.23
	50	"	"	穴神横穴墓群	吉佐町	平 10.3.27
	51	"	市	矢田横穴群	矢田町	昭 42.1.1
	52	"	"	車山烽火台	田頼町	"
	53	"	"	塩津神社古墳石棺	久白町	"
	54	"	"	能義神社奥の院古墳	能義町	昭 54.3.29
	55	"	"	神代塚古墳	吉佐町	"
	56	"	"	雲樹寺参道	清井町	昭 62.8.28
	57	名勝	市	雲樹寺庭園	"	"
	広瀬町	58	建	県	富田八幡宮社殿	広瀬
59		"	"	金屋子神社社殿	西比田	昭 59.5.4
60		"	町	北尾邸	広瀬	平 2.9.17
61		彫	重文	木造広目天立像	富田	明 35.7.31
62		"	"	木造多聞天立像	"	明 36.4.15
63		"	"	木造聖観音脇土帝釈天立像	"	明 35.7.31
64		"	県	能面 孫次郎・中将	広瀬	昭 50.8.12
65		"	町	木造薬師瑠璃光如来	上山佐	昭 43.8.10
66		工	町	鉄製台釣六角燈籠	富田	"
67		古	町	古筆集	下山佐	"
68		工技	県	広瀬紜	広瀬	昭 37.6.12
69		有民	重有民	東比田の山村生産用具	富田	昭 38.5.15
70		"	県	東比田地方の生産用具コレクション	"	昭 38.7.2
71		無民	町	比田踊	西比田	昭 43.8.10
72		"	"	追神頭打	"	昭 56.5.1
73		史	国	富田城跡	富田	昭 9.1.22
74		"	県	新宮党館(大夫成跡)	新宮	昭 50.8.12
伯太町	75	工	県	鱒口	安田宮内	昭 45.10.27
	76	天	県	インヨウチク(陰陽竹)群落	横屋	昭 47.7.28
東出雲町	77	古	県	揖屋神社文書	揖屋町	昭 45.10.27
八雲村	78	建	村	星上寺仁王門	東岩坂	平 7.3.31
	79	古	県	紙本墨書熊野神社文書	熊野	昭 49.12.27
	80	工	村	栄蟠形兜(長首祢右衛門利光作)	"	昭 61.3.31
	81	"	"	和鏡	"	"
	82	"	"	鱒口	西岩坂	"
	83	考	村	小屋谷1号墳出土品	"	"
	84	"	"	小屋谷3号墳出土品	"	"
	85	"	"	増福寺20号墳出土品	"	"
	86	天	村	スタジイ	"	"
	87	"	"	ケヤキ	東岩坂	"

表 - 2.5(3) 対象区域内にある文化財

市町村	番号	種別	区分	名 称	所在地	指定年月日
松江市	88	建	市	お成りの間 附茶室	枕木町	昭 42.11.1
	89	"	"	鐘楼門・お成り門・地藏堂	枕木町	昭 42.11.1
	90	絵	県	紙本著色勅使代参向図	大草町	昭 47.7.28
	91	"	"	絹本著色両界曼荼羅図	八幡町	昭 54.8.24
	92	彫	重文	木造薬師如来坐像	枕木町	明 35.7.31
	93	"	県	木造神馬	八幡町	昭 50.8.12
	94	"	市	木造盧遮那仏坐像	邑生町	昭 38.5.28
	95	"	"	木造釈迦如来涅槃像	馬潟町	昭 41.4.15
	96	"	"	木造阿弥陀如来坐像	"	昭 41.4.15
	97	"	"	木造大日如来坐像	大草町	昭 41.4.15
	98	"	"	木造薬師如来脇侍像	枕木町	昭 42.11.1
	99	"	"	木彫欄間	"	昭 42.11.1
	100	工	県	戒体箱 1 合、居箱 1 合、如意 1 提、香炉箱 1 合、柄香炉 1 柄、鉸子 1 双	八幡町	昭 35.9.30
	101	"	"	銅鐘	八幡町	昭 47.7.28
	102	"	"	刀 表銘 八幡宮奉寄進堀尾丹家 裏銘 寛永十癸酉八月十五日雲州住銀祐作	八幡町	昭 52.10.20
	103	"	"	紙本墨書八重垣文書	佐草町	昭 47.3.31
	104	"	"	紙本墨書迎接寺文書	八幡町	昭 48.9.25
	105	考	重文	出雲岡田山古墳出土品	大草町	昭 60.6.6
	106	"	県	細形銅剣	八幡町	昭 39.5.26
	107	無民	市	ホーランエンヤ權伝馬踊り	馬潟・矢田・大井・福富・大海崎地区	平 9.2.7
	108	史	国	出雲国分寺跡 附古道	竹矢町	大 10.3.3
109	"	"	安部谷古墳	大草町	昭 9.5.1	
110	"	"	岡田山古墳	大草町	昭 40.4.9	
111	"	"	出雲国府跡	大草町他	昭 46.12.13	
112	"	県	古天神古墳	大草町	昭 35.9.30	
113	"	"	大草岩船古墳	大草町	昭 45.10.27	
114	"	"	東百塚山古墳群 (52 基)	"	昭 45.10.27	
115	"	"	西百塚山古墳群 (32 基)	"	昭 45.10.27	
116	"	"	岩屋後古墳	"	昭 45.10.27	
117	"	"	御崎山古墳	"	昭 45.10.27	
118	"	"	出雲国分寺瓦窠跡	竹矢町	昭 48.3.30	
119	名	市	枕木山	枕木町	昭 42.11.1	

注 1 : 市町村は 2004.10.1 安来市合併前の行政区分としております。

注 2 : 番号の赤字は国および県指定の建造物と史跡で、位置図に示す。

出典 : 「島根県の文化財 島根県文化財保護協会編 (1999)」

「増補改訂 島根県遺跡地図 (出雲・隠岐編) 2003 年 3 月 島根県教育委員会」

有形文化財	建造物	...(建)	無形文化財	工芸技術	...(工技)	
	絵画	...(絵)		民俗文化財	有形民俗文化財	...(有民)
	彫刻	...(彫)			無形民俗文化財	...(無民)
	工芸品	...(工)		記念物	史跡	...(史)
	書跡	...(書)			名勝	...(名)
	古文書	...(古)			史跡及び名勝	...(史名)
	考古資料	...(考)			天然記念物	...(天)
	歴史資料	...(歴)			特別天然記念物	...(特天)
					重要美術品	...(重美)

()内は、表中での表記

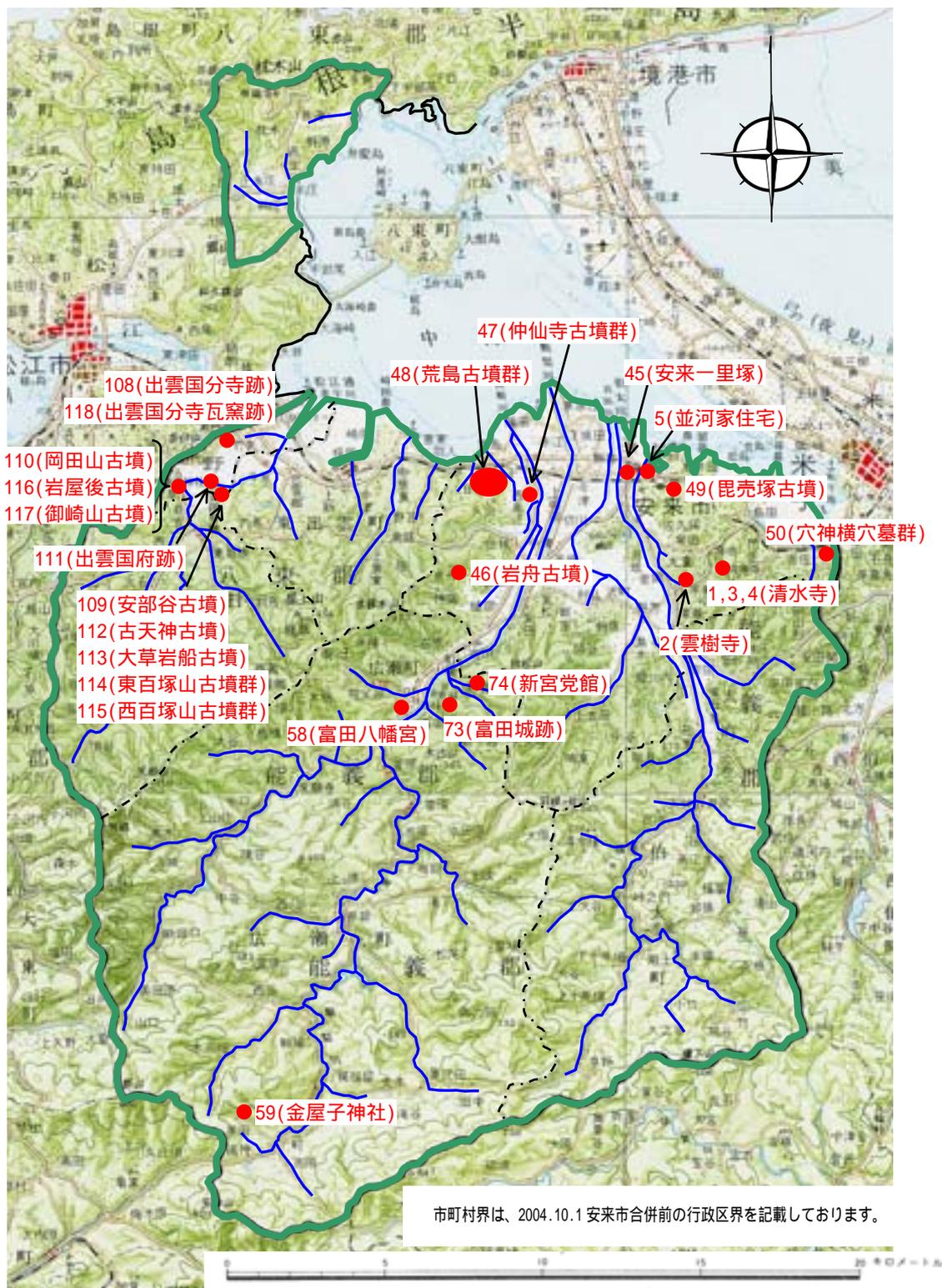


図 - 2.3 主要文化財位置図

本整備計画での施行の場所周辺においての遺跡（史跡・埋蔵文化財包蔵地）の存在は島根県教育委員会、市町村教育委員会が実施した分布調査（「増補改訂 島根県遺跡地図（出雲・隠岐編） 2003年3月 島根県教育委員会」）では、吉田川の施工場所周辺に吉田川 遺跡および吉田川 遺跡（いずれも弥生土器散布地）が確認されている。また、他の3河川（飯梨川、木戸川、田頼川）の施工場所周辺には確認されていない。

遺跡の分布状況を示す遺跡地図を図 - 2.4 に示す。

施行の場所は以下のとおりである。

河川改修：飯梨川下流区間（河口～安来市上坂田町）

河川改修：飯梨川布部区間（安来市広瀬町布部地先）

河川改修：吉田川（安来市月坂町～安来市折坂町）

河川改修：木戸川（安来市安来町～安来市宮内町）

河川改修：田頼川（安来市西赤江町～安来市上坂田町）

施行区間の遺跡分布状況を図 - 2.5 に示す。

吉田川の施工場所周辺において、平成16年3月29日に安来市教育委員会が15箇所のトレンチ（試掘）を行った結果、いずれのトレンチからも遺物、遺構は検出できず、遺跡地図にある散布地の痕跡は見られなかった。その他の遺構の所在も確認できなかったため、工事区域内に遺跡は所在しないと判断されている。

なお、工事に際し、遺物等の発見があった場合は安来市教育委員会に届出を行う。

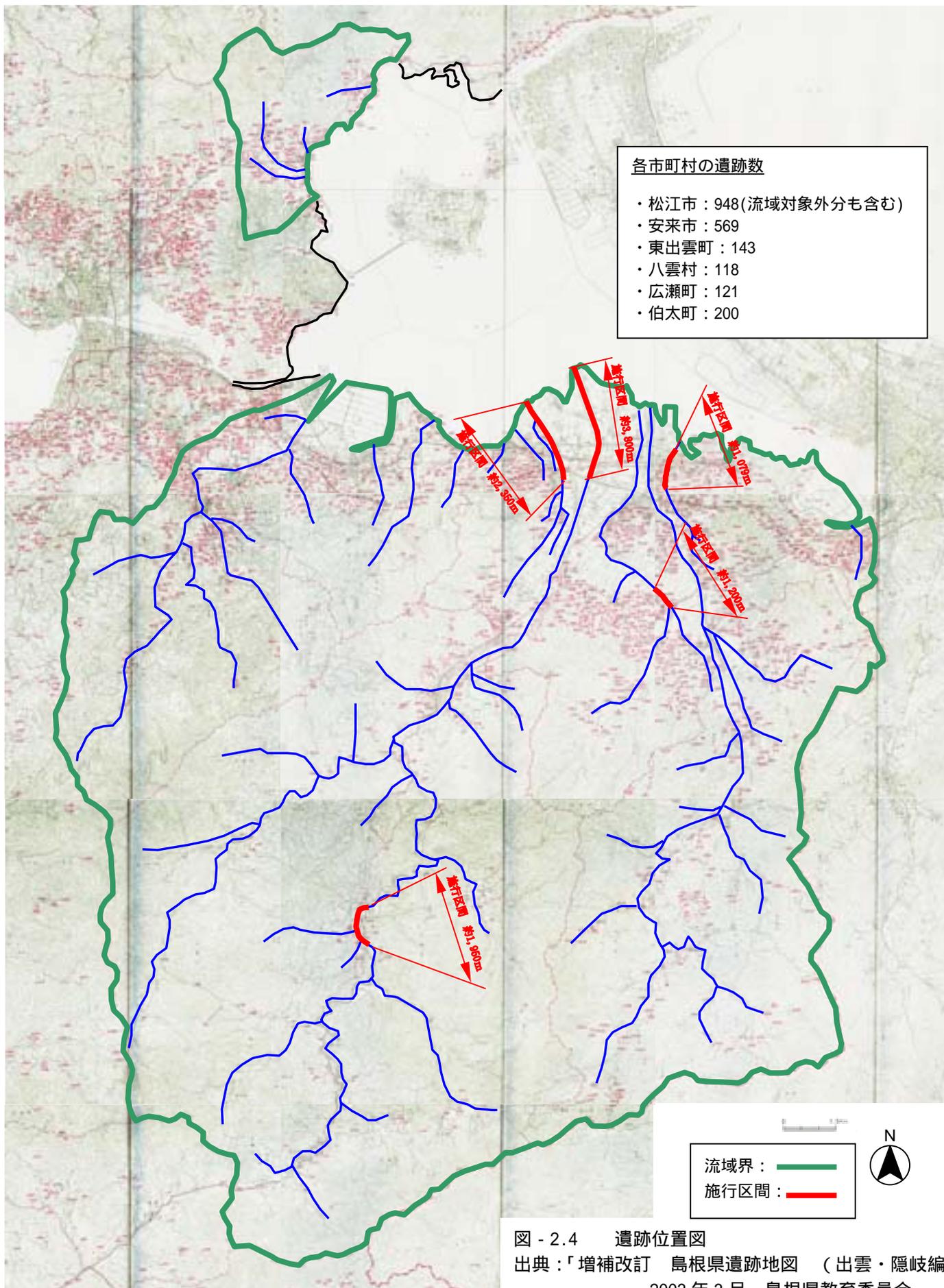


図 - 2.4 遺跡位置図
 出典：「増補改訂 島根県遺跡地図（出雲・隠岐編）
 2003年3月 島根県教育委員会」



図 - 2.5(1) 遺跡分布状況図 (飯梨川下流工区)

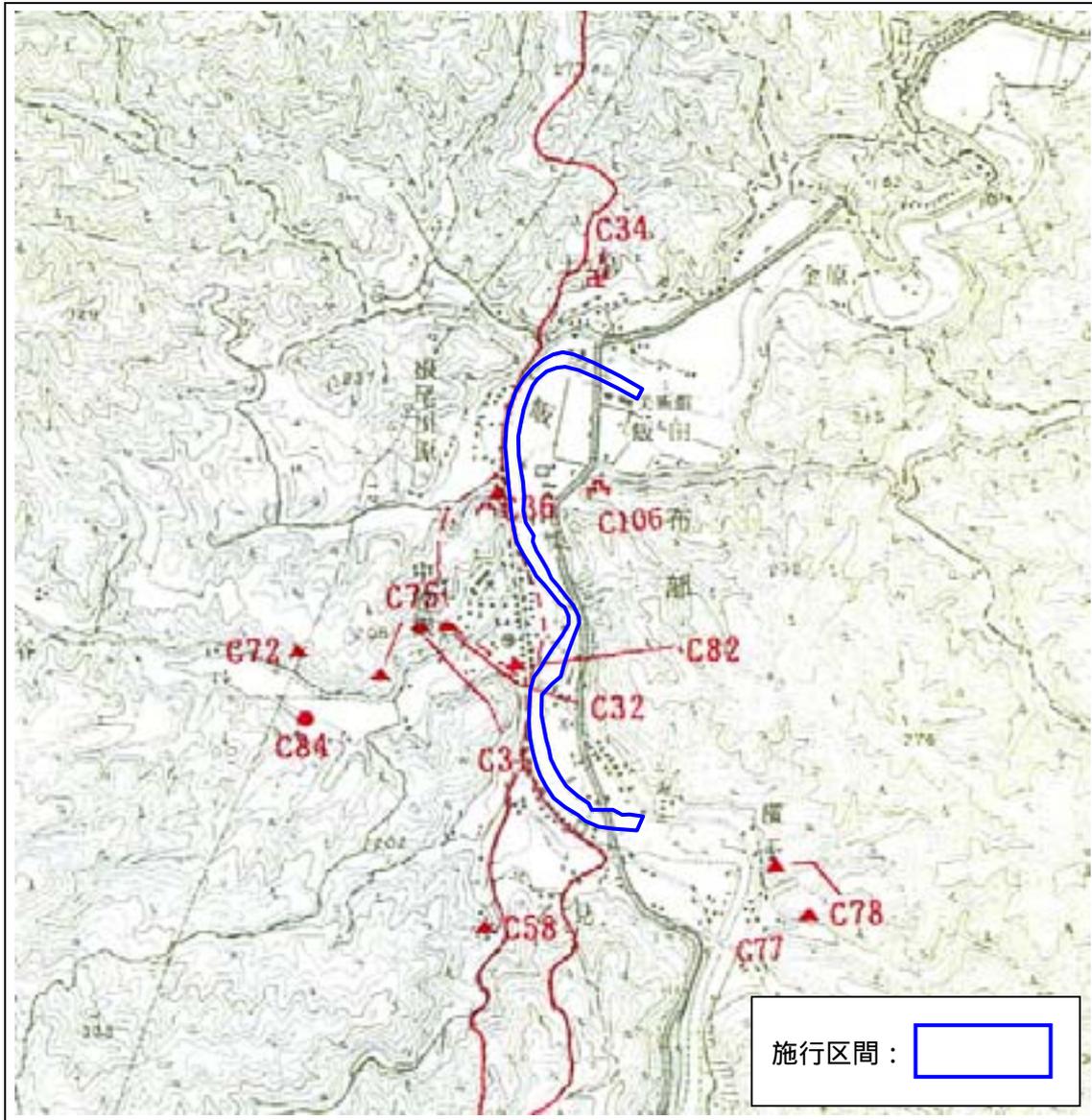


図 - 2.5(2) 遺跡分布状況図 (飯梨川上流工区)

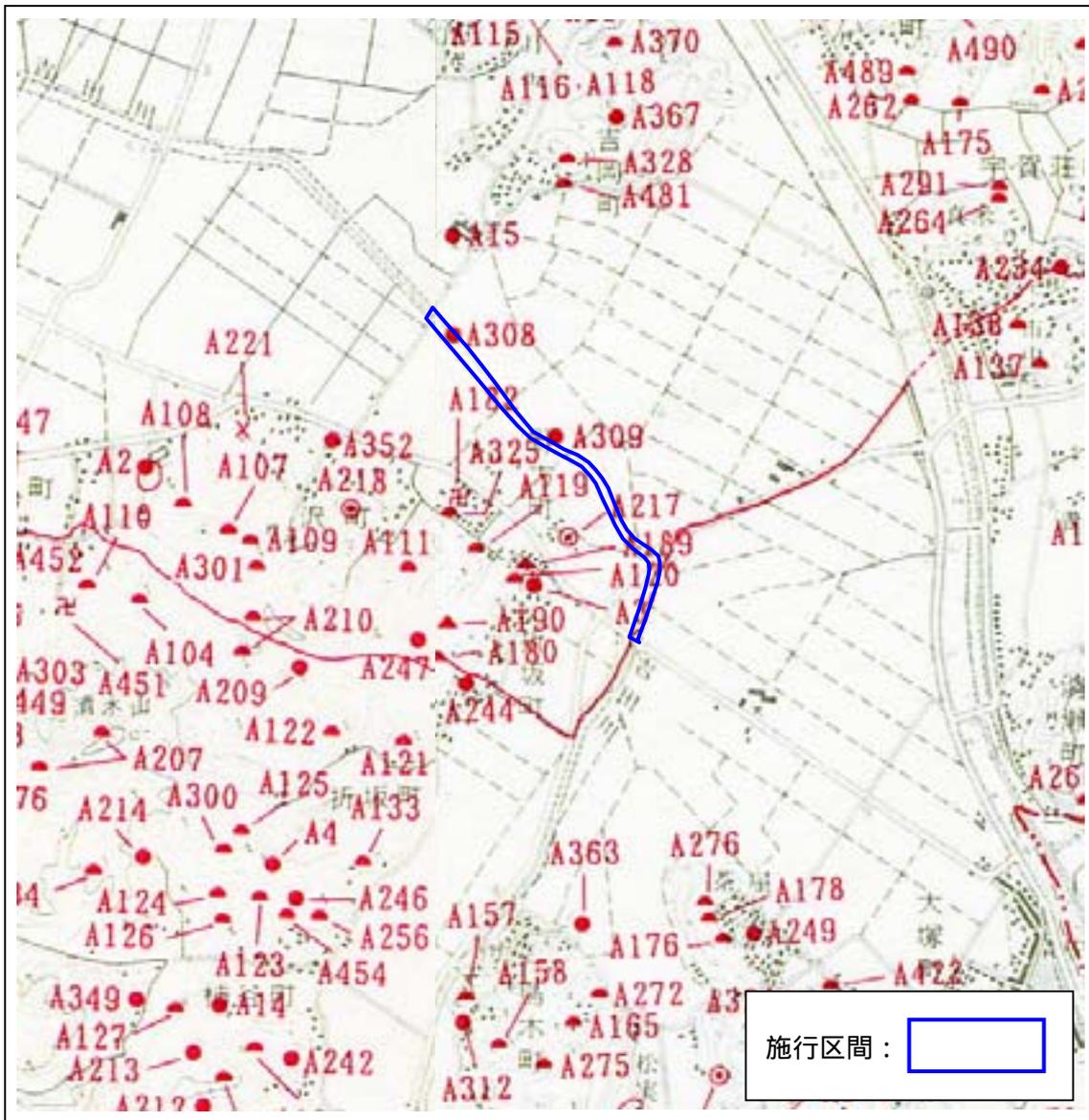


図 - 2.5(3) 遺跡分布状況図 (吉田川)

番号	名称	種別	概要
A308	吉田川 遺跡	散布地	弥生土器
A309	吉田川 遺跡	散布地	弥生土器

この両遺跡については、平成 16 年 3 月に安来市教育委員会により河川整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査が行われた。調査は、事業該当区域内にトレンチを 15 ヶ所設定し掘削が行われ、その結果、散布地の痕跡及びそのほかの遺構の所在も確認できなかったため、当工事区域内に遺跡は所在しないと判断されている。(安教文第 635 号；平成 16 年 3 月 31 日付回答)



図 - 2.5(4) 遺跡分布状況図 (木戸川)

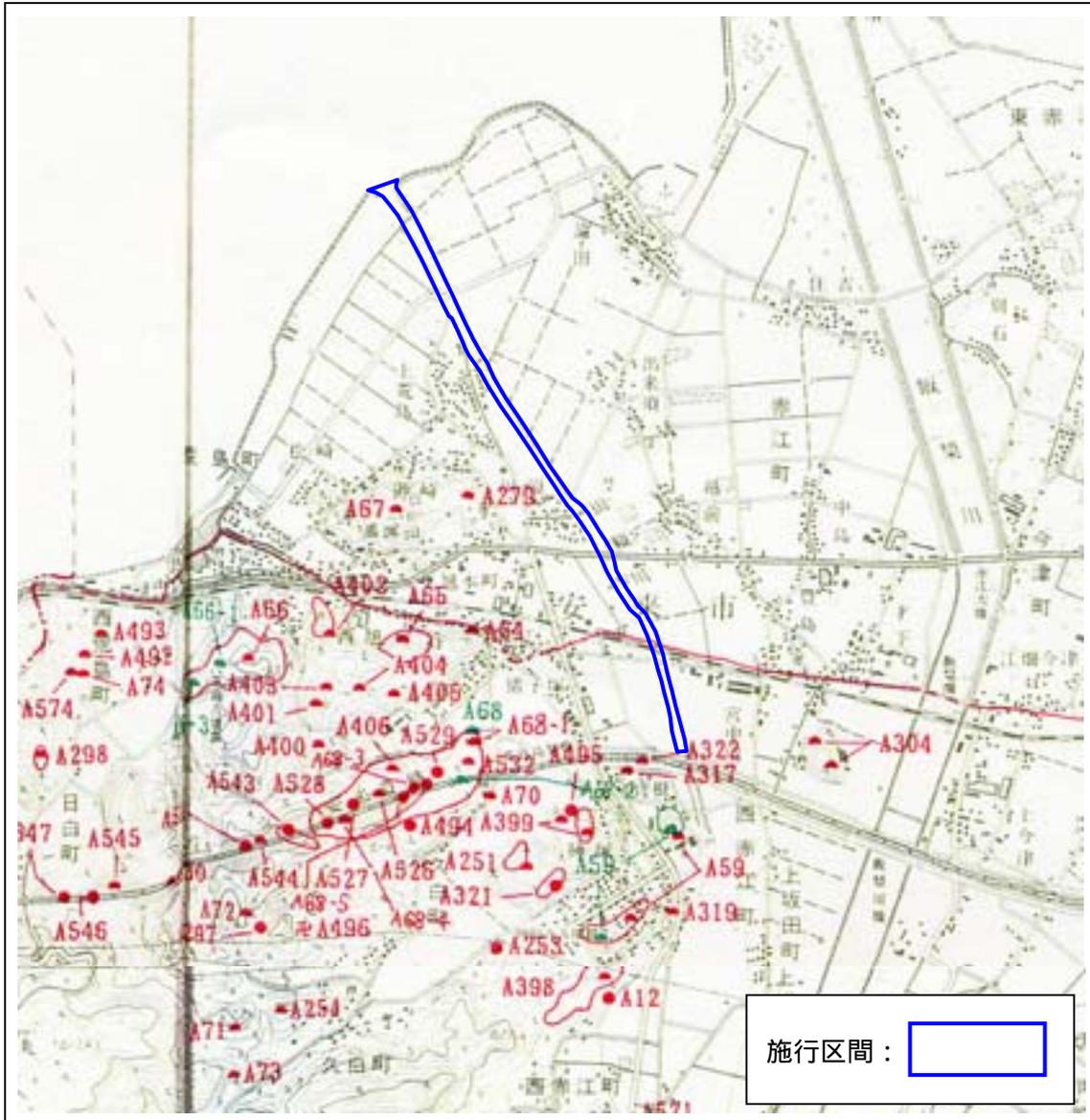


図 - 2.5(5) 遺跡分布状況図 (田頼川)

(5) 景観と観光

1) 景観

中海支川域に係る景観に関する主な法令等を以下に示す。

島根県立自然公園条例：昭和 36 年公布

- ・ 清水月山県立自然公園：昭和 39 年 4 月
- ・ 宍道湖北山県立自然公園：昭和 39 年 4 月

ふるさと島根の景観づくり条例：平成 3 年公布(関連する基準等を図 - 2.6 に示す)

島根県公共事業等景観形成指針ガイドプランには次の方針が示される。

地域別景観形成方針(松江地域)

全体テーマ

シンボリックな景観資源の保全と、それらを生かした県土の表玄関としての風格ある景観形成を図る。

個別方針

湖水面、湖岸、背景となる山並みが一体となった、宍道湖・中海の景観的魅力を保全する。

宍道湖・中海を背景に展開する都市部における、潤いある市街地景観の形成を図る。

山間部においては、緑濃い山林等の保全を図りながら、穏やかな集落景観の形成を図る。

変化に富んだリアス式海岸の自然性の高い海岸景観を保全する。

個々の特徴的な景観資源を保全する。

大規模行為実施に際しての地域別留意事項

宍道湖・中海とその周辺地域においては、主要な展望地又は主要幹線道路等からの眺望を阻害しないように、建築物等の高さや配置、或は大規模な造成等の行為地の選定には十分配慮する。

大山隠岐国立公園地域を中心とした島根半島部においては、その特徴的な海岸景観や山上からの良好な眺望を阻害しないよう、建築物等の高さや配置、或は大規模な造成等の行為地の選定には十分配慮する。

松江城周辺をはじめ、歴史的建造物の優れた景観資源が散見される地域においては、建築物等の規模を考慮するとともに、形態・色彩・意匠等のデザイン的な検討を行う。

清水月山県立自然公園地域を中心とした良好な自然景観を呈する地域においては、その良好な自然環境の保全を図るとともに、周辺状況を十分に勘案の上、景観的に調和のとれた計画の立案を行う。



図 - 2.6 ふるさと島根の景観づくり条例に関連する基準等

2) 観 光

中海支川域は中海に面した自然の多い区域で、自然資源として清水月山県立自然公園を有し、富田城跡や熊野大社、古墳群といった歴史的観光資源も多く存在する。

対象区域の主な観光施設について平成9年～平成13年の観光客の推移を表-2.6、主な観光施設の位置図を図-2.7に示す。

表 - 2.6 対象区域の観光地，観光客数 (人)

名 称	区 分	H9年	H10年	H11年	H12年	H13年	
松江市	入込客数	4,150,000	3,960,000	4,418,000	4,478,000	5,046,000	
	うち県外	2,905,000	2,772,000	3,093,000	3,135,000	3,532,000	
安来市	入込客数	1,152,842	1,199,111	943,282	909,739	824,503	
	うち県外	817,165	782,000	576,000	528,000	538,000	
	足立美術館	入込客数	438,018	371,233	337,917	387,504	345,797
		うち県外	350,404	297,000	270,000	310,000	311,000
	清水寺	入込客数	379,000	323,000	293,934	221,939	201,958
		うち県外	298,000	226,000	200,000	118,000	121,000
	鷺の湯温泉	入込客数	42,986	41,917	39,594	43,661	39,892
		うち県外	22,082	24,000	22,000	22,000	22,000
東出雲町	入込客数	3,000	3,306	1,520	25,000	-	
	うち県外	270	0	0	1,000	-	
八雲村	入込客数	561,572	627,443	617,215	617,805	600,304	
	うち県外	140,853	129,000	118,000	78,000	99,000	
	熊野大社	入込客数	300,000	305,000	260,000	282,000	265,000
		うち県外	90,000	105,000	80,000	50,000	66,000
	ゆうあい熊野館	入込客数	176,505	243,699	278,978	262,979	267,905
		うち県外	39,286	16,000	33,000	21,000	27,000
広瀬町	入込客数	295,475	208,240	191,844	159,434	160,481	
	うち県外	98,586	34,000	42,000	86,000	85,000	
	月山・広瀬絋センター	入込客数	262,107	168,867	30,299	28,908	25,437
		うち県外	95,754	34,000	18,000	20,000	18,000
	健康増進施設・布部ダム	入込客数	29,080	34,400	32,409	28,313	30,414
		うち県外	2,630	0	3,000	8,000	9,000
伯太町	入込客数	50,348	56,158	47,268	51,448	49,580	
	うち県外	19,525	29,000	15,000	16,000	15,000	
	チューリップ祭	入込客数	35,000	38,000	35,000	35,000	35,000
		うち県外	14,000	15,000	11,000	11,000	11,000
	上の台緑の村	入込客数	15,348	18,158	12,268	16,448	14,580
		うち県外	5,525	14,000	4,000	5,000	4,000

出典：県観光振興課「島根県観光動態調査結果表」

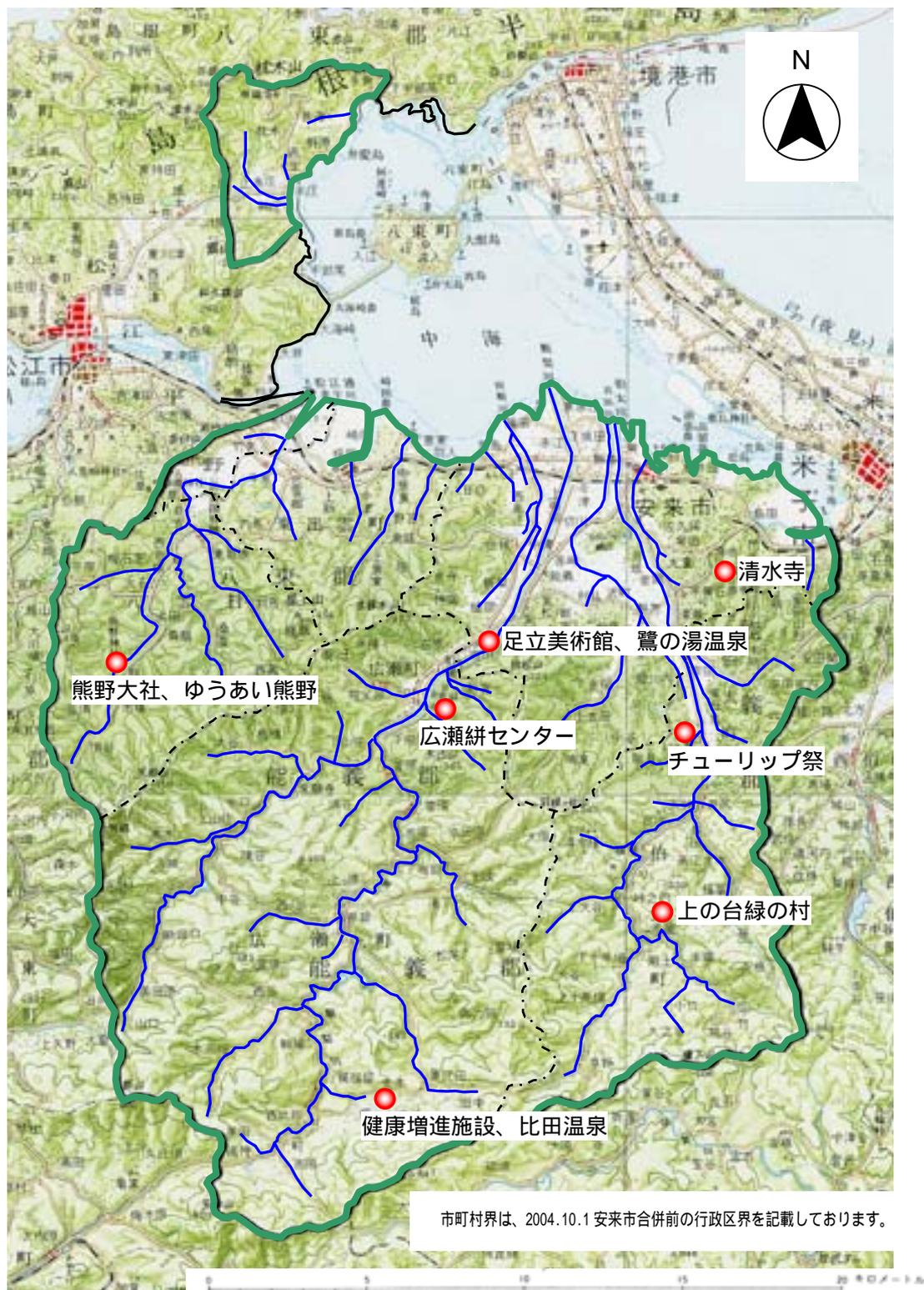


図 - 2.7 観光施設位置図

(6) 伝統芸能、風習

対象区域には安来節、ホーランエンヤ等の多くの伝統芸能や風習が残っている。流域の特記すべき伝統芸能、風習等を以下に述べる。

1) 安来節どじょうすくい(安来市)

出雲地方の港町で広く歌われた船頭歌が原形といわれ、明治時代に渡部佐兵衛の娘お糸によって全国的に広まった。どじょうすくいは、出雲地方に多く生息していたどじょうをすくっている身振りを舞踊化したもの。

(写真はやすぎ節保存会提供)



2) ホーランエンヤ(松江市・東出雲町)

大阪の天神祭、広島宮島の宮島管絃祭と並び、三大船神事の一つ。

城山稲荷神社で12年毎に行われる式年行事。堀川、大橋川意宇川経由で東出雲町阿太加夜神社への船渡御は1キロに及ぶきらびやかなもの。期日(期間)12年に一度、5月中旬。



3) 熊野大社御櫛祭(八雲村)

素盞鳴尊が稲田姫に結納として櫛を与えたという故事にちなんで、摂社稲田神社に櫛を献納する祭り。今年の豊作を祈って田植踊りが奉納されるが、これは地元の中学生によって行われる。期日(期間)4月13日。

(写真は出雲一宮熊野大社提供)



4) 広瀬祇園祭(安来市広瀬町)

富田八幡宮の境内社須賀神社の祭り。御輿と約30本の竿灯が町内を練り歩く。夜店も立ちならび花火が上り近郷近在の人々で賑わう。期日(期間)7月21日7:00ごろから。

(写真は広瀬町観光協会(安来市広瀬町)提供)



(7) 土地利用等区域図

中海支川域の土地利用状況は、飯梨川下流部や意宇川下流部の河川沿いに農用地区が広がり、市街地は中海周辺の伯太川河口部や意宇川河口部でわずかにみられるのみである。その他のほとんどが山地部で森林地域となっている。

中海支川域の土地利用状況を図 - 2.8 に示す。

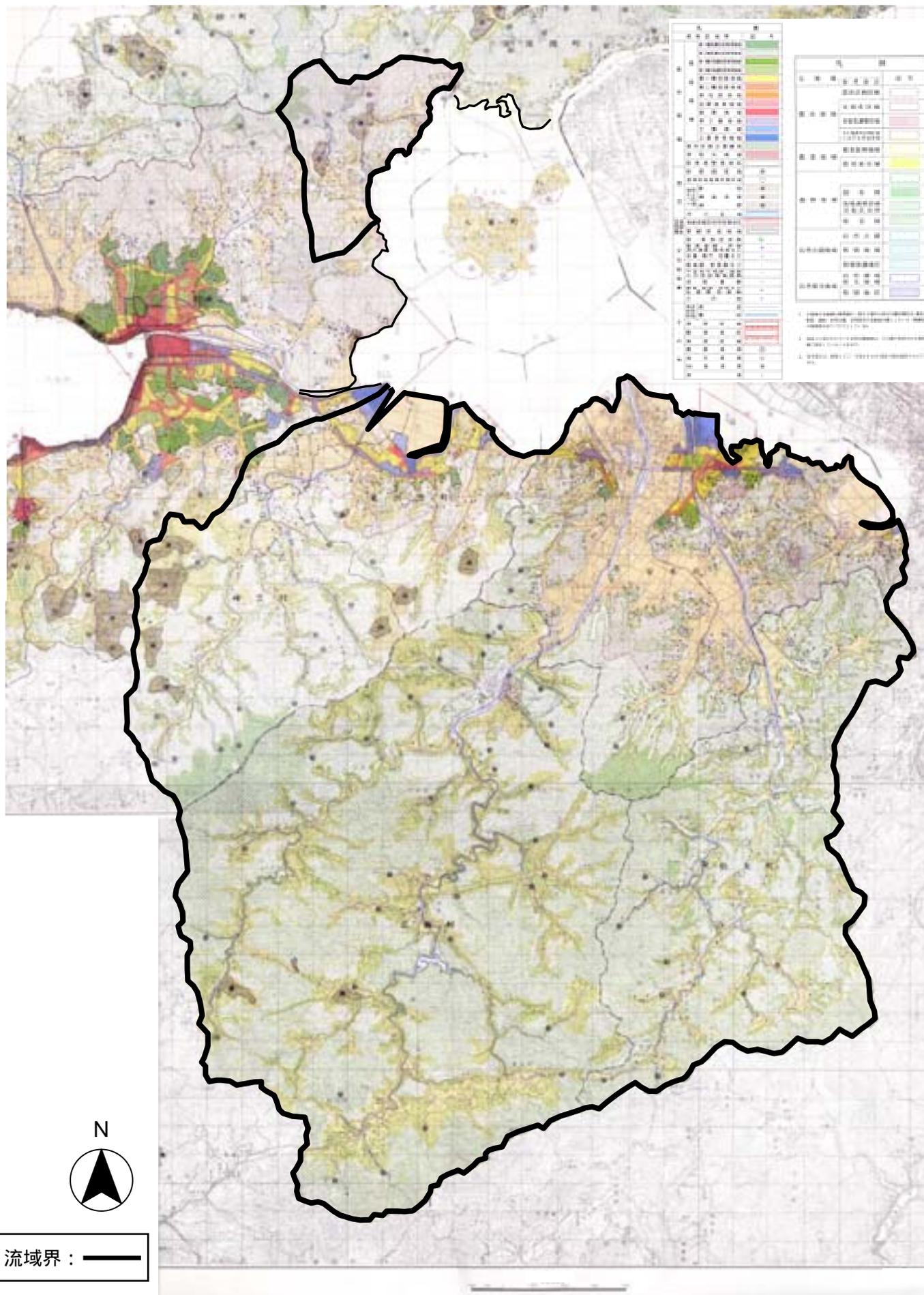


図 - 2.8 土地利用状況図

出典:「島根県土地利用総合規制図(平成 11 年度版) 島根県」

3 . 中海支川域の治水・利水・河川環境に関する資料

(1) 治水計画の概要

1) 治水計画概要

「中小河川計画の手引き（案）」（財団法人 国土開発技術センター：1999.3）では「中小河川の計画規模は、基本的に降雨量の年超過確率で評価することとし、その設定に当たっては、河川の重要度、既往洪水による被害の実態、経済性、上下流のバランス等を総合的に考慮して定める。」とされている。また参考として、「計画規模設定にあたっては地域の重要度が大きな指標になるが、公平な安全度確保の観点から、河川形態あるいは地形状況に応じて、その計画規模に差をつけるという考え方がある」とされており、治水安全度は表 - 3.1 のように示されている。

表 - 3.1 河川形態により計画規模を変更した例 （単位：確率年）

地域分類		堀込河道		築堤河道		内水河川	
		基本	計画	基本	計画	基本	計画
都市域	密集	100	50	150	50	100	30
	一般	50	30	100	30	50	30
一般住居区域		30	10	50	10	30	10
田園地帯		10	3	10	3	10	3

本整備計画では想定氾濫区域内人口や資産、保全対象区間築堤率等を踏まえ、表-3.2 に示すように設定したものである。

表 - 3.2 治水安全度の整理（全体計画）

	計画規模	中海合流部（h）			備考
		H.W.L	W.L (出発水位)	堤防高	
飯梨川	T=1/80	2.500	0.361 (-0.5K地点)	3.500	
吉田川	T=1/10	1.085	1.085	1.585	
木戸川	T=1/30、暫定 1/2	1.44	0.750	2.040	
田頼川	T=1/30	1.44	0.675	2.040	

飯梨川の河道改修

飯梨川は風化花崗岩の堆積や、近世から近代初期までの鉄穴流しによる天井川であることから、昔から堤防の決壊などにより洪水が多発する河川で、昭和 34 年に浸水家屋 2408 戸、昭和 39 年 7 月に浸水家屋 53 戸、昭和 47 年 7 月に浸水家屋 87 戸などといった洪水の被害を受けている。

昭和 41 年から広瀬地区において中小河川改修工事が行われ、昭和 47 年に飯梨川全体計画の策定を行っている。また、昭和 56 年から布部地区において小規模河川改修工事が行われ、平成 7 年に飯梨川全体計画の策定を行っている。

飯梨川の治水計画は、中安総合単位図法により計画雨量 263.1mm～319.1mm（24 時間雨量、トーマスプロット法）確率：1/80 で計画し、矢田橋地点における基本高水を 1,960 m^3/s とし、布部ダム、山佐ダムによる洪水調節により計画高水を 1,500 m^3/s と定めている。

飯梨川の洪水対策としては、本川の布部ダムと、支川山佐川の山佐ダムにより洪水を調節し、下流の洪水の軽減を図る。また、河道については洪水の安全な流下を図るため河道の拡幅、堀削、築堤を行うとともに護岸を施工する。

飯梨川整備計画目標流量図を図 - 3.1 に示す。

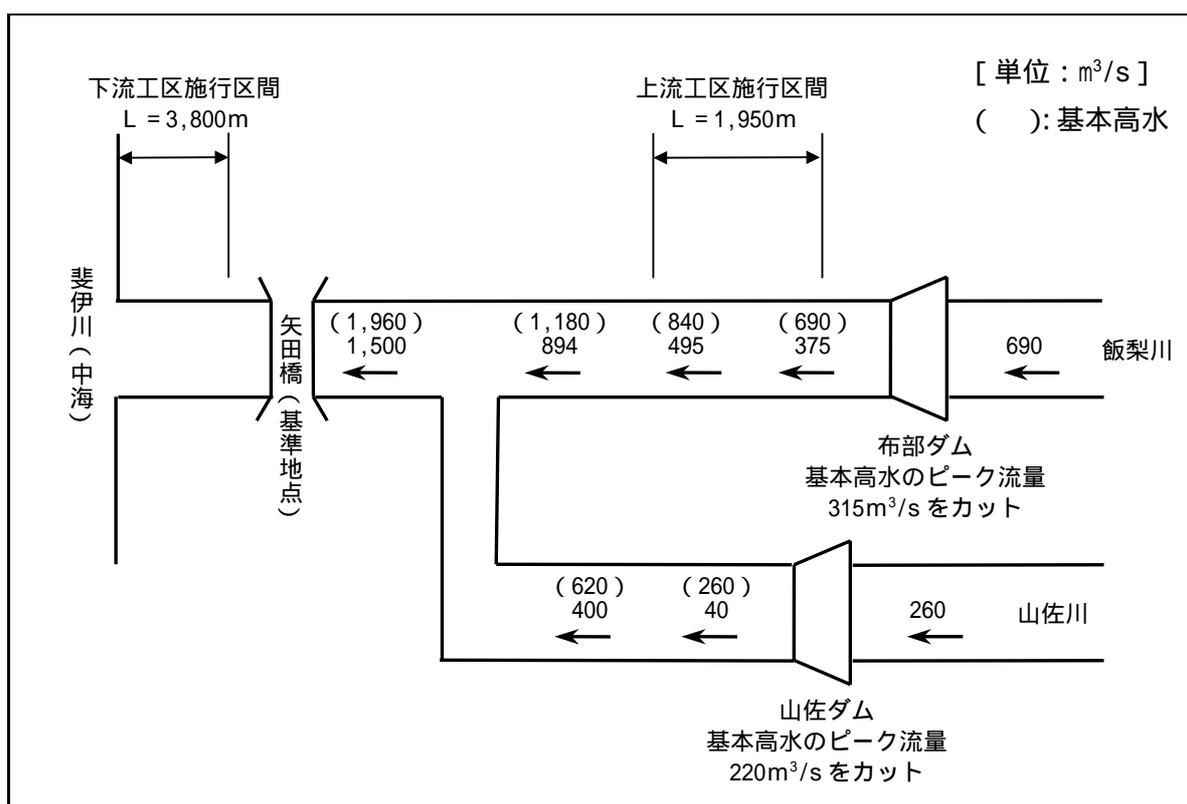


図 - 3.1 飯梨川整備計画目標流量図

【付属資料】

吉田川の河道改修

吉田川は昔から洪水が多発する河川で、昭和 27 年に浸水家屋 70 戸、昭和 39 年 7 月に浸水家屋 414 戸、昭和 47 年 7 月に浸水家屋 64 戸などといった洪水の被害を受けている。

昭和 27 年に吉田川全体計画の策定を行っている。近年でも、平成 5 年 9 月、平成 7 年 7 月、平成 9 年 6 月などに農地の浸水被害を受けている。

吉田川の治水計画は、合理式法により計画雨量 80mm（4 時間雨量、実績値）で計画し、斐伊川（中海）合流点における計画高水を $160\text{m}^3/\text{s}$ と定めている。

吉田川の洪水対策としては、洪水の安全な流下を図るため河道の拡幅、堀削を行うとともに護岸を施工する。

吉田川整備計画目標流量図を図 - 3.2 に示す。

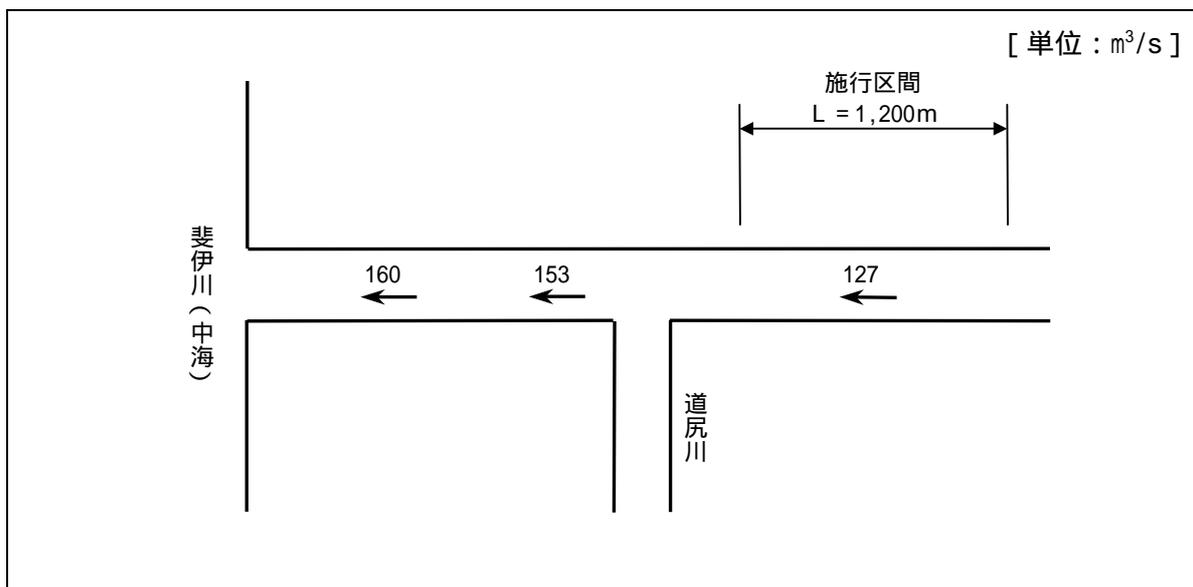


図 - 3.2 吉田川整備計画目標流量図

木戸川の河道改修

木戸川は昔から洪水が多発する河川で、昭和 39 年 7 月に浸水家屋 362 戸、昭和 47 年 7 月に浸水家屋 78 戸などといった洪水の被害を受けている。近年でも、平成 5 年 9 月、平成 7 年 7 月、平成 9 年 6 月などに農地の浸水被害を受けている。

木戸川の河川改修は、平成 2 年に局部改良事業が策定され、平成 12 年に完了している。また、平成 4 年から小規模河川改修事業が着工され、平成 9 年に木戸川全体計画の認可を受けている。

木戸川の治水計画は、等価粗度法により計画雨量 223mm(24 時間雨量、グンベル法) 確率 : 1 / 30 で計画し、斐伊川(中海)合流点における基本高水を $82\text{m}^3/\text{s}$ と定めている。

吉田川の洪水対策としては、暫定改修として、概ね 2 年に 1 回の確率で発生する洪水 (斐伊川(中海)合流点 $25\text{m}^3/\text{s}$) の安全な流下を図るため河道の拡幅、堀削を行うとともに護岸を施工する。

木戸川整備計画目標流量図を図 - 3.3 に示す。

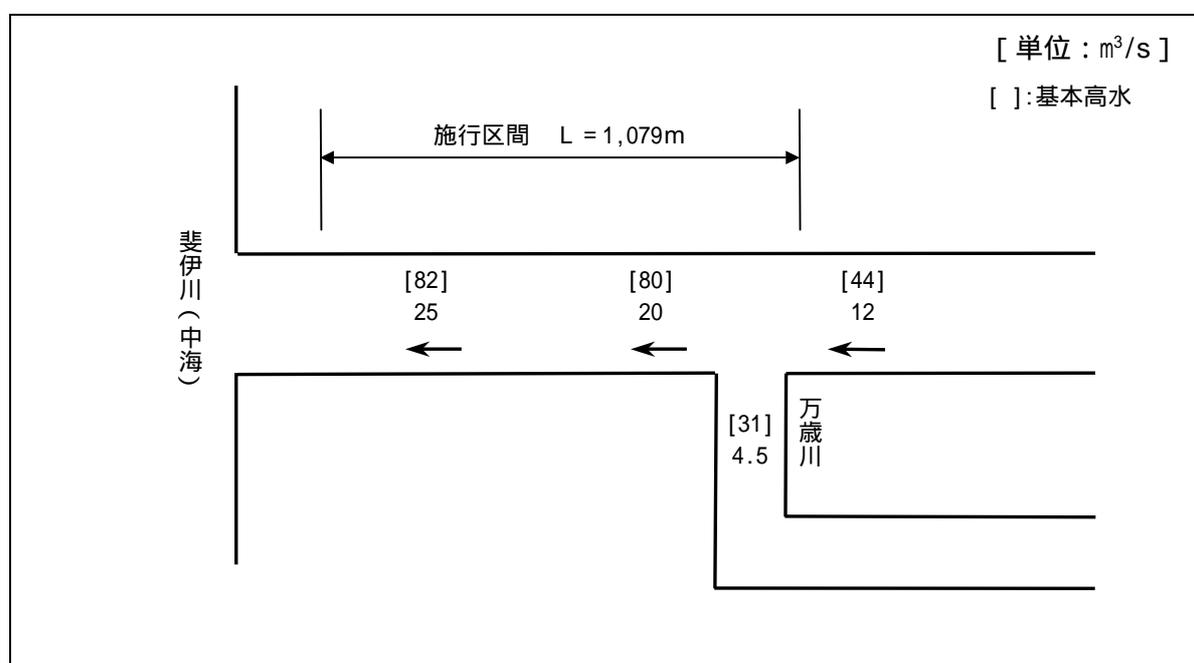


図 - 3.3 木戸川整備計画目標流量図

【付属資料】

木戸川の下流部は、市役所を中心とした安来市の中心市街地を貫流しており、計画規模 1/30 の安全度を確保するために、現河道の拡幅方式のみで対応するには、移転家屋が膨大な数となり、社会的影響が大きくなる。

木戸川の将来計画として、上流部において遊水地 + ポンプ排水または新川開削等の放水路方式と現河道の拡幅の組み合わせにより、計画高水に対応することが構想されている。

将来計画の流量配分図（ポンプ案）を図 - 3.4 に示す。

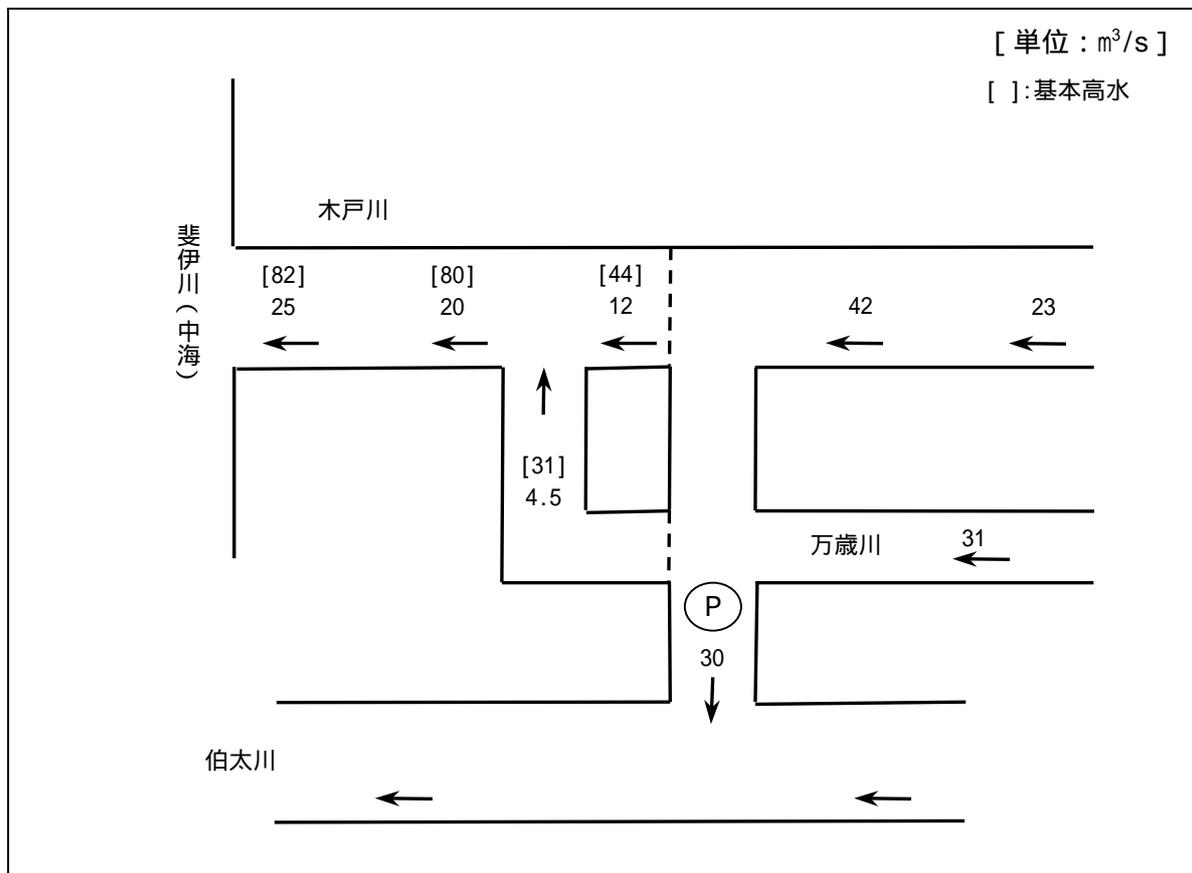


図 - 3.4 木戸川流量配分図（将来計画）

田頼川の河道改修

田頼川は昔から洪水が多発する河川で、昭和 39 年 7 月に浸水家屋 409 戸、昭和 47 年 7 月に浸水家屋 55 戸などといった洪水の被害を受けている。近年でも、平成 5 年 9 月、平成 7 年 7 月、平成 9 年 6 月などに農地の浸水被害を受けている。

昭和 47 年に田頼川全体計画の策定を行っている。

田頼川の治水計画は、合理式法により計画雨量 44mm（1 時間雨量、トーマス法による降雨強度式）、確率：1/30 で計画し、斐伊川（中海）合流点における計画高水を $180\text{m}^3/\text{s}$ と定めている。

田頼川の洪水対策としては、洪水の安全な流下を図るため河道の拡幅、堀削を行うとともに護岸を施工する。

田頼川整備計画目標流量図を図 - 3.5 に示す。

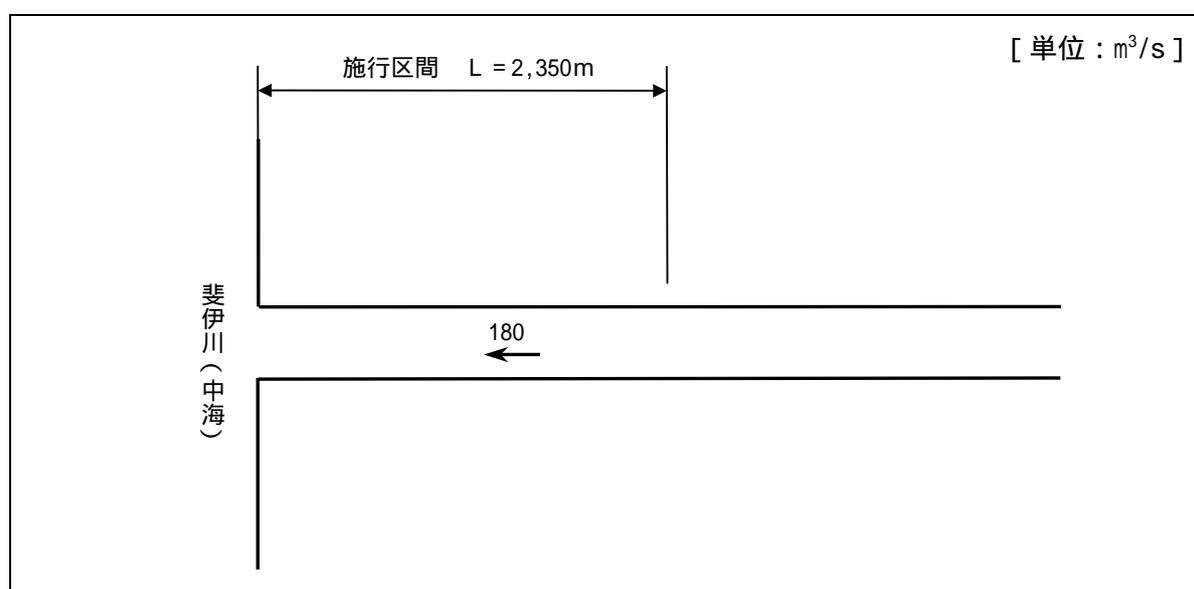


図 - 3.5 田頼川整備計画目標流量図

【付属資料】

(2) 被災写真

昭和 39 年 7 月 18 日から 19 日にかけての山陰豪雨により、田頼川、吉田川などの中小河川が氾濫し、各地で山崩れが発生した。

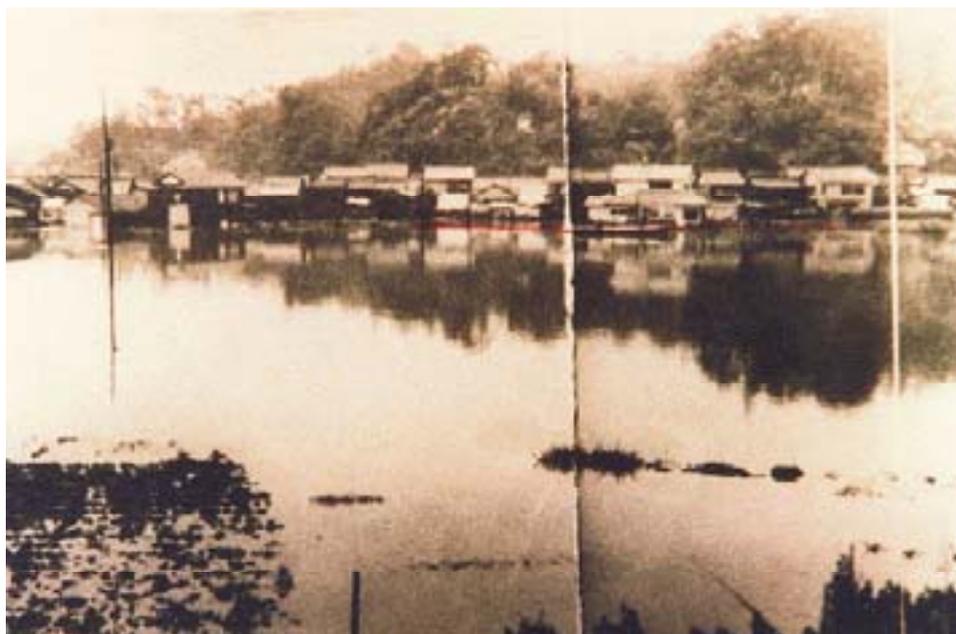


木戸川が氾濫して浸水した商店街

出典：安来市「やすぎ図鑑 - 安来市制 50 周年記念写真集」



昭和 39 年 7 月洪水による木戸川の氾濫



昭和 39 年 7 月洪水による木戸川の氾濫



昭和 39 年 7 月洪水による木戸川の氾濫

昭和 47 年 7 月 9 日から 14 日までの梅雨前線の停滞により、松江气象台で総雨量 475mm を記録するなど、島根県全域で記録的な豪雨に見舞われた。



津田平川の氾濫による浸水

出典：安来市「やすぎ図鑑 - 安来市制 50 周年記念写真集」

昭和 50 年 8 月の局地雷雨による洪水では安来市広瀬町で 237mm を記録し、吉田川等の中小河川が氾濫し、家屋の床下浸水、田畑の冠水被害があった。



吉田川の氾濫（安来市折坂町）

出典：建設省中国地方建設局「中国地方の水害」

(3) 治水事業実施状況

中海支川域での主な河川改修事業を表 - 3.3 に示す。

表 - 3.3 主な河川改修事業一覧表

事業名	事業期間	番号	河川名	改修区間			計画規模	対象流量 (m ³ /s)
				下流端	上流端	延長 (km)		
中小河川改修事業 (広域基幹河川改修事業)	S41 ~		飯梨川 (広瀬)	安来市赤江町	広瀬町広瀬	14.374	1/80	(1960) 1500
小規模河川改修事業 (広域一般河川改修事業)	S56 ~		飯梨川 (布部)	広瀬町布部	広瀬町布部	2.730	1/80	(840) 495
河川局部改良事業	S39 ~ S47		伯太川	伯太町母里	伯太町東母里	0.900	広瀬 S34.8 波形	590
小規模河川改修事業	S55 ~ H12		伯太川	伯太町東母里	伯太町日次	2.350	約1/7	590
中小河川改修事業 (広域基幹河川改修事業)	S27 ~		吉田川	安来市飯島町	安来市折坂町	8.030	1/10	160
小規模河川改修事業 (広域一般河川改修事業)	S47 ~		田頼川	安来市荒島町	安来市荒島町	2.350	1/30	180
河川局部改良事業	S62 ~		道尻川	安来市赤碕町	安来市利弘町	1.050	1/10	30
小規模河川改修事業	S36 ~ S41		祖父谷川	広瀬町広瀬	広瀬町広瀬	0.808	約1/20	47
河川局部改良事業	S36 ~ S45		久白川	安来市荒島町	安来市荒島町	0.660	-	17.5
河川緊急対策事業	H11 ~ H16		津田平川	安来市西赤江町	安来市西赤江町	0.500	1/10	46
河川緊急対策事業	H11 ~ H17		新宮川	広瀬町富田	広瀬町富田	0.650	1/10	50
河川緊急対策事業	H13 ~ H15		蕪谷川	広瀬町下山佐	広瀬町下山佐	0.400	1/3	27
河川局部改良事業	S50 ~ S56		山佐川	広瀬町下山佐	広瀬町下山佐	0.920	1/80	(620) 400
河川局部改良事業	S60 ~ H10		山佐川	広瀬町下山佐	広瀬町下山佐	1.233	1/80	360
小規模河川改修事業	S41 ~ S46		安田川	安来市宇賀荘町	安来市清瀬	1.525	母里 S34.8 実績	110
河川局部改良事業	S58 ~ H12		安田川	伯太町安田	伯太町安田中	1.470	1/1	35
河川局部改良事業	S49 ~ S54		安田川	伯太町安田宮内	伯太町安田関	1.230	1/1	20
小規模河川改修事業 (広域一般河川改修事業)	H4 ~		木戸川	安来市安来町	安来市安来町	1.079	約1/2	25
河川局部改良事業	H2 ~ H11		木戸川	安来市安来町	安来市佐久保町	0.954	約1/2	12
鉄道橋 - 道路橋緊急 対策事業	H16 ~		田頼川	安来市赤江町 安来市西赤江町	安来市赤江町 安来市西赤江町	0.060	1/30	180
河川局部改良事業	S40 ~ H12	(21)	須田川	東出雲町出雲郷	東出雲町須田	2.200	1/30	80

注1：対象流量の()は基本高水

注2：改修区間の地先については、2004.10.1 安来市合併前の市町村名を記載しています。

事業区間を図 - 3.6 に示す。

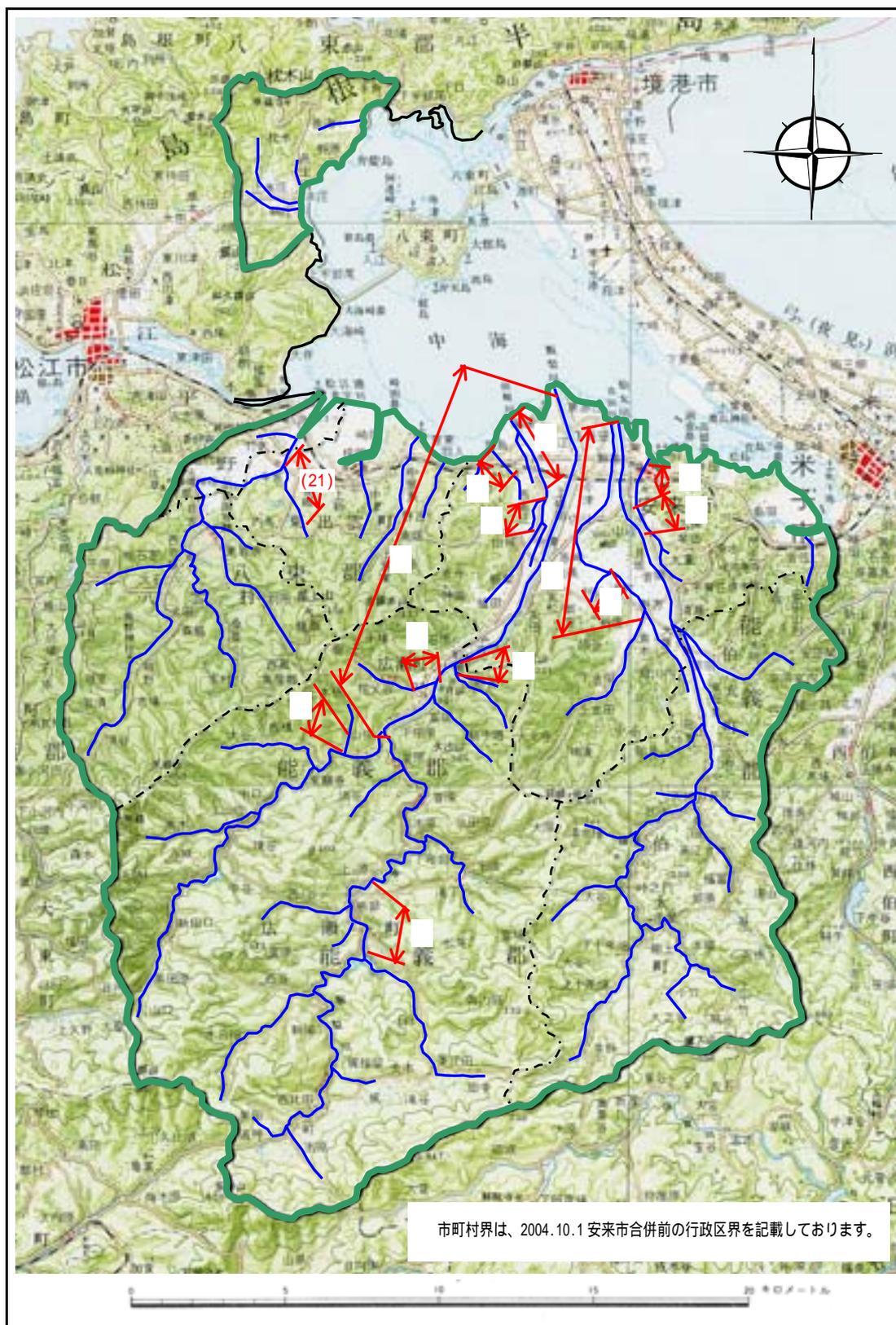


図 - 3.6 主な河川改修事業位置図

(4) 河川整備状況写真

1) 飯梨川

飯梨川上流工区（安来市広瀬町布部）の整備状況を写真 - 3.1 に示す。緩傾斜落差工など多自然型になっている。

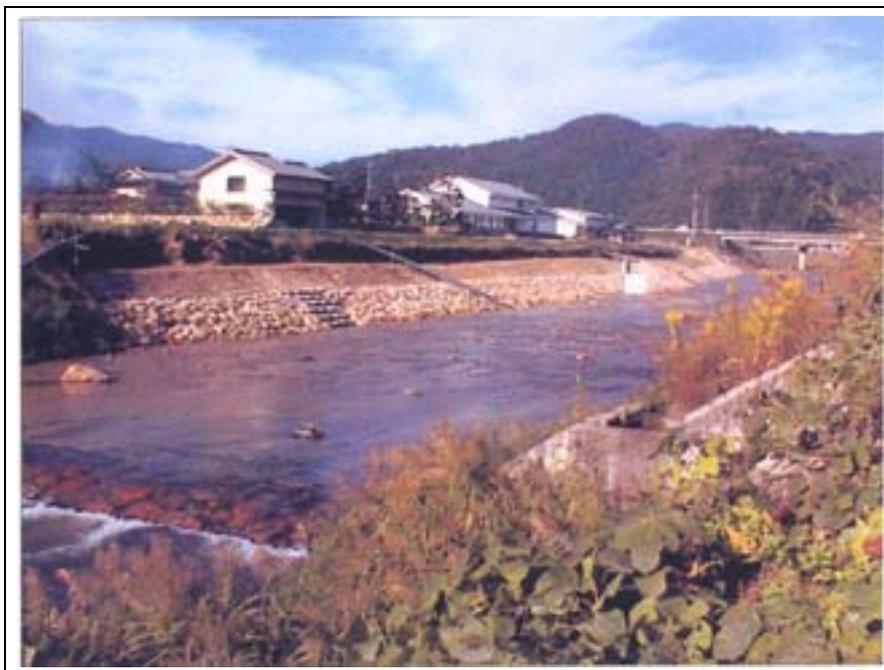


写真 - 3.1 飯梨川上流工区

飯梨川中流の月山周辺は、周辺地域の整備にあわせて、「ラブリバー区間」の認定を受け、道の駅「広瀬(ひろせ)・富田城(とだじょう)」の近くでは、自然の石を使って川岸や水際を整備している。整備状況を写真 - 3.2～3.6 に示す。



写真 - 3.2 飯梨川（富田橋より下流）



写真 - 3.3 飯梨川（ラブリバー区間）



写真 - 3.4 飯梨川（ラブリバー区間）



写真 - 3.5 飯梨川（ラブリバー区間：魚道左岸）

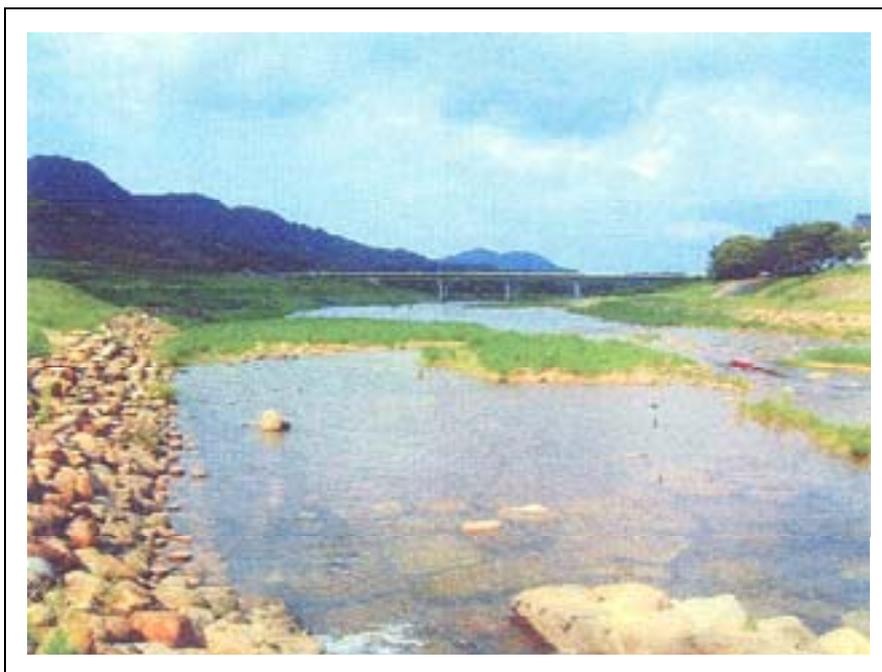


写真 - 3.6 飯梨川（ラブリバー区間：魚道左岸）

飯梨川下流区間の整備状況を写真 - 3.7 ~ 3.9 に示す。



写真 - 3.7 飯梨川 (新宮橋より上流)



写真 - 3.8 飯梨川 (太平寺橋より下流)



写真 - 3.9 飯梨川（飯梨橋下流）

山佐川の常願寺せせらぎ公園の整備状況を写真 - 3.10 に示す。



写真 - 3.10 山佐川（常願寺せせらぎ公園付近）

布部ダムの写真を写真 - 3.11 に示す。



写真 - 3.11 布部ダム（下流面）

ダム・貯水池諸元表

目的		洪水調節、水道用水、工業用水、発電	
集水面積		70.0km ²	
ダム諸元	型式	重力式コンクリートダム	
	堤高	55.9m	
	堤頂長	190.0m	
	堤体積	125,200m ³	
	ダム天端高	EL.197.9m	
貯水池諸元	ダム湖名	白樺湖（しろつばきこ）	
	湛水面積	0.386km ²	
	水面標高	サーチャージ水位	EL.196.6m
		常時満水位	EL.194.6m
	総貯水容量	7,100,000m ³	
	有効貯水容量	5,000,000m ³	
利用水深	16.4m		

山佐ダムの写真を写真 - 3.12 に示す。



写真 - 3.12 山佐ダム（下流面）

ダム・貯水池諸元表

目的		洪水調節、水道用水	
集水面積		19.2km ²	
ダム諸元	型式	重力式コンクリートダム	
	堤高	56.0m	
	堤頂長	220.0m	
	堤体積	115,400m ³	
	ダム天端高	EL.211.0m	
貯水池諸元	ダム湖名	山美湖（やまびこ）	
	湛水面積	0.280km ²	
	水面標高	サーチャージ水位	EL.207.0m
		常時満水位	EL.191.2m
	総貯水容量	5,050,000m ³	
	有効貯水容量	4,450,000m ³	
利用水深	9.8m		

【付属資料】

2) 吉田川

吉田川の整備状況を写真 - 3.13 及び 3.14 に示す。



写真 - 3.13 吉田川（沢河道堰）



写真 - 3.14 吉田川（ながどうろ橋の下流）

3) 木戸川

木戸川（安来市宮内地内）の整備状況を写真 - 3.15 及び 3.16 に示す。



写真 - 3.15 木戸川（下流工区）



写真 - 3.16 木戸川（上流工区）

(5) 主要地点の流況

山佐ダム地点の昭和 56 年～平成 15 年までの 24 年間の河川流況を表 - 3.4(1)に、布部ダム地点の昭和 44 年～平成 15 年までの 36 年間の河川流況を表 - 3.4(2)示し、流量観測所の位置図を図 - 3.7 に示す。

表 - 3.4(1) 山佐ダム地点流況 (単位：m³/s)

年	豊水	平水	低水	渇水	最小	年平均
S56	1.26	0.85	0.65	0.51	0.21	1.13
S57	0.87	0.65	0.52	0.35	0.00	0.83
S58	1.21	0.85	0.72	0.51	0.00	1.18
S59	0.95	0.88	0.31	0.16	0.00	0.84
S60	1.40	0.92	0.73	0.28	0.00	1.27
S61	1.20	0.85	0.63	0.33	0.00	1.10
S62	1.38	1.00	0.81	0.54	0.11	1.22
S63	1.40	1.13	0.92	0.81	0.23	1.29
H1	1.95	1.37	1.07	0.77	0.00	1.67
H2	1.85	1.35	0.95	0.17	0.00	1.43
H3	1.55	1.25	0.83	0.75	0.54	1.25
H4	1.20	0.75	0.53	0.39	0.14	0.97
H5	1.58	1.12	0.84	0.67	0.11	1.47
H6	1.09	0.64	0.49	0.15	0.11	0.87
H7	1.20	0.85	0.71	0.50	0.00	1.07
H8	1.05	0.77	0.63	0.51	0.00	0.96
H9	1.38	0.97	0.77	0.64	0.00	1.35
H10	1.34	1.06	0.81	0.62	0.00	1.22
H11	1.07	0.79	0.68	0.60	0.00	1.02
H12	1.10	0.80	0.63	0.26	0.00	0.94
H13	1.21	0.93	0.73	0.54	0.08	1.07
H14	1.12	0.69	0.40	0.27	0.00	0.82
H15	1.40	1.03	0.75	0.46	0.03	1.19
平均 (S56～H15)	1.294	0.935	0.700	0.469	0.068	1.137
最近 10 年 平均 (H6～H15)	1.196	0.853	0.660	0.455	0.022	1.051

【備考】

豊水：1 年を通じて 95 日はこれを下らない流量
 平水：1 年を通じて 185 日はこれを下らない流量
 低水：1 年を通じて 275 日はこれを下らない流量
 渇水：1 年を通じて 355 日はこれを下らない流量
 最小：1 年を通じて最小の流量
 年平均：日平均流量の 1 年の総計を当年日数で除した流量

表 - 3.4(2) 布部ダム地点流況 (単位: m³/s)

年	豊水	平水	低水	渇水	最小	年平均
S44	3.61	2.49	1.55	1.00	0.50	3.18
S45	3.33	2.50	1.92	1.40	0.50	3.16
S46	3.38	2.35	1.63	1.05	0.17	3.69
S47	3.62	2.72	1.98	1.29	0.70	4.10
S48	2.48	1.38	0.86	0.54	0.48	1.86
S49	2.60	1.75	1.20	0.70	0.33	2.16
S50	3.53	2.72	2.07	1.22	0.62	3.44
S51	3.53	2.58	1.84	0.92	0.21	3.27
S52	2.90	1.94	1.40	0.85	0.28	2.58
S53	2.81	1.75	1.09	0.71	0.15	2.42
S54	3.01	2.15	1.69	0.93	0.24	2.84
S55	3.98	3.17	2.29	1.57	0.15	3.82
S56	3.60	3.39	2.58	1.19	0.19	3.13
S57	2.72	2.02	1.50	0.81	0.00	2.55
S58	3.55	2.44	1.95	1.18	0.00	3.61
S59	2.60	1.80	1.08	0.63	0.00	2.47
S60	4.04	2.48	1.95	1.08	0.00	3.94
S61	3.03	2.20	1.28	0.84	0.05	3.04
S62	3.46	2.46	1.76	0.96	0.00	3.09
S63	3.51	2.48	1.94	1.53	0.00	3.11
H1	5.07	3.03	2.19	1.28	0.42	4.32
H2	4.04	3.05	1.93	0.74	0.00	3.54
H3	4.21	3.02	2.04	1.47	0.00	3.67
H4	3.43	2.24	1.51	0.96	0.00	2.75
H5	4.53	3.06	2.17	1.31	0.00	4.20
H6	2.97	1.58	1.11	0.42	0.00	2.28
H7	3.30	2.29	1.65	1.01	0.00	2.96
H8	2.96	2.16	1.54	0.95	0.00	2.69
H9	3.94	2.66	2.13	1.25	0.17	4.15
H10	3.55	2.60	1.84	1.22	0.00	3.32
H11	2.85	1.94	1.53	1.20	0.00	2.69
H12	3.16	2.18	1.43	0.71	0.00	2.79
H13	3.51	2.66	2.01	1.29	0.00	3.26
H14	3.40	2.12	1.34	0.84	0.00	2.59
H15	4.37	3.30	2.28	1.43	0.00	4.24
平均 (S44~H15)	3.445	2.419	1.722	1.042	0.147	3.169
最近10年 平均 (H6~H15)	3.401	2.349	1.686	1.032	0.017	3.097

【備考】

豊水：1年を通じて95日はこれを下らない流量
 平水：1年を通じて185日はこれを下らない流量
 低水：1年を通じて275日はこれを下らない流量
 渇水：1年を通じて355日はこれを下らない流量
 最小：1年を通じて最小の流量
 年平均：日平均流量の1年の総計を当年日数で除した流量

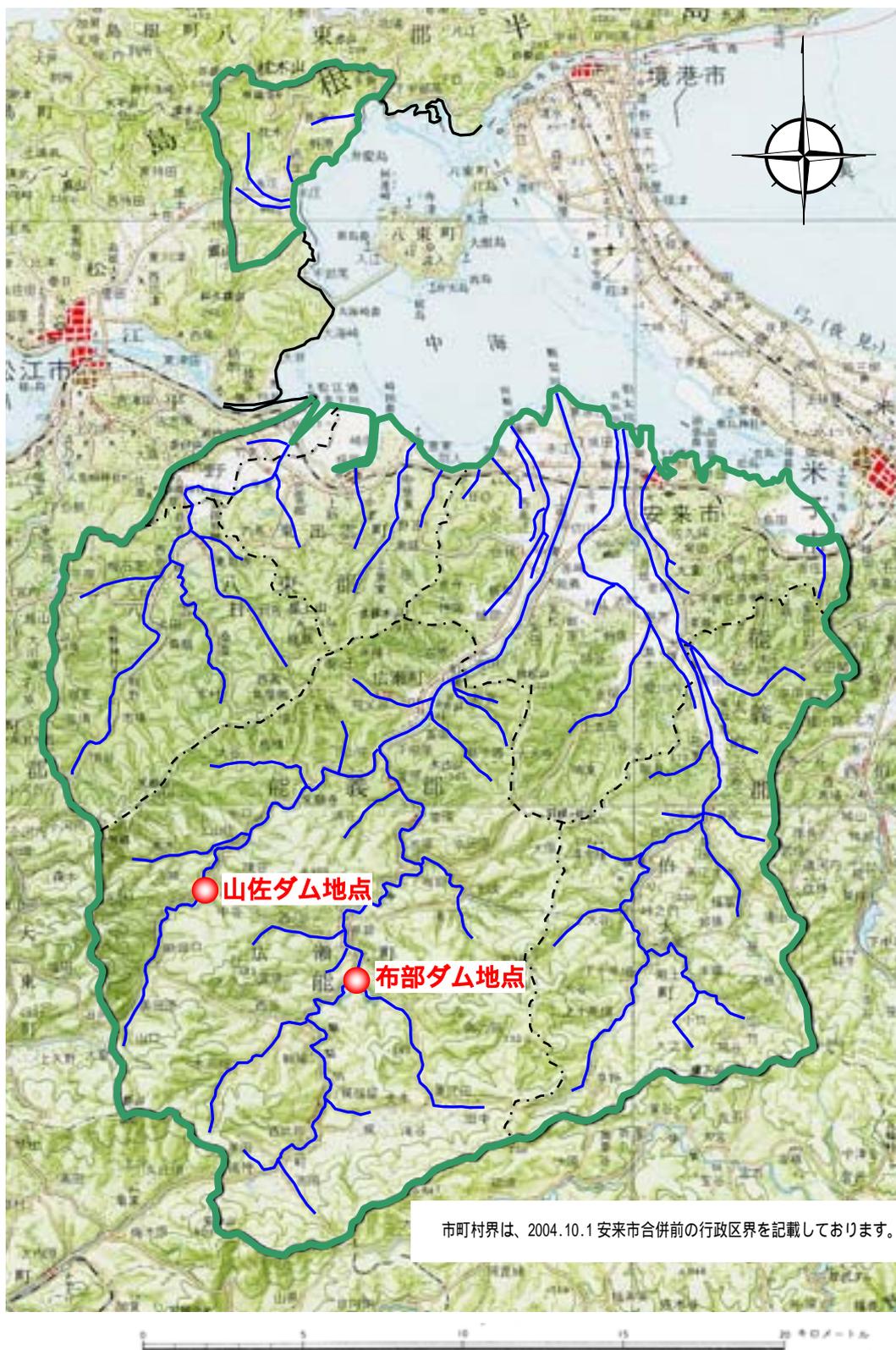
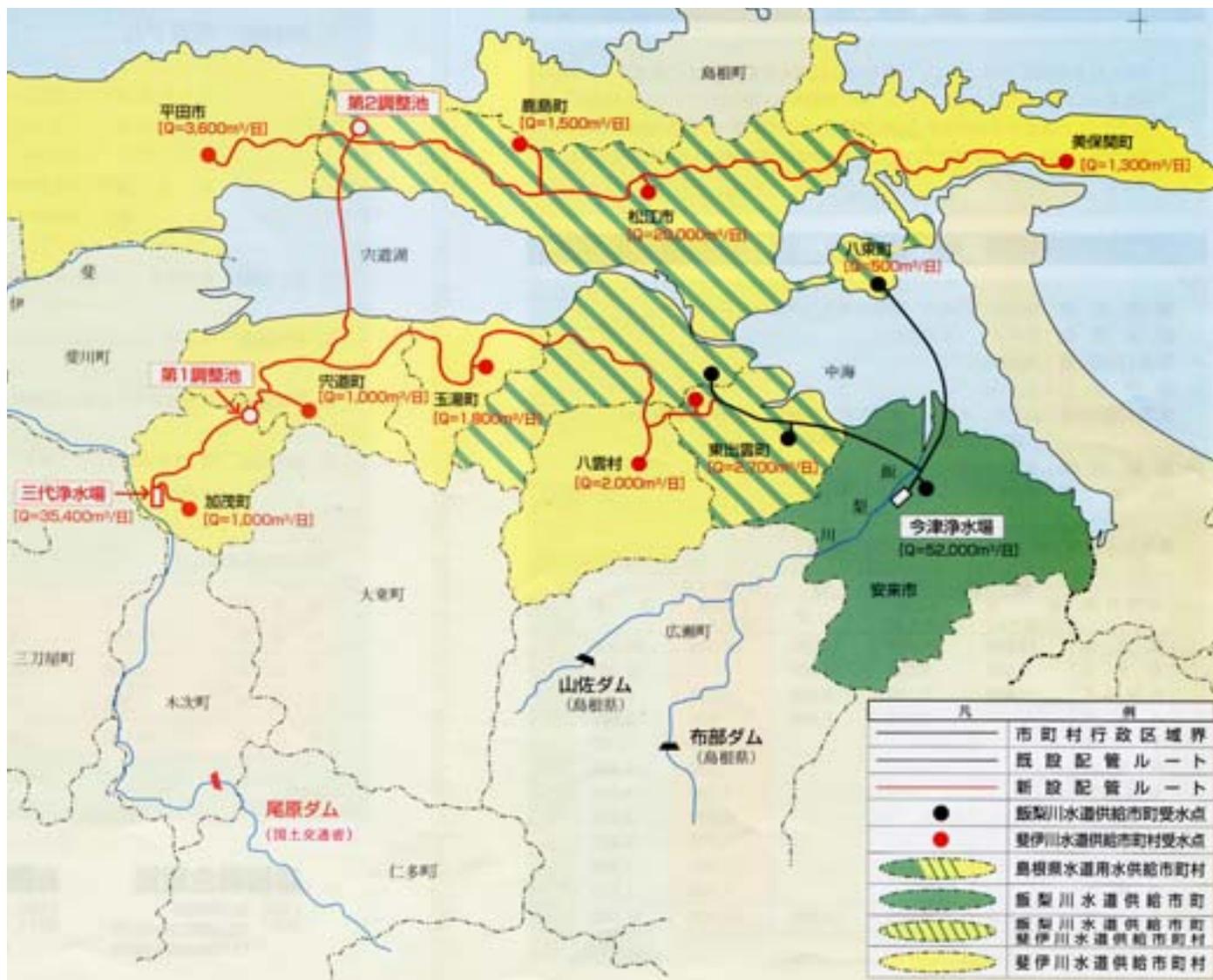


図 - 3.7 流量観測所位置図

(6) 水利用

中海支川域島根県管理区間ではかんがい、水道、工業、発電に利用されている。
 水利用の状況を図 - 3.8 に示す。



出典：「島根県水道用水供給事業（第2次拡張）斐伊川水道建設事業 島根県企業局」

図 - 3.8 島根県水道用水供給事業概要図

【付属資料】

中海支川域の許可水利一覧を表 - 3.5、河川別の慣行水利一覧を表 - 3.6 に示し、許可水利の位置図を図 - 3.9 に示す。

表 - 3.5 許可水利一覧

NO	目的	河川名	用水名	水利使用者名	取水量等 (m ³ /s)	備考
			取水	場所		
1	農業	意宇川		八雲村	0.14186	1.0ha
			八雲村西岩坂日吉黒岩 230 地先			
2	農業	意宇川		八雲村	0.1294	4.5ha
			八雲村元田川原 810 地先			
3	水道	市の原川	意東出雲郷地区簡易水道	東出雲町	0.00683	
			東出雲町			
4	水道	小竹川	小竹地区簡易水道	伯太町	0.002	計画給水人口 530 人
			伯太町大字下小竹 51-3 地先			
5	水道	飯梨川・ 山佐川	島根県水道	島根県(企業局)	0.65	計画給水人口 200000 人
			安来市今津町板餅 8-1 地先ほか			
6	水道	飯梨川	布部地区簡易水道	広瀬町	0.0023	計画給水人口 1100 人
			広瀬町大字布部 2849 地先			
7	水道	飯梨川	西部簡易水道	安来市	0.0185	計画給水人口 5000 人
			安来市上坂田町下前田地内			
8	水道	飯梨川	西比田地区簡易水道	広瀬町	0.0027	計画給水人口 1350 人
			広瀬町西比田 71-1 地先			
9	工業	飯梨川	飯梨川工業水道	島根県(企業局)	0.42	
			安来市今津町字布部の森 128-1 地先ほか			
10	農業	飯梨川	荒島樋	安来市土地改良区	0.459147	229.7ha
			安来市中津町			
11	発電	飯梨川	飯梨第一発電所	島根県(企業局)	3.7	理論水力 3581kw
			広瀬町大字布部			
12	発電	飯梨川	布部発電所	広瀬町農業組合	0.91	理論水力 290kw
			広瀬町大字布部			
13	発電	飯梨川	飯梨第二発電所	島根県(企業局)	3.7	理論水力 1683kw
			広瀬町大字布部			
14	発電	飯梨川	飯梨第三発電所	島根県(企業局)	0.8	理論水力最大 332kw
			広瀬町大字布部 2007-2			
15	水道	伯太川	伯太簡易水道	伯太町	0.004392	計画給水人口 1200 人
			伯太町大字下十年畑 420-2			
16	工業	伯太川	日立金属(株)工業用水	日立金属株式会社	0.07	
			安来市飯島町 830 地先			
17	発電	伯太川	伯太発電所	やすぎ農業共同組合	0.61	理論水力 126kw
			伯太町大字峠の内			

取水場所については、水利権許可証に記載される住所を記載しています。

表 - 3.6 慣行水利一覧

河川	件数	灌漑面積 (ha)	摘要	河川	件数	灌漑面積 (ha)	摘要
御茶屋川	5	49.70		西の谷川	10	10.60	
木戸川	3	27.00		樋の廻川	4	6.30	
万歳川	14	65.50		東比田川	14	21.00	
伯太川	35	1478.48		木呂畑川	14	17.73	
安田川	9	84.00		福留川	なし	なし	
蛇喰川	3	83.06		市原川	なし	なし	
卯月川	9	11.25		黒田川	なし	なし	
三坂川	7	5.75		田頼川	13	349.60	
大平川	なし	なし		赤川	8	86.00	
福富川	24	41.58		津田平川	3	23.25	
清水掻川	10	2.99		赤砂川	なし	なし	
大谷川	7	3.53		久白川	3	30.00	
小竹川	6	19.20		日白川	なし	なし	
久野谷川	13	11.28		羽入川	13	18.11	
吉田川	16	374.64		意東川	42	72.99	
道尻川	2	24.00		市の原川	18	21.67	
庇川	10	34.70		意宇川	11	171.93	
飯梨川 (下流)	15	1284.90	旧安来市	八幡川	なし	なし	
新宮川	なし	なし		須田川	8	111.45	
後谷川	なし	なし		東岩坂川	なし	なし	
塩谷川	23	18.71		川原川	なし	なし	
祖父谷川	22	681.36		桑並川	なし	なし	
山佐川	23	61.65		平原川	なし	なし	
蕪谷川	なし	なし		南川	なし	なし	
奥谷川	18	13.42		本庄川	30	76.43	
高木川	5	4.15		枕木川	なし	なし	
須谷川	なし	なし		長海川	13	29.00	
宇波川	14	20.50					
飯梨川 (上流)	29	1404.97	旧広瀬町	合計	509	6396.0	38河川

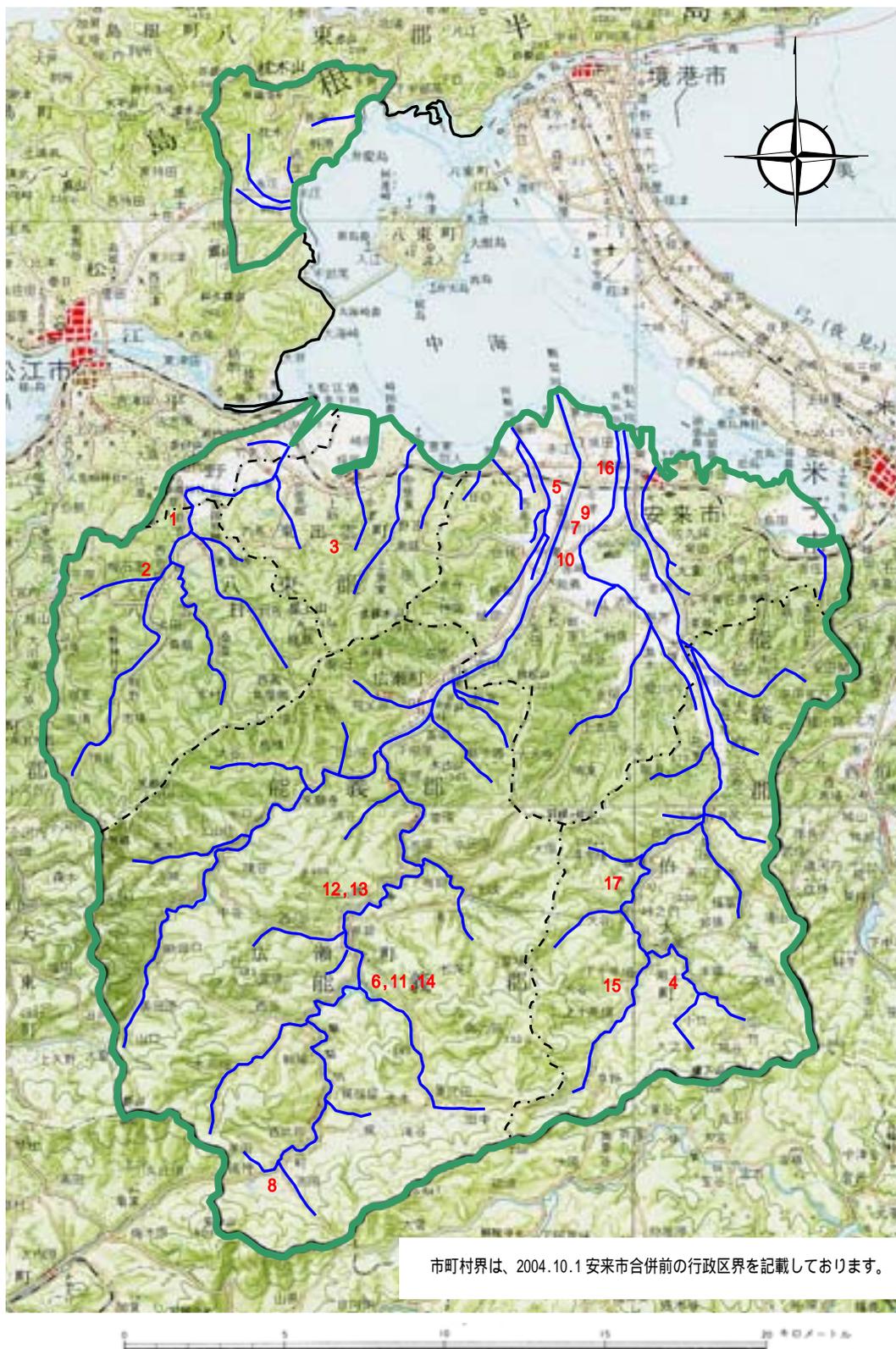


図 - 3.9 中海支川域許可水利取水位置図

(7) 河川環境整備の概要

1) 斐伊川水系河川環境管理基本計画

斐伊川水系河川環境管理基本計画では、以下の3つの基本理念に基づき、斐伊川を4つのブロックに分け、良好な川づくりのための方針を定めている。

河川空間の保全と利用に関する基本理念

神話のふるさと斐伊川・湖畔のやすらぎ

「神話のふるさと」斐伊川

斐伊川が生んだ神話や先人の知恵にふれ、川に学び親しむ心のふるさととなる河川空間を創造する。

「湖畔のうるおい」斐伊川

美しい湖を地域のシンボルとして、うるおいのある湖畔空間を創造する。

「やすらぎの里」斐伊川

豊かな自然を守り、水鳥の渡来する水辺や、人々の憩う河川空間を創造する。

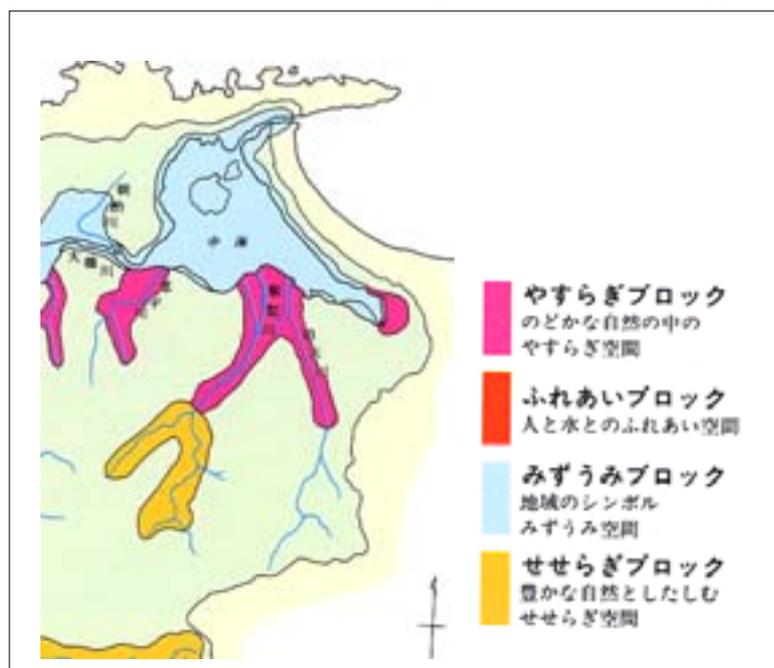


図 - 3.10 斐伊川水系河川環境管理基本計画ブロック図

2) 中海支川域の河川環境整備状況

飯梨川中流の月山周辺は、周辺地域の整備にあわせて、「ラブリバー区間」の認定を受け、自然の石を使って川岸や水際を整備しており、人々の憩いの場となっている。

また、安来市伯太町井尻小学校前の伯太川を水辺の楽校に登録・整備し、子供たちと自然のふれあい、学習の場として利用されている。

木戸川下流の安来市民会館周辺は、子ども達が安心して水辺に親しむことができるように、水辺の楽校の整備を河川改修と一体となって実施している。

その他、八束郡八雲町日吉地先の意宇川右岸に日吉親水公園、安来市広瀬町広瀬地先の飯梨川左岸に三日月公園などが整備されている。

河川空間整備状況を図 - 3.11 に示す。

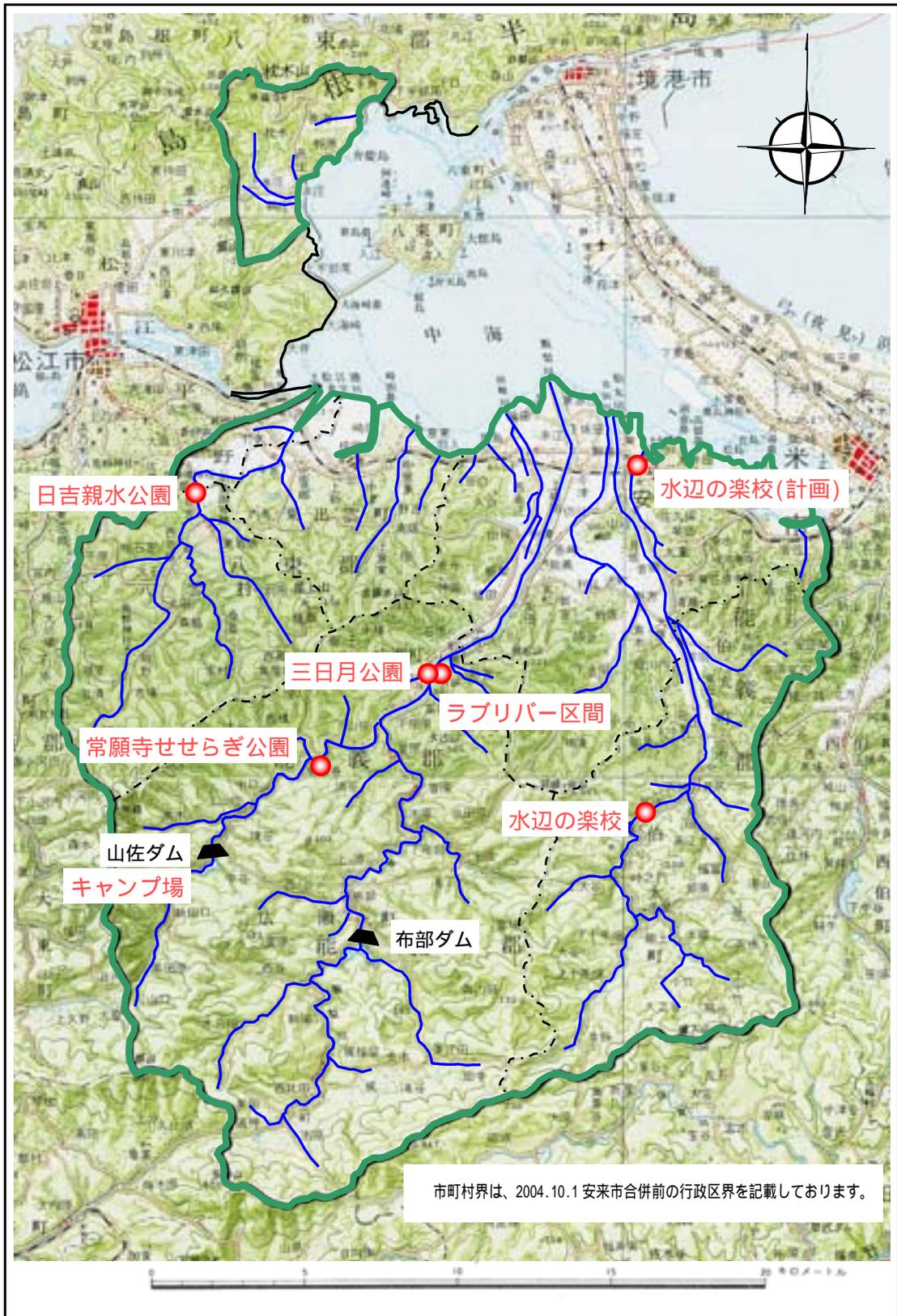


図 - 3.11 主な河川空間整備事業位置図

(8) 河川水質

中海支川域の水質は、BOD75%値は概ね2.0mg/l以下で良好である。なお、一般的な水質汚濁項目のうち代表的指標のBOD（生物化学的酸素要求量）とは、水中のバクテリアが分解する時消費する酸素の量を示し、主として河川の汚れを表す。

中海支川域で実施された水質調査位置を図-3.12に示す。

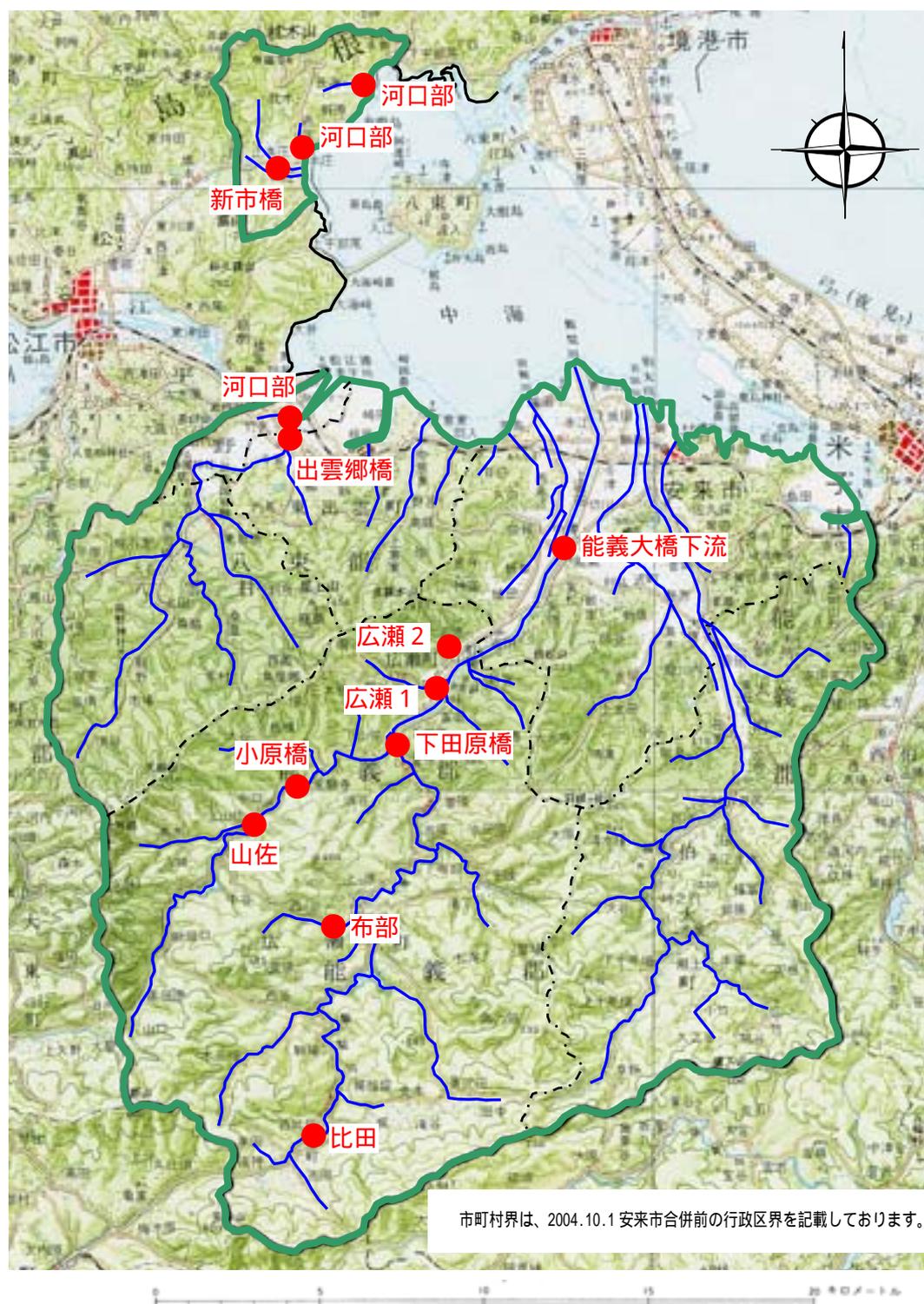


図 - 3.12 水質調査位置

中海支川域におけるBOD75%値の推移を図-3.13に示し、観測結果を表-3.7に示す。

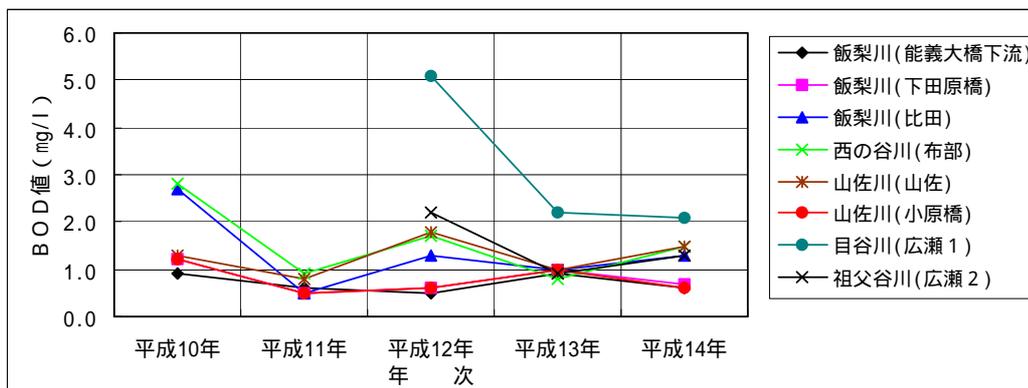


図-3.13(1) BOD (生物化学的酸素要求量) 75%値の推移 (飯梨川水系)

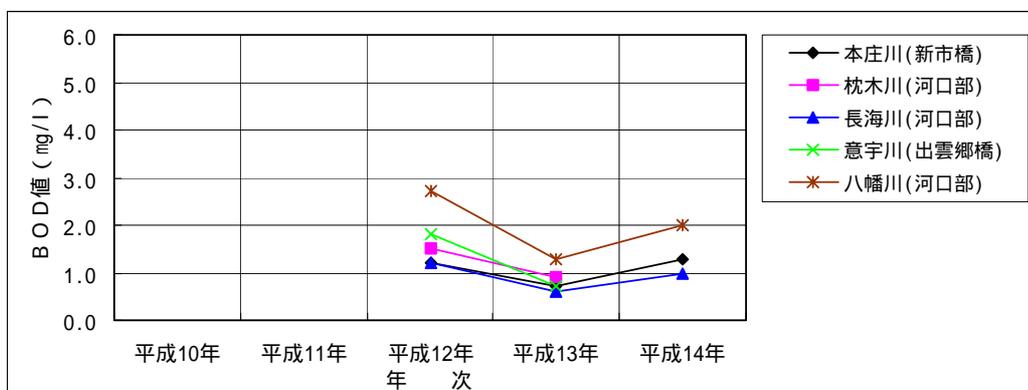


図-3.13(2) BOD (生物化学的酸素要求量) 75%値の推移

表-3.7 水質調査結果 (BOD75%値)

単位: mg/l

河川名	地点名	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
飯梨川	能義大橋下流	0.9	0.6	0.5	0.9	0.6
	下田原橋	1.2	0.5	0.6	1.0	0.7
	比田	2.7	0.5	1.3	1.0	1.3
西の谷川	布部	2.8	0.9	1.7	0.8	1.5
山佐川	山佐	1.3	0.8	1.8	1.0	1.5
	小原橋	1.2	0.5	0.6	1.0	0.6
目谷川	広瀬1	-	-	5.1	2.2	2.1
祖父谷川	広瀬2	-	-	2.2	0.9	1.3
意宇川	出雲郷橋	-	-	1.8	0.7	-
八幡川	河口部	-	-	2.7	1.3	2.0
本庄川	新市橋	-	-	1.2	0.7	1.3
枕木川	河口部	-	-	1.5	0.9	-
長海川	河口部	-	-	1.2	0.6	1.0

表 - 3.8 生活環境の保全に関する環境基準(河川)

項目 類型	利用目的 の適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級 自然環境保全 およびA以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/l以下	25mg/l以下	7.5mg/l以上	50MPN/100ml 以下
A	水道2級 水産1級 水浴 およびB以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/l以下	25mg/l以下	7.5mg/l以上	1000MPN/100 ml以下
B	水道3級 水産2級 およびC以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/l以下	25mg/l以下	5mg/l以上	5000MPN/100 ml以下
C	水産3級 工業用水1級 およびD以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/l以下	50mg/l以下	5mg/l以上	-
D	工業用水2級 農業用水 およびE以下の 欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/l以下	100mg/l以下	2mg/l以上	-
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/l以下	ゴミ等の浮遊 が認められな いこと。	2mg/l以上	-
<p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの。 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの。 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの。 3 水産1級：ヤマ、イナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用。 水産2級：サケ、マス等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用。 水産3級：コイ、フナ等、中腐水性水域の水産生物用。 4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄化操作を行うもの。 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄化操作を行うもの。 工業用水3級：特殊の浄化操作を行うもの。 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度。 						

出典：「公共用水域水質測定結果報告書 島根県」

表 - 3.9 河川環境指標の評価と相関

水質汚濁階級 1 指標項目		貧腐水性 oligosaprobic (os) きれいな水		-中腐水性 -mesosaprobic (m) 少しよごれた水		-中腐水性 -mesosaprobic (m) きたない水		-強腐水性 -polysaprobic (p) 強腐水性		-強腐水性 -polysaprobic (p) Polysaprobic 大変きたない水		
		BOD (mg/l)		2.0~5		5~10		10~50		50<		
生活環境基準	類型	AA	A	B	C	D	E					
	BOD (mg/l)	<1	<2	<3	<5	<8	<10					
	SS (mg/l)	<25	<25	<25	<50	<100	<100	ごみなどの浮遊物が認められないこと。				
	DO (mg/l)	>7.5	>7.5	>5	>5	>2	>2					
	大腸菌群数 MPN/100ml	<50	<1,000	<5,000	-	-	-					
魚類												
昆虫類	水生昆虫20種以上 ヒラタカゲ、ロウ、タコガ、ワカ、ウツの5種以上		ヒゲカ、カビ、ケラが多い			コガ、タシ、ヒメカ、ヒラ外		シオカ、トンホ、チョウバ、ハナアブ		ユスリカ幼虫(赤)		
貝類			カニナ		マルタニシ、モリアガイ		ヒメタニシ		サマカガイ		ヒメノアラガイ	
甲殻類	ツガニ、コヒ		スジ、ヒ		ミムシ、ザリガニ							
ヒル・ミズ	プナリア						シマイビル				イトミズ	
水草	ハイモ、セキショウモ、ネジレモ		サハモ		クモ、センニンモ、ヒモ、イトナギモ		クモ					
細菌							スファエロバクテリウム(ミズワタ)		ベキアア			
一般細菌数 (1ml 当り)	<100		<10,000		<100,000		<1,000,000					
底泥	ほとんど酸化されている。						硫化鉄が酸化されて水酸化鉄となり、黒色ではない。H ₂ S臭はない。		黒色の硫化鉄が存在する。強いH ₂ S臭がある。			
藻類	付着藻類は多い。		けい藻、緑藻の多くの種類が出現。				らん藻、緑藻、けい藻などが大量に発生		けい藻、緑藻などは出現しない。			
原生動物	鞭毛虫類、繊毛虫類が少数現れるのみ。								鞭毛虫類、繊毛虫類が大量に出現。			
後生動物	水生昆虫幼虫の種類が多い。		貝類、小型甲殻類、水生昆虫幼虫、魚類も多く種類出現。				貝類、甲殻類、昆虫幼虫が出現。イ、フ、ナマ、などはここにも生息。		輪虫など少数出現するが、小型甲殻類、貝類、魚類は生息しない。			

注) 1 生物学的水質階級：生物相の変化や個々の生物の汚濁に対する耐性等を考慮した水質の有機汚濁の段階区分。

参考文献 「土木技術者の陸水環境調査法」 森北出版(株)
「水生生物による水質の調査法」 環境庁水質保全局

参考・引用文献（順不同）

- ・「河川六法 監修/建設省河川局（1998年10月22日）」：（株）大成出版社
- ・「島根の気象百年 監修/松江地方気象台,浜田測候所（平成5年7月1日）」：（財）日本気象協会松江支部
- ・「気象年報（水文気象）（昭和36年～平成15年）」：松江地方気象台,（財）日本気象協会松江支部
- ・「アメダス観測年報 編集/気象庁（平成10年～平成15年）」：（財）気象業務支援センター
- ・「水害統計（昭和37年～平成13年）」：建設省・国土交通省
- ・「新編 島根県地質図（1997年）」：島根県地質図編纂委員会
- ・「島根県現存植生図（1982年,1986・87年）」：環境庁（現環境省）
- ・「環境庁レッドリスト」：環境庁（現環境省）
- ・「改訂 しまねレッドデータブック（平成16年3月）」：島根県
- ・「河川調査報告書（1991年）」：島根県
- ・「平成10年度 荒廃砂防 渓流環境整備計画策定業務報告書」：島根県
- ・「国勢調査報告書」：総務庁統計局・総務省統計局
- ・「島根県の地名鑑」：島根県総務部地方課
- ・「日本全国河川ルーツ大辞典 監修/池田末則,編著/村石利夫（昭和54年5月15日）」：竹書房
- ・「島根県の文化財（1999年）」：島根県文化財愛護協会編
- ・「増補改訂 島根県遺跡地図（出雲・隠岐編）（2003年3月）」：島根県教育委員会
- ・「島根県公共事業等景観形成指針ガイドプラン」：島根県
- ・「島根県観光動態調査結果表（平成9年～平成13年）」：島根県観光振興課
- ・「島根県土地利用総合規制図（平成11年度版）」：島根県
- ・「やすぎ図鑑 - 安来市制50周年記念写真集」：安来市
- ・「中国地方の水害」：建設省中国地方建設局
- ・「島根県水道用水供給事業（第2次拡張）斐伊川水道建設事業」：島根県企業局
- ・「公共用水域水質測定結果報告書」：島根県
- ・「土木技術者の陸水環境調査法」：森北出版
- ・「水生生物による水質の調査法」：環境庁水質保全局
- ・祖田周氏 所有写真 及び 川上章氏 所有写真
- ・やすぎ節保存会 所有写真：やすぎ節保存会
- ・出雲一宮熊野大社 所有写真：出雲一宮熊野大社
- ・広瀬町観光協会 所有写真：広瀬町観光協会

「本書に掲載した下表の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図、5万分1地形図、2万5千分1地形図を複製したものである。（承認番号 平18 中複 第73号）」

承認図面一覧表

ページ	図番	タイトル
付-8	図-1.2	地勢図
付-9,10	図-1.3	地質図
付-11,12	図-1.4	現存植生図
付-17	表-1.5(1)	河川調査報告書の調査により生息が確認された魚類（位置図）
付-18	表-1.5(2)	渓流環境整備計画報告書で生息生育が確認された動植物（位置図）
付-29	図-2.3	主要文化財位置図
付-31	図-2.4,2.5	遺跡位置図
付-40	図-2.7	観光施設位置図
付-43	図-2.8	土地利用状況図
付-54	図-3.6	主な河川改修事業位置図
付-66	図-3.7	流量観測所位置図
付-70	図-3.9	中海支川域許可水利取水位置図
付-72	図-3.11	主な河川空間整備事業位置図
付-73	図-3.12	水質調査位置図

「本書に掲載した地図は、関係機関の了承を得て複製したものである。」

承認図面一覧表

ページ	図番	タイトル	承認番号等
付-11,12	図-1.4	現存植生図	環境省自然環境局生物多様性センター 環境省承認番号 平成18年6月26日 環生多第91号 出典：島根県現存植生図,1982&1986・87